

### 第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域及びその周囲における自然的状況及び社会的状況（以下「地域特性」という。）について、環境要素の区分ごとに事業特性を踏まえ、「第6章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法」を検討するに当たり必要と考えられる範囲を対象に、入手可能な最新の文献その他の資料により把握した。

#### 3.1 自然的状況

##### 3.1.1 大気環境の状況

###### 1. 気象の状況

対象事業実施区域は鳥取県の東部に位置し、その周囲には南に中国山地が存在している。「千代川水系（下流左岸ブロック）河川整備計画」（鳥取県、平成27年）によると、気候は日本海側型気候区に分類され、積雪の影響により冬季に降水量が多くなるのが特徴である。なお、鳥取地方気象台の平年値（統計期間：1981～2010年）によると、年平均気温は約15.0℃、年間降水量は約1,900mmで、山間部では沿岸部より降水量が多く、気温も低くなっている。

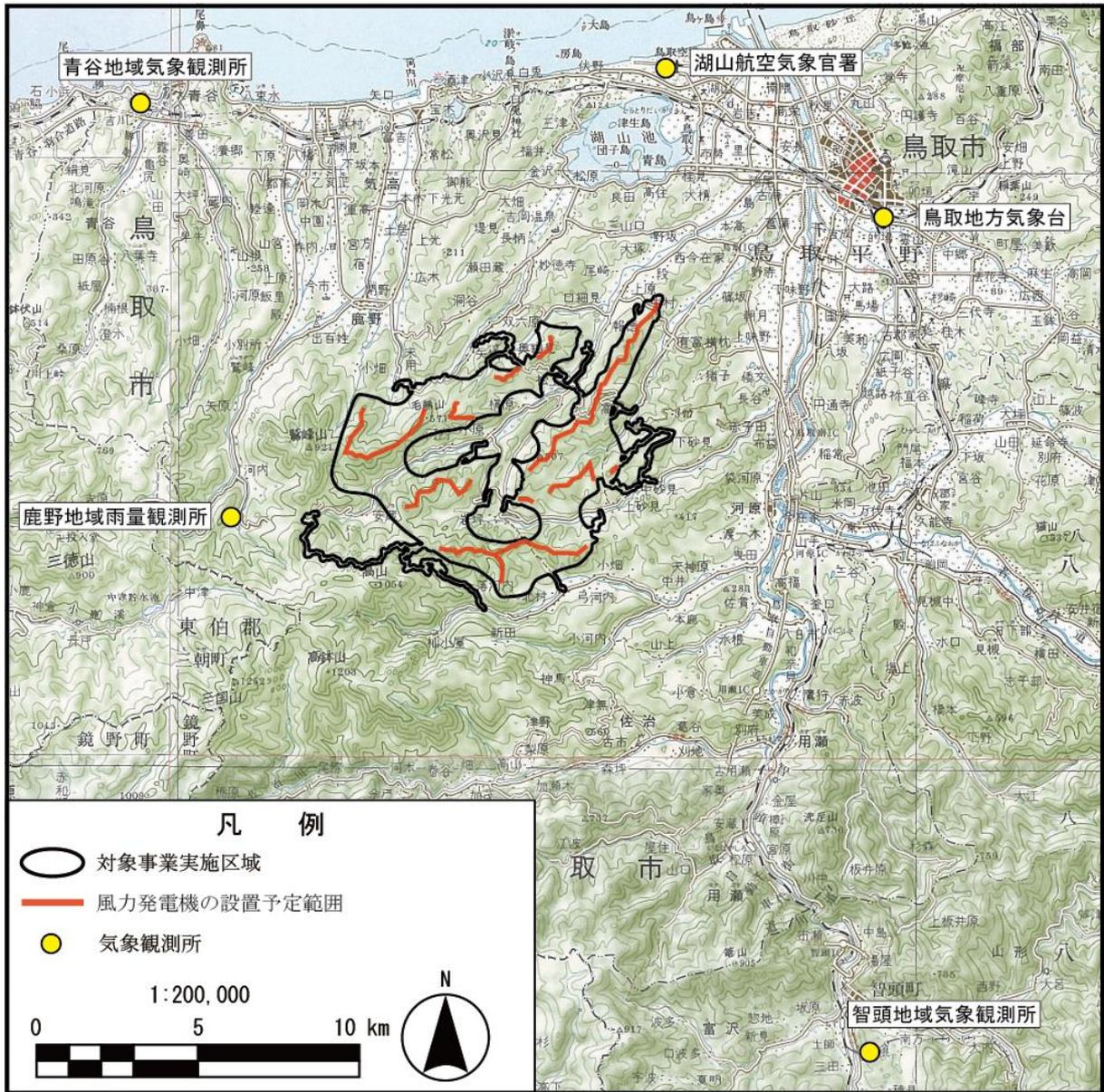
対象事業実施区域の近傍の気象観測所は第3.1-1表及び第3.1-1図のとおりである。

第3.1-1表 対象事業実施区域及びその周囲における気象観測所

観測所名	所在地	緯度経度	海面上の 高さ	風向・風速 計の高さ	観測種目				
					気温	風	降水量	日照	積雪
鳥取地方気象台	鳥取市吉方	緯度 35°29.2' 経度 134°14.3'	7m	33.2m	○	○	○	○	○
青谷地域気象観測所	鳥取市 青谷町青谷	緯度 35°31.2' 経度 133°59.8'	13m	10m	○	○	○	○	—
湖山航空気象官署	鳥取市 湖山町西	緯度 35°31.8' 経度 134°09.9'	15m	10.2m	○	○	○	—	—
鹿野地域雨量観測所	鳥取市 鹿野町河内	緯度 35°24.8' 経度 134°01.0'	210m	—	—	—	○	—	—
智頭地域気象観測所	八頭郡智頭町 智頭沖代	緯度 35°15.8' 経度 134°14.4'	182m	6.5m	○	○	○	○	○

注：「○」は観測が行われていること、「—」は観測が行われていないことを示す。

〔「地域気象観測所一覧（平成29年12月11日現在）」（気象庁、平成29年）  
「鳥取県内の気象観測所」（鳥取地方気象台HP、閲覧：平成29年12月）より作成〕



〔「地域気象観測所一覧（平成 29 年 12 月 11 日現在）」（気象庁、平成 29 年）  
 〔「鳥取県内の気象観測所」（鳥取地方気象台 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成〕

第 3.1-1 図 気象観測所位置

鳥取地方気象台における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-2 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-3 表、風配図は第 3.1-2 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 16.0℃、年間降水量は 1,795.0mm、年平均風速は 2.9m/s、日照時間は 1,713.4h である。また、平成 28 年の風向出現頻度は、年間及び季節別ともに東南東が最も高く、年間の頻度は 25.7% である。

第 3.1-2 表(1) 鳥取地方気象台の気象概況（平年値）

要素名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温 (℃)	14.9	4.0	4.4	7.5	13.0	17.7	21.7	25.7	27.0	22.6	16.7	11.6	6.8
日最高気温 (℃)	19.7	7.7	8.5	12.4	18.7	23.3	26.6	30.4	32.2	27.4	22.0	16.4	11.0
日最低気温 (℃)	10.7	0.8	0.7	2.8	7.5	12.5	17.6	22.1	22.9	18.7	12.3	7.3	3.1
平均風速 (m/s)	3.1	3.3	3.3	3.3	3.4	3.2	2.8	2.7	2.8	2.6	2.8	3.0	3.2
最多風向	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東
日照時間 (時間)	1,663.2	70.2	79.5	124.3	177.3	197.4	158.2	163.0	206.8	139.9	148.5	108.8	89.5
降水量 (mm)	1,914.0	202.0	159.8	141.9	108.6	130.6	152.1	200.9	116.6	204.0	144.1	159.4	194.0
降雪の 深さ (cm)	合計	214	88	72	17	0	---	---	---	---	---	0	37
	日合計 の最大	32	22	19	8	0	---	---	---	---	---	0	15
最深積雪 (cm)	46	34	31	12	0	---	---	---	---	---	---	0	18

注：1. 「---」は該当現象、または該当現象による量がないことを示す。  
 2. 平年値は1981～2010年の30年間の観測値をもとに算出した。ただし、最多風向については1990～2010年の21年間の値をもとに算出した。  
 「過去の気象データ 平年値」（気象庁HP、閲覧：平成29年12月）より作成

第 3.1-2 表(2) 鳥取地方気象台の気象概況（平成28年）

月	降水量(mm)				気温(℃)						風向・風速(m/s)				日照 時間 (h)	雪(cm)		
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間 風速			降雪 の 合計	日降 雪の 最大	最深 積雪
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向				
1	183.5	44.0	5.5	2.5	4.7	8.7	1.5	16.5	-5.4	3.0	12.1	西	20.5	西北西	73.2	19	8	8
2	167.5	42.0	8.0	1.5	5.3	9.9	1.3	19.5	-3.1	3.1	10.2	西	18.2	北北西	99.2	29	17	16
3	70.0	24.0	6.5	1.5	9.1	14.4	4.5	21.8	-0.6	3.1	10.5	南	17.9	南南東	148.2	--	--	3
4	112.5	36.0	8.0	2.0	14.8	20.4	9.5	28.4	1.1	3.4	18.2	南南東	31.2	南南東	160.4	--	--	--
5	94.0	51.5	17.5	4.5	19.2	25.0	13.6	29.8	8.3	3.4	16.3	南	28.9	南南東	227.6	--	--	--
6	160.0	28.5	28.5	21.0	22.8	27.6	18.8	31.8	10.4	2.8	10.6	南	18.9	南	159.5	--	--	--
7	73.0	17.5	10.5	6.0	26.8	31.7	23.2	36.2	19.8	2.8	8.4	南	14.5	南	182.3	--	--	--
8	149.0	58.0	52.0	28.0	27.2	33.0	23.0	38.1	19.2	2.6	10.1	南	21.9	南南西	255.9	--	--	--
9	326.0	63.5	26.5	9.5	23.4	27.5	20.5	33.3	15.3	2.2	11.0	北	18.5	北北東	88.4	--	--	--
10	94.5	30.0	17.5	4.0	18.3	23.4	14.1	30.2	6.7	2.7	14.6	南	26.6	南西	116.4	--	--	--
11	120.0	22.0	6.0	3.0	11.9	16.5	8.0	21.5	3.2	2.8	9.4	北東	15.4	北東	105.9	--	--	--
12	245.0	35.0	11.5	3.0	8.4	12.9	4.6	22.0	0.6	3.4	15.7	南南東	25.4	南	96.4	--	--	0
年	1,795.0	63.5	52.0	28.0	16.0	20.9	11.9	38.1	-5.4	2.9	18.2	南南東	31.2	南南東	1,713.4	50	17	16

注：「--」は該当現象、または該当現象による量等がないことを示す。  
 「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年12月）より作成

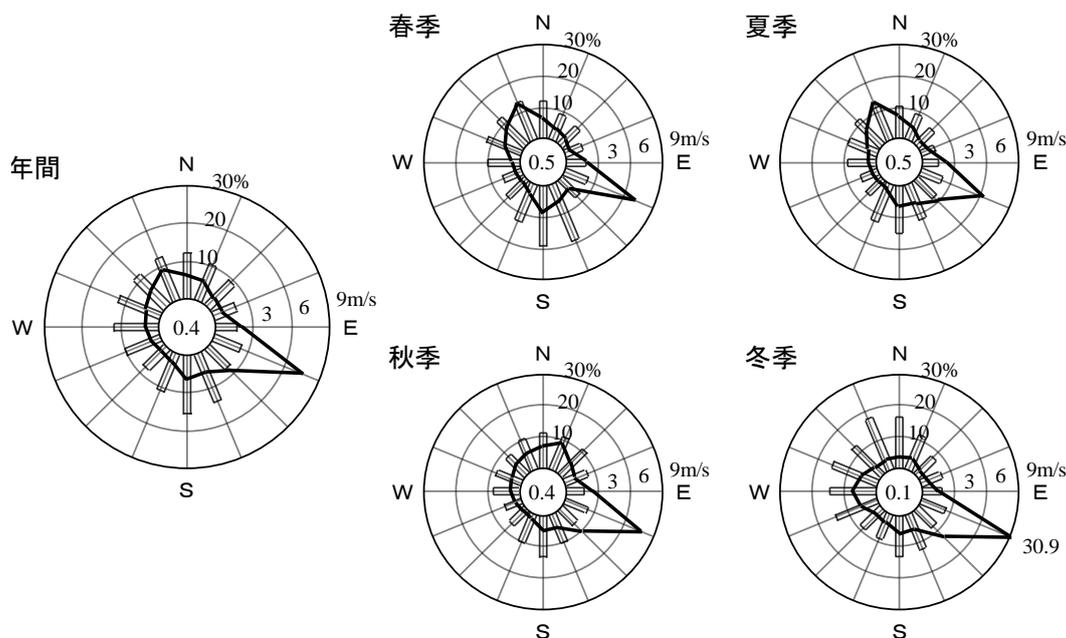
第 3.1-3 表 鳥取地方気象台の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）								
北北東	3.8	2.6	4.4	2.6	9.0	3.4	3.6	3.5	5.2	3.1
北東	2.8	2.3	2.0	2.1	5.1	3.3	1.8	2.3	2.9	2.7
東北東	1.8	1.7	2.8	1.4	3.5	2.2	2.2	2.0	2.6	1.9
東	6.5	1.8	7.6	1.5	8.4	1.7	5.0	1.8	6.9	1.7
東南東	24.3	2.3	21.6	2.1	26.3	2.2	30.9	2.5	25.7	2.3
南東	4.5	2.3	10.1	2.4	10.4	2.0	12.8	2.4	9.4	2.3
南南東	6.3	5.8	7.0	3.6	4.8	3.0	5.4	3.6	5.9	4.1
南	8.9	5.8	7.1	4.5	5.0	4.0	6.0	3.9	6.8	4.7
南南西	3.4	3.8	2.1	3.8	2.0	2.9	3.4	2.5	2.7	3.2
南西	1.5	2.4	1.6	2.0	1.3	2.0	2.6	2.6	1.8	2.3
西南西	1.5	1.9	1.7	1.7	1.8	1.7	5.2	4.2	2.6	3.0
西	2.0	3.0	2.3	2.6	2.5	2.4	6.9	4.4	3.4	3.5
西北西	5.0	3.5	2.9	2.9	2.9	2.5	5.0	4.6	4.0	3.6
北西	8.1	3.6	6.5	3.3	4.3	2.5	3.0	3.8	5.5	3.3
北北西	12.5	3.9	12.9	3.4	5.4	3.1	3.1	5.3	8.5	3.7
北	6.6	3.6	7.1	3.1	6.7	3.4	3.1	4.9	5.9	3.6
静穏	0.5	0.1	0.5	0.2	0.4	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1
合計・平均	100	3.3	100	2.7	100	2.6	100	3.1	100	2.9
欠測	0		0		0		0		0	

注：1. 静穏は風速 0.2m/s 以下とする。

2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が 100%にならないことがある。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、%）を示す

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成

第 3.1-2 図 鳥取地方気象台の風配図（平成 28 年）

青谷地域気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-4 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-5 表、風配図は第 3.1-3 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 15.2℃、年間降水量は 1,923.0mm、年平均風速は 2.5m/s、日照時間は 1,636.0h である。また、平成 28 年の風向出現頻度は南が最も高く 24.7% である。

第 3.1-4 表(1) 青谷地域気象観測所の気象概況 (平年値)

要素名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温 (℃)	14.4	4.3	4.5	7.2	12.1	16.5	20.6	24.7	25.9	22.0	16.5	11.6	7.1
日最高気温 (℃)	18.9	8.0	8.4	11.7	17.2	21.5	24.8	28.8	30.5	26.4	21.4	16.3	11.3
日最低気温 (℃)	10.2	0.9	0.7	2.4	6.6	11.4	16.8	21.3	22.1	18.2	12.0	7.1	3.0
平均風速 (m/s)	1.7	2.3	2.3	2.0	1.8	1.6	1.4	1.3	1.4	1.4	1.5	1.8	2.2
日照時間 (時間)	1,631.8	65.7	78.3	127.8	178.3	195.9	153.5	164.6	204.4	139.4	142.5	101.0	80.4
降水量 (mm)	1,945.2	197.0	142.7	136.0	104.9	130.1	161.7	202.3	125.6	216.7	157.2	178.2	192.9

注：平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値をもとに算出した。ただし、日照時間については 1987～2010 年の 24 年間の値をもとに算出した。

〔過去の気象データ 平年値〕(気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月) より作成

第 3.1-4 表(2) 青谷地域気象観測所の気象概況 (平成 28 年)

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)				日照時間 (h)	
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均風速	最大風速		最大瞬間風速		
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速		風向
1	221.5	42.5	8.0	2.5	4.7	8.4	1.5	15.4	-5.4	3.0	16.8	北西	24.2	北西	66.3
2	169.0	39.0	9.5	2.5	5.1	9.6	1.0	20.5	-2.8	3.0	13.2	北西	20.6	北西	94.2
3	74.5	22.0	4.5	1.5	8.3	12.7	3.7	21.7	-1.5	2.6	10.1	北北西	17.6	北西	142.9
4	130.5	35.0	7.5	2.5	13.4	18.5	8.2	27.4	1.3	2.6	12.1	南	24.9	南南西	164.4
5	86.0	38.0	9.0	2.5	17.8	22.7	12.6	30.6	7.4	2.2	14.5	南	26.6	南	221.4
6	164.5	38.0	10.5	6.0	21.4	25.6	17.8	30.6	9.6	1.9	8.3	南南西	18.7	南西	155.9
7	90.5	33.0	18.0	8.5	25.4	29.6	22.2	35.1	19.1	1.9	8.6	北西	15.9	北北西	172.2
8	134.0	62.5	21.5	11.0	26.2	30.5	22.4	33.7	18.9	2.2	11.2	北	16.8	北	251.5
9	408.0	89.0	36.5	12.5	22.5	25.9	19.7	31.9	14.5	2.1	10.8	北北東	17.8	北北東	82.6
10	84.0	24.5	13.0	5.5	17.9	22.0	14.0	31.2	6.3	2.5	11.3	西南西	24.9	西南西	106.1
11	130.5	24.0	8.5	4.5	11.8	15.9	7.8	22.0	3.5	2.7	11.3	北西	19.5	北東	90.5
12	230.0	41.5	14.0	3.0	8.3	12.5	4.5	22.3	0.6	3.1	14.4	北西	21.2	西北西	88.0
年	1,923.0	89.0	36.5	12.5	15.2	19.5	11.3	35.1	-5.4	2.5	16.8	北西	26.6	南	1,636.0

〔過去の気象データ〕(気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月) より作成

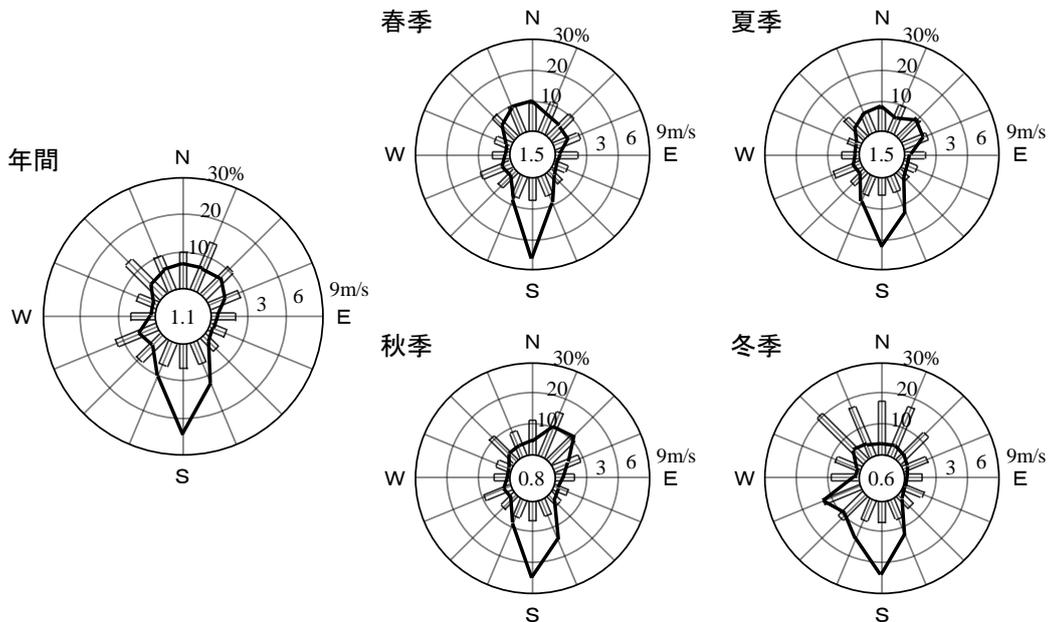
第 3.1-5 表 青谷地域気象観測所の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）								
北北東	6.0	3.2	5.2	2.9	10.6	4.7	3.9	5.2	6.4	4.1
北東	5.3	3.0	8.2	2.7	11.6	3.2	2.8	3.7	7.0	3.1
東北東	5.3	2.6	7.0	2.5	5.1	2.7	1.6	2.5	4.8	2.6
東	1.7	2.1	1.9	1.9	2.7	1.8	0.8	1.7	1.8	1.9
東南東	1.0	1.3	1.9	1.3	1.6	1.4	0.9	2.0	1.4	1.4
南東	2.5	1.5	3.2	1.1	2.5	1.3	2.2	1.7	2.6	1.4
南南東	9.6	2.0	13.0	1.6	14.4	1.7	12.6	2.0	12.4	1.8
南	26.3	2.2	22.9	1.7	25.2	1.9	24.4	2.1	24.7	2.0
南南西	8.3	2.2	9.4	1.9	8.7	1.8	13.9	2.2	10.1	2.0
南西	2.3	2.1	1.9	1.7	2.1	1.8	8.9	3.3	3.8	2.7
西南西	3.0	3.0	2.2	2.8	2.5	2.7	12.6	3.9	5.0	3.5
西	1.2	1.7	0.8	1.7	0.5	1.4	1.2	2.6	0.9	2.0
西北西	1.4	1.6	1.1	1.3	0.6	1.4	0.8	2.5	1.0	1.7
北西	6.0	3.0	4.6	2.7	3.1	3.3	5.0	6.3	4.7	3.9
北北西	9.0	2.9	7.0	2.1	3.4	2.6	4.1	5.2	5.9	3.0
北	9.6	2.7	8.3	2.2	4.3	3.3	3.6	5.3	6.5	3.0
静穏	1.5	0.1	1.5	0.1	0.8	0.1	0.6	0.0	1.1	0.1
合計・平均	100	2.4	100	2.0	100	2.4	100	3.0	100	2.5
欠測	0		0.1		0		0.2		0.1	

注：1. 静穏は風速 0.2m/s 以下とする。

2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が 100%にならないことがある。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、%）を示す

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成

第 3.1-3 図 青谷地域気象観測所の風配図（平成 28 年）

湖山航空気象官署における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-6 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-7 表、風配図は第 3.1-4 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 15.6℃、年間降水量は 1,616.5mm、年平均風速は 4.7m/s である。また、平成 28 年の風向出現頻度は南東が最も高く 20.1% である。

第 3.1-6 表(1) 湖山航空気象官署の気象概況(平年値)

要素名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温(℃)	15.1	4.5	5.4	7.7	12.6	17.1	21.4	24.9	26.8	23.3	17.6	12.4	7.3
日最高気温(℃)	///	8.2	9.2	11.9	17.1	21.4	25.0	28.2	30.7	27.1	///	16.6	11.1
日最低気温(℃)	///	1.2	1.7	3.4	8.1	13.0	18.2	22.2	23.7	19.8	///	8.6	4.0
平均風速(m/s)	4.9	5.8	5.9	5.6	5.1	4.6	3.6	3.8	4.0	4.5	4.8	5.0	5.8
降水量(mm)	1,577.8	139.5	100.4	113.6	80.1	106.8	131.1	192.9	108.3	144.6	136.6	137.2	186.8

注：1. 「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

2. 平年値は 2003～2010 年の 8 年間の観測値をもとに算出した。

〔「過去の気象データ 平年値」(気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月)より作成〕

第 3.1-6 表(2) 湖山航空気象官署の気象概況(平成 28 年)

月	降水量(mm)				気温(℃)				風向・風速(m/s)					
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均風速	最大風速		最大瞬間風速	
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向
1	181.5	37.5	8.5	4.0	4.9	8.7	1.8	15.6	-5.8	5.2	20.8	西北西	25.2	西北西
2	123.0	37.0	8.5	2.5	5.5	9.9	1.8	19.3	-2.5	5.7	18.6	西北西	26.2	西北西
3	45.5	16.5	5.5	2.0	8.7	13.0	4.7	21.6	-0.1	4.9	14.9	北西	21.6	北北西
4	112.5	36.5	9.5	3.0	14.0	18.7	9.7	28.0	2.1	4.9	20.6	南南東	30.3	南
5	70.5	42.0	11.5	4.0	18.3	22.7	13.8	29.4	9.0	4.4	20.5	南南東	29.3	南南東
6	135.0	32.0	9.0	4.0	22.0	25.5	18.9	30.9	11.3	3.9	13.3	北東	18.5	南
7	69.5	31.0	15.5	6.0	25.7	29.2	23.1	34.6	19.6	3.6	12.5	西北西	15.9	西北西
8	126.5	43.5	26.0	9.0	26.4	30.5	23.1	35.3	19.2	3.8	15.4	北	19.0	北
9	330.0	80.5	25.5	11.0	22.9	26.0	20.4	32.2	15.3	3.9	17.8	北北東	22.1	北北東
10	67.0)	20.5)	13.0)	3.5)	18.4	22.3	14.7	30.4	7.9	5.1	17.8)	北	25.7	南西
11	132.5	21.5	9.0	5.0	12.1	16.2	8.4	21.6	4.1	5.2	14.9	北北東	19.0	北北西
12	223.0	41.5	11.5	4.0	8.6	12.6	5.2	21.0	1.1	5.8	19.7	北	23.7	北北東
年	1,616.5	80.5	26.0	11.0	15.6	19.6	12.1	35.3	-5.8	4.7	20.8	西北西	30.3	南

注：「)」は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値資料が欠けていない)と同等に扱う(準正常値)。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の 80% を基準とする。

〔「過去の気象データ」(気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月)より作成〕

第 3.1-7 表 湖山航空気象官署の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

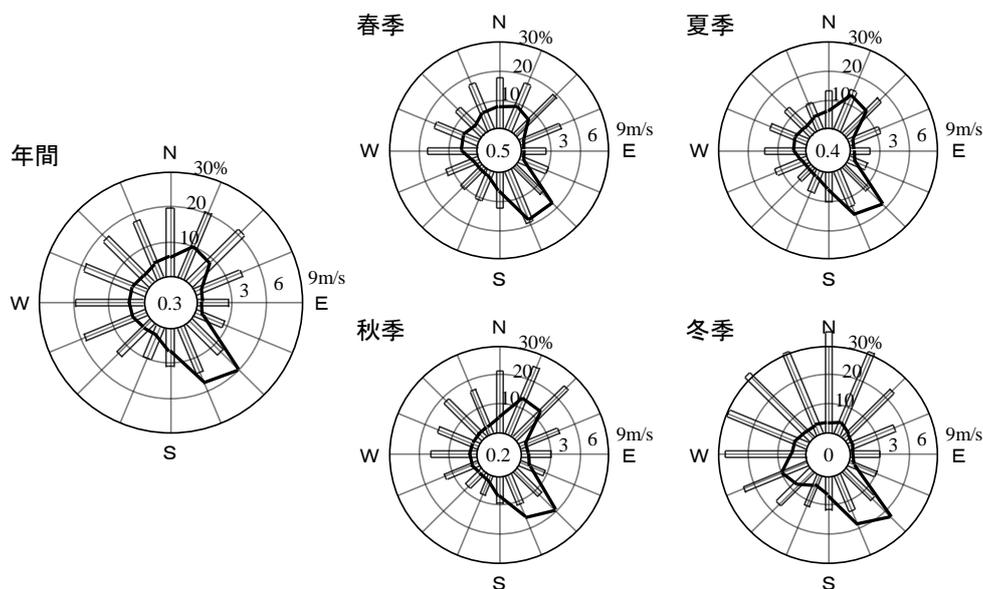
季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）								
北北東	9.0	5.2	13.0	4.4	13.4	7.6	4.3	9.2	9.9	6.2
北東	7.2	5.8	11.2	5.2	13.0	7.4	2.5	7.0	8.5	6.3
東北東	2.0	4.5	1.8	3.4	2.7	4.3	1.8	5.1	2.1	4.3
東	1.3	2.5	1.5	2.0	2.9	3.1	1.1	3.0	1.7	2.7
東南東	1.9	3.0	2.4	2.0	4.0	2.7	2.3	3.0	2.7	2.7
南東	18.4	4.0	19.2	3.3	19.8	3.6	23.2	4.1	20.1	3.8
南南東	18.8	5.8	16.7	3.9	16.1	3.3	18.7	4.0	17.6	4.3
南	6.9	3.7	6.0	3.1	7.1	2.8	6.8	3.5	6.7	3.3
南南西	2.1	3.2	2.4	2.4	2.0	2.2	4.1	3.5	2.6	2.9
南西	1.5	3.1	1.5	1.9	1.5	2.4	7.1	4.9	2.9	4.0
西南西	1.9	3.6	1.9	3.5	2.4	3.7	9.2	7.1	3.9	5.7
西	5.2	5.2	3.9	4.3	2.6	4.7	4.7	8.4	4.1	5.8
西北西	5.5	4.8	4.3	4.2	2.3	4.5	4.5	8.8	4.1	5.7
北西	3.8	3.8	3.4	3.7	2.2	5.5	3.3	9.5	3.2	5.5
北北西	6.4	5.2	4.7	3.0	2.7	4.9	3.3	9.1	4.3	5.3
北	7.6	5.3	5.8	4.0	5.2	6.4	3.2	10.4	5.4	5.9
静穏	0.5	0.1	0.4	0.1	0.2	0.1	0	—	0.3	0.1
合計・平均	100	4.7	100	3.8	100	4.7	100	5.6	100	4.7
欠測	0		0		0.3		0		0.1	

注：1. 静穏は風速 0.2m/s 以下とする。

2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が 100%にならないことがある。

3. 頻度の「0」は出現しなかったことを示す。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、%）を示す

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成

第 3.1-4 図 湖山航空気象官署の風配図（平成 28 年）

鹿野地域雨量観測所における平年値及び平成 28 年の降水量は第 3.1-8 表のとおりである。平成 28 年の年間降水量は 3,161.5mm である。

第 3.1-8 表 鹿野地域雨量観測所における降水量（平年値）

（単位：mm）

月	平成 28 年				平年値
	合計	日最大	最大		
			1 時間	10 分間	
1	250.0	44.0	5.5	2.0	287.7
2	277.5	41.5	9.5	2.5	263.5
3	96.5	33.5	5.0	1.5	235.6
4	178.5	49.0	9.0	2.5	150.8
5	105.0	43.5	10.0	3.0	154.2
6	226.5	37.0	16.0	8.5	205.5
7	155.0	23.5	15.5	6.5	252.8
8	325.5	77.0	36.0	10.0	192.6
9	668.0	171.5	33.0	9.0	357.0
10	130.5	29.0	18.0	4.5	258.0
11	298.0	56.0	10.5	3.5	265.6
12	450.5	93.5	12.5	4.0	254.5
年	3161.5	171.5	36.0	10.0	2874.9

注：平年値は 1982～2010 年の 29 年間の観測値をもとに算出した。

〔「過去の気象データ」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成〕

智頭地域気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-9 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-10 表、風配図は第 3.1-5 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 13.9℃、年間降水量は 1,943.0mm、年平均風速は 1.2m/s である。また、平成 28 年の風向出現頻度は東南東が最も高く 14.5% である。

第 3.1-9 表(1) 智頭地域気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温(°C)	12.9	1.6	2.0	5.5	11.3	16.3	20.3	24.2	25.1	20.8	14.7	9.1	4.1
日最高気温(°C)	18.6	6.1	6.8	11.1	18.0	22.8	26.0	29.5	31.0	26.2	20.6	15.0	9.3
日最低気温(°C)	8.4	-1.9	-1.9	0.6	5.1	10.4	15.6	20.2	20.8	16.7	9.9	4.4	0.1
平均風速(m/s)	1.2	1.0	1.1	1.4	1.5	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.0	0.9
日照時間(時間)	1,462.8	69.4	81.3	117.1	160.9	170.7	131.0	131.8	166.4	120.2	131.5	101.0	82.6
降水量(mm)	1,924.1	149.4	152.9	164.6	134.0	152.4	180.8	229.9	154.9	214.1	140.5	123.1	127.6
降雪の深さ合計(cm)	323	118	132	29	0	0	0	0	0	0	0	0	43
最深積雪(cm)	///	33	40	13	0	0	0	0	0	0	0	0	18

注：1. 「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

2. 平年値は1981～2010年の30年間の観測値をもとに算出した。ただし、日照時間は1987年～2010年の24年間、降雪の深さの合計及び最深積雪は1982年～2010年の29年間の観測値をもとに算出した。  
 [「過去の気象データ 平年値」(気象庁 HP、閲覧：平成29年12月)より作成]

第 3.1-9 表(2) 智頭地域気象観測所の気象概況（平成28年）

月	降水量(mm)				気温(°C)					風向・風速(m/s)				日照時間(h)	雪(cm)			
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均風速	最大風速		最大瞬間風速		降雪の合計	日降雪の最大	最深積雪	
			1時間	10分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向						風速
1	97.5	42.0	5.5	1.5	2.0	7.2	-1.7	15.4	-8.4	0.9)	4.9]	西北西	12.5)	北西	63.9	34	14	16
2	100.5	22.5	5.5	2.0	3.2	8.5	-1.0	17.1	-5.9	1.2)	6.2)	北北西	12.2)	北北西	96.6	39	19	20
3	57.0	25.5	5.0	1.5	6.9	13.2	1.4	20.8	-3.4	1.6	6.4	北西	13.1	東南東	132.4	0	0	14
4	151.5	40.5	7.0	3.0	13.1	19.6	6.9	25.6	-1.5	1.5	8.7	東南東	19.2	東南東	146.5	0	0	0
5	107.5	57.5	19.5	8.0	17.5	24.5	11.0	30.2	4.7	1.5	9.5	東南東	23.9	東南東	202.0	0	0	0
6	248.0	39.0	30.5	12.0	20.8	26.2	16.7	31.1	8.2	1.2	5.1	西北西	10.7	西北西	113.6	0	0	0
7	145.5	43.5	39.5	13.5	24.8	30.5	21.1	34.9	18.2	1.2	5.3	西北西	12.4	北北西	150.3	0	0	0
8	159.5	45.0	13.5	9.5	25.1	31.4	20.4	37.0	16.0	1.3	4.9	東南東	12.0	東南東	221.6	0	0	0
9	376.0	67.5	24.0	7.0	21.8	26.2	18.8	32.6	14.3	1.1	6.8	西北西	18.1	北西	74.2	0	0	0
10	102.5	32.0	22.0	6.5	16.5	21.8	12.1	30.5	4.7	1.2	8.8	東南東	21.8	東南東	90.4	0	0	0
11	113.5	23.0	6.5	2.0	9.6	14.7	5.7	20.0	0.5	1.0	5.6	西北西	11.2	北西	82.9	0	0	0
12	284.0	66.0	9.5	3.0	5.4	10.2	1.7	19.4	-2.4	1.1)	6.7)	南東	17.0)	東南東	81.0)	21	9	6
年	1,943.0	67.5	39.5	13.5	13.9	19.5	9.4	37.0	-8.4	1.2	9.5]	東南東	23.9	東南東	1,455.4	74	19	20

注：1. 「)」は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値資料が欠けていない」と同等に扱う（準正常値）。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。

2. 「)」は統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けていることを示す（資料不足値）。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる。

[「過去の気象データ」(気象庁 HP、閲覧：平成29年12月)より作成]

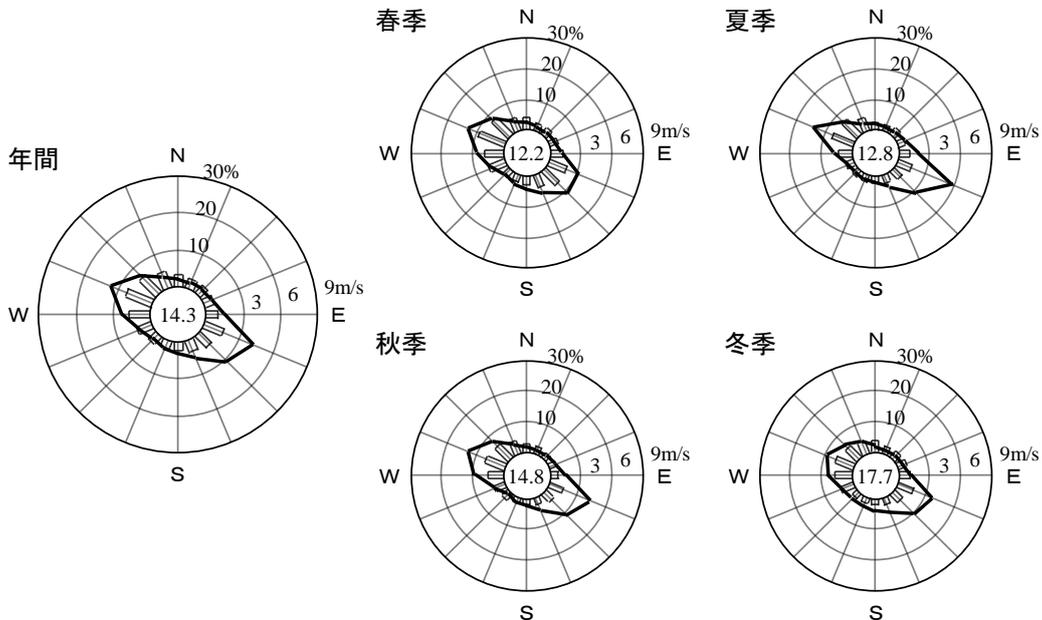
第 3.1-10 表 智頭地域気象観測所の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）								
北北東	1.5	0.8	1.5	0.7	1.3	0.8	1.4	0.8	1.4	0.8
北東	1.6	0.8	1.8	0.8	1.6	0.7	1.8	0.9	1.7	0.8
東北東	2.1	0.9	3.0	0.8	2.5	0.7	2.2	0.9	2.4	0.8
東	3.9	1.2	6.5	1.0	5.1	0.8	4.2	1.1	4.9	1.0
東南東	10.7	1.9	19.8	1.5	14.8	1.4	12.6	1.7	14.5	1.6
南東	11.5	1.9	11.1	1.1	10.9	1.0	10.6	1.2	11.0	1.3
南南東	6.9	1.3	4.6	0.8	5.1	0.7	5.9	0.8	5.6	1.0
南	4.4	0.9	2.4	0.7	2.6	0.6	4.3	0.6	3.4	0.7
南南西	3.5	0.7	1.9	0.7	2.2	0.5	3.1	0.6	2.7	0.6
南西	2.6	0.9	1.4	0.7	1.1	0.8	3.1	0.7	2.1	0.8
西南西	4.8	1.6	2.2	0.8	3.7	1.1	4.1	1.3	3.7	1.3
西	8.3	1.9	5.9	1.4	9.1	1.6	7.7	1.7	7.8	1.7
西北西	12.6	2.7	14.1	2.3	12.6	2.0	9.4	1.9	12.2	2.3
北西	7.9	2.3	6.7	2.0	7.8	1.8	6.1	1.5	7.1	1.9
北北西	3.2	1.4	2.5	1.4	3.2	1.4	4.0	1.3	3.2	1.4
北	2.2	1.2	1.8	0.8	1.7	0.8	1.9	1.1	1.9	1.0
静穏	12.2	0.1	12.8	0.1	14.8	0.1	17.7	0.1	14.3	0.1
合計・平均	100	1.5	100	1.2	100	1.1	100	1.1	100	1.2
欠測	0.0		0		0		4.1		1.0	

注：1. 静穏は風速 0.2m/s 以下とする。

2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が 100%にならないことがある。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、%）を示す

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成

第 3.1-5 図 智頭地域気象観測所の風配図（平成 28 年）

## 2. 大気質の状況

鳥取県において、平成 28 年度は一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）4 局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）2 局の計 6 局で大気汚染防止法に基づく常時監視測定を実施している。

対象事業実施区域の近傍には、一般局が 1 局、自排局が 1 局設置されており、各測定局の概要及び測定項目は第 3.1-11 表、位置は第 3.1-6 図のとおりである。

第 3.1-11 表 測定局の概要及び測定項目（平成 28 年度）

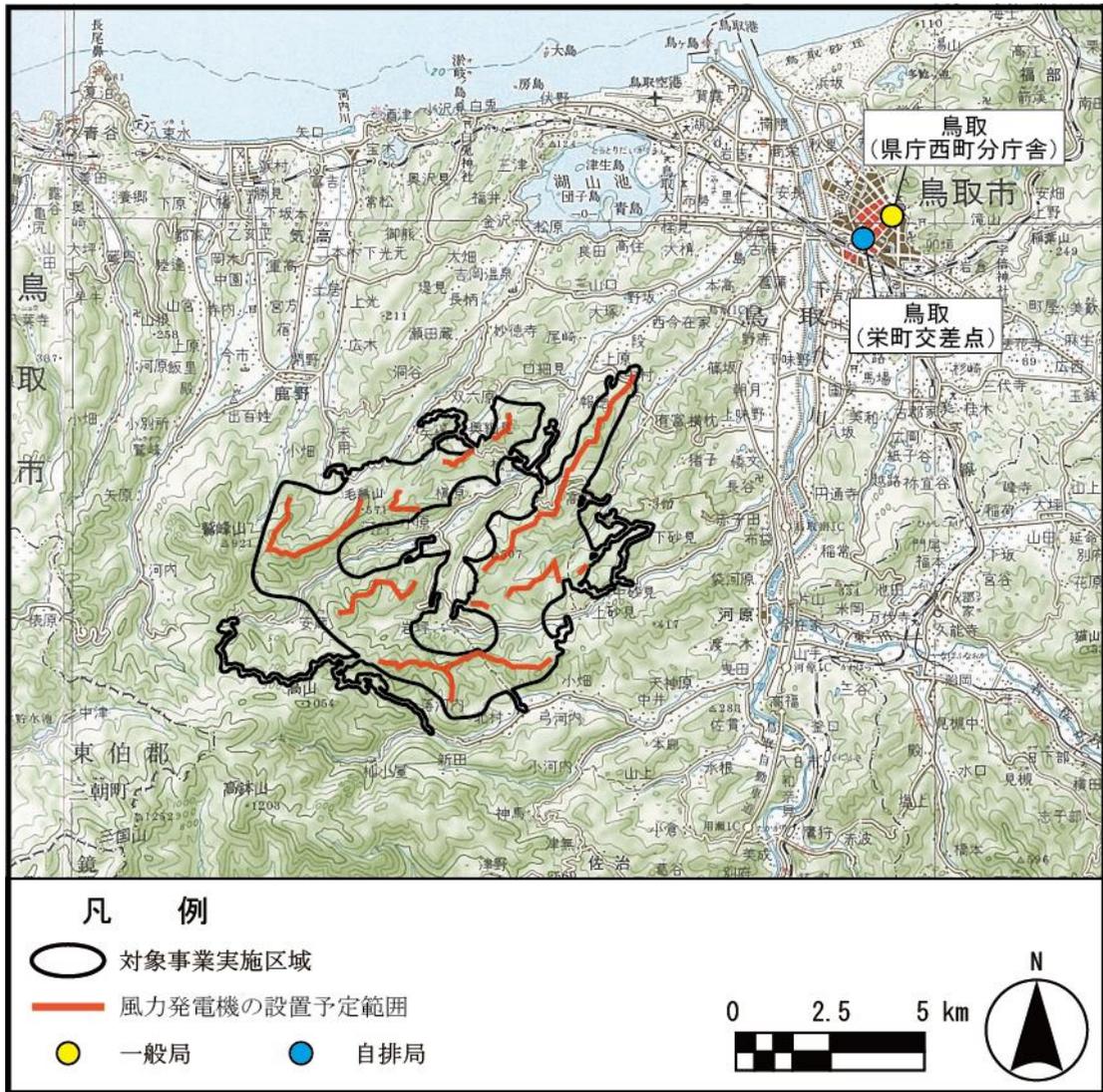
区分	測定局	住所	用途地域	測定項目					
				二酸化 いおう (SO <sub>2</sub> )	一酸化 炭素 (CO)	浮遊粒子 状物質 (SPM)	二酸化 窒素 (NO <sub>2</sub> )	光化学オ キシダン ト (O <sub>x</sub> )	微小粒子 状物質 (PM2.5)
一般局	鳥取 (県庁西町分庁舎)	鳥取市西町 1-401	商	○	○	○	○	○	○
自排局	鳥取 (栄町交差点)	鳥取市栄町 502	商	—	○	○	○	—	—

注：1. 「○」は測定が行われていること、「—」は行われていないことを示す。

2. 用途地域については以下のとおりである。

商：「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条第 1 項第 1 号の用途地域のうち「近隣商業地域」及び「商業地域」

〔「平成 28 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 29 年）  
「環境数値データベース」（国立環境研究所、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 28 年度大気汚染調査結果報告書」(鳥取県、平成 29 年) より作成〕  
 第 3.1-6 図 大気測定局の位置

### (1) 二酸化いおう

平成 28 年度の一般局の鳥取における二酸化いおうの測定結果は第 3.1-12 表のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、第 3.1-13 表及び第 3.1-7 図のとおりである。

#### ※ 環境基準とその評価

環境基準：日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

短期的評価：日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 2% 除外値が 0.04ppm 以下であること。ただし、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

### 第 3.1-12 表 二酸化いおうの測定結果（平成 28 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値		1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 2% 除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.04ppm を超えた日数
					日	ppm	時間	%	日	%				
一般局	鳥取市	鳥取	商	361	0	0	0	0	0	0	0.009	0.002	○	0

注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

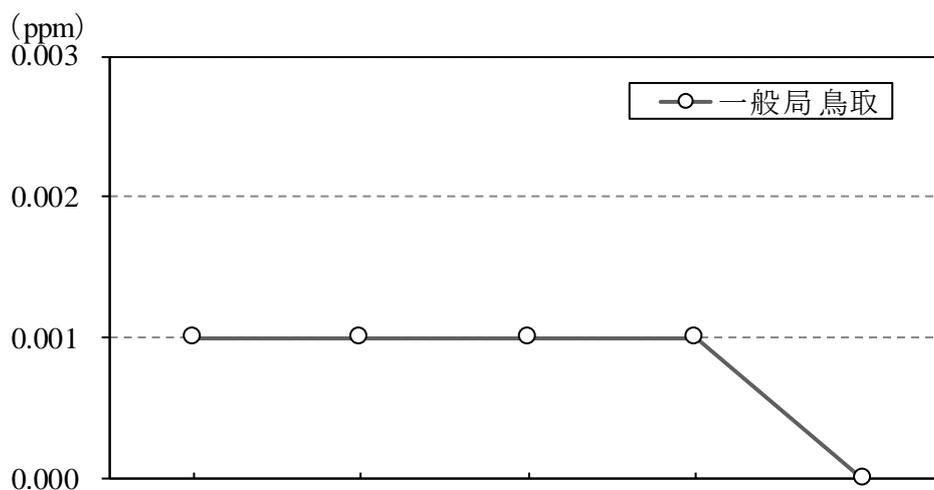
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

### 第 3.1-13 表 二酸化いおうの年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値（ppm）				
			平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
一般局	鳥取市	鳥取	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000

注：一般局の鳥取局は、平成 27 年 4 月までは「鳥取保健所（鳥取市江津 730）」、平成 27 年 5 月からは「県庁西町分庁舎（鳥取市西町 1-401）」で測定を実施している。

〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成



平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度 平成 27 年度 平成 28 年度  
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

### 第 3.1-7 図 二酸化いおうの年平均値の経年変化

## (2) 一酸化炭素

平成 28 年度の各測定局における一酸化炭素の測定結果は第 3.1-14 表のとおりであり、環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間に於ける昼間の日最高 1 時間値の年平均値の経年変化は、第 3.1-15 表及び第 3.1-8 図のとおりである。

### ※ 環境基準とその評価

短期基準：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

長期基準：年間にわたる 1 時間値の 1 日平均値のうち、高い方から 2%の範囲にあるものを除外した値が 0.10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-14 表 一酸化炭素の測定結果（平成 28 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	8 時間値が 20ppm を超えた回数とその割合		日平均値が 10ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 10ppm を超えた日数
						日	%	日	%				
一般局	鳥取市	鳥取	商	358	0.3	0	0	0	0	1.1	0.4	○	0
自排局	鳥取市	鳥取	商	356	0.3	0	0	0	0	1.3	0.6	○	0

注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

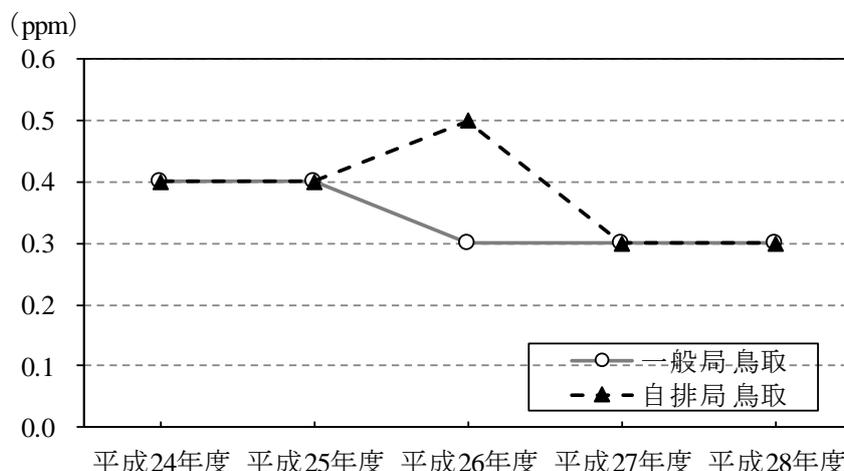
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-15 表 一酸化炭素の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 (ppm)				
			平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
一般局	鳥取市	鳥取	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3
自排局	鳥取市	鳥取	0.4	0.4	0.5	0.3	0.3

注：一般局の鳥取局は、平成 27 年 4 月までは「鳥取保健所（鳥取市江津 730）」、平成 27 年 5 月からは「県庁西町分庁舎（鳥取市西町 1-401）」で測定を実施している。

〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成



〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-8 図 一酸化炭素の年平均値の経年変化

### (3) 浮遊粒子状物質

平成 28 年度の各測定局における浮遊粒子状物質の測定結果は第 3.1-16 表のとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

また、過去 5 年間に於ける年平均値の経年変化は、第 3.1-17 表及び第 3.1-9 図のとおりである。

#### ※ 環境基準とその評価

環境基準：日平均値が  $0.10\text{mg}/\text{m}^3$  以下であり、かつ、1 時間値が  $0.20\text{mg}/\text{m}^3$  以下であること。  
 短期的評価：日平均値が  $0.10\text{mg}/\text{m}^3$  以下であり、かつ、1 時間値が  $0.20\text{mg}/\text{m}^3$  以下であること。  
 長期的評価：日平均値の年間 2% 除外値が  $0.10\text{mg}/\text{m}^3$  以下であること、ただし、日平均値が  $0.10\text{mg}/\text{m}^3$  を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-16 表 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 28 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数とその割合		日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 2% 除外値	日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数
						日	$\text{mg}/\text{m}^3$	時間	%				
一般局	鳥取市	鳥取	商	361	0.013	0	0	0	0	0.154	0.036	○	0
自排局	鳥取市	鳥取	商	354	0.013	0	0	0	0	0.147	0.034	○	0

注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

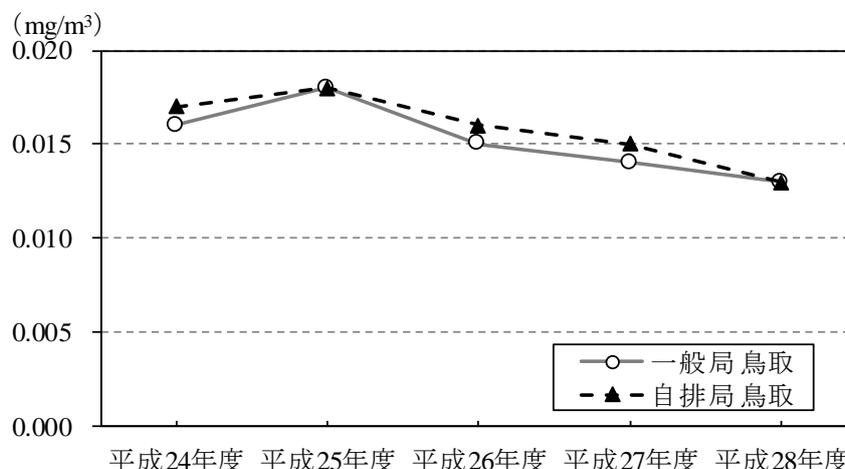
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-17 表 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 ( $\text{mg}/\text{m}^3$ )				
			平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
一般局	鳥取市	鳥取	0.016	0.018	0.015	0.014	0.013
自排局	鳥取市	鳥取	0.017	0.018	0.016	0.015	0.013

注：一般局の鳥取局は、平成 27 年 4 月までは「鳥取保健所（鳥取市江津 730）」、平成 27 年 5 月からは「県庁西町分庁舎（鳥取市西町 1-401）」で測定を実施している。

〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成



〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-9 図 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

#### (4) 二酸化窒素

平成 28 年度の各測定局における二酸化窒素の測定結果は第 3.1-18 表のとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、第 3.1-19 表及び第 3.1-10 図のとおりである。

##### ※ 環境基準とその評価

環境基準：日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 98% 値が 0.06ppm を超えないこと。

第 3.1-18 表 二酸化窒素の測定結果（平成 28 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		日平均値の年間 98% 値	環境基準の長期的評価
							日	%	日	%		
一般局	鳥取市	鳥取	商	361	0.004	0.031	0	0	0	0	0.008	○
自排局	鳥取市	鳥取	商	351	0.008	0.049	0	0	0	0	0.019	○

注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

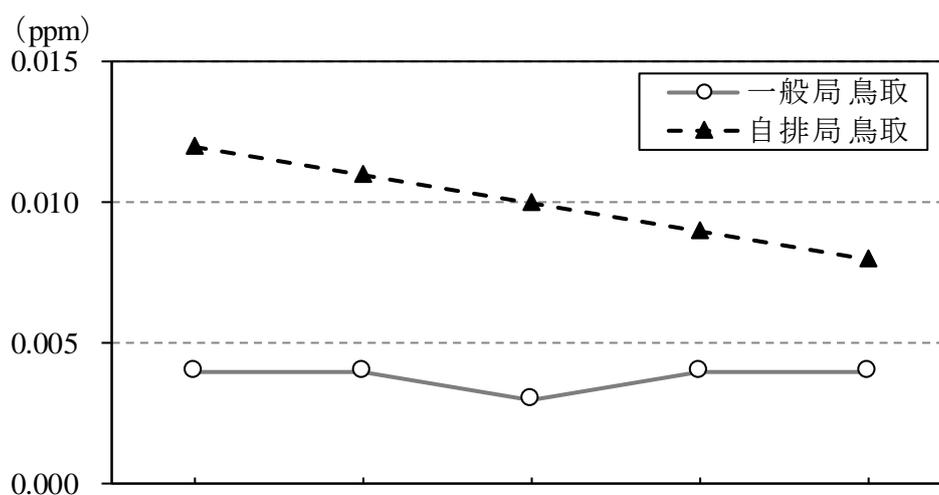
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-19 表 二酸化窒素の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 (ppm)				
			平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
一般局	鳥取市	鳥取	0.004	0.004	0.003	0.004	0.004
自排局	鳥取市	鳥取	0.012	0.011	0.010	0.009	0.008

注：一般局の鳥取局は、平成 27 年 4 月までは「鳥取保健所（鳥取市江津 730）」、平成 27 年 5 月からは「県庁西町分庁舎（鳥取市西町 1-401）」で測定を実施している。

〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成



平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度 平成 27 年度 平成 28 年度  
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-10 図 二酸化窒素の年平均値の経年変化

### (5) 光化学オキシダント

平成 28 年度の一般局の鳥取における光化学オキシダントの測定結果は第 3.1-20 表のとおりであり、環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間に於ける昼間の日最高 1 時間値の年平均値の経年変化は、第 3.1-21 表及び第 3.1-11 図のとおりである。

#### ※ 環境基準とその評価

環境基準：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

環境基準の評価：昼間（5 時～20 時まで）の時間帯において、1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

第 3.1-20 表 光化学オキシダントの測定結果（平成 28 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	昼間の 1 時間値の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数と時間		昼間の 1 時間値が 0.12ppm を超えた日数と時間		昼間の 1 時間値の最高値	昼間の日最高 1 時間値の年平均値
				日	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm
一般局	鳥取市	鳥取	商	363	0.039	67	389	0	0	0.092	0.049

注：1. 用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

2. 昼間とは、5 時から 20 時までの時間内をいう。

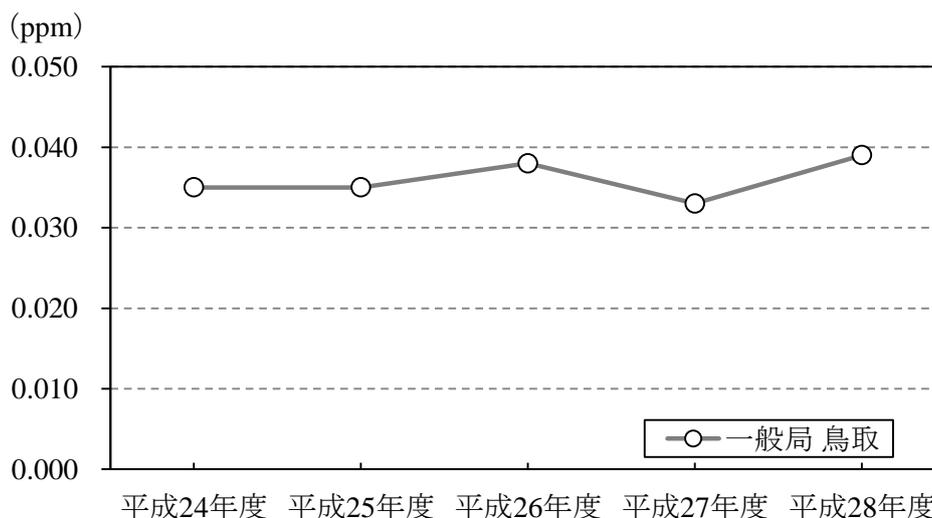
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-21 表 光化学オキシダントの昼間の 1 時間値の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	昼間の 1 時間値の年平均値 (ppm)				
			平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
一般局	鳥取市	鳥取	0.035	0.035	0.038	0.033	0.039

注：一般局の鳥取局は、平成 27 年 4 月までは「鳥取保健所（鳥取市江津 730）」、平成 27 年 5 月からは「県庁西町分庁舎（鳥取市西町 1-401）」で測定を実施している。

〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成



〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-11 図 光化学オキシダントの昼間の 1 時間値の年平均値の経年変化

### (6) 微小粒子状物質

平成 28 年度の測定局における微小粒子状物質の測定結果は第 3.1-22 表のとおりであり、環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、第 3.1-23 表及び第 3.1-12 図のとおりである。

#### ※ 環境基準とその評価

環境基準：年平均値が  $15\mu\text{g}/\text{m}^3$  以下であり、かつ、日平均値が  $35\mu\text{g}/\text{m}^3$  以下であること。

長期基準：年平均値が  $15\mu\text{g}/\text{m}^3$  以下であること。

短期基準：日平均値のうち年間 98 パーセントタイル値が  $35\mu\text{g}/\text{m}^3$  以下であること。

第 3.1-22 表 微小粒子状物質の測定結果（平成 28 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数 日	年平均値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	日平均値の最高値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	日平均値の 98% 値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	98% 値評価による日平均値が $35.0\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数 日
							日	%			
一般局	鳥取市	鳥取	商	363	14.5	45.1	4	1.1	63	31.4	1

注：1. 用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

2. 環境基準の評価は、測定値の 1 年平均値を長期基準（1 年平均値）と、1 日平均値の年間 98% 値を短期基準（1 日平均値）と比較し、両方を満足した場合に「達成」と評価する。

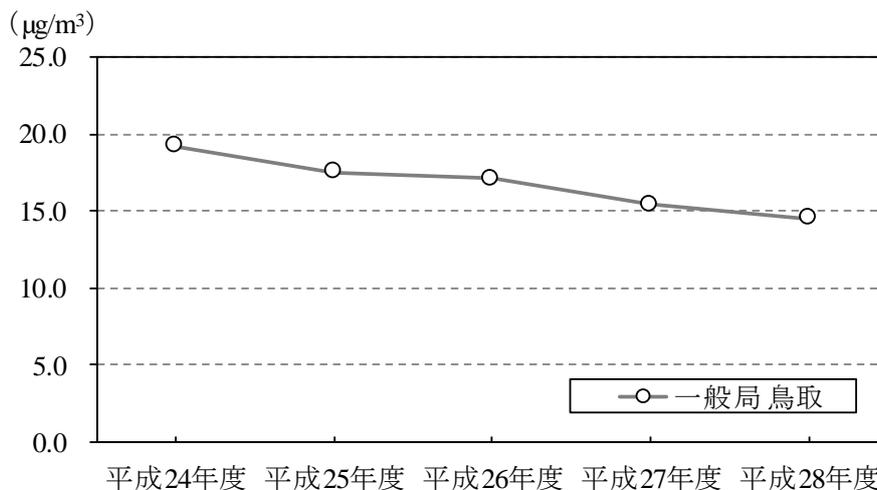
〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-23 表 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )				
			平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
一般局	鳥取市	鳥取	19.2	17.5	17.1	15.4	14.5

注：一般局の鳥取局は、平成 27 年 4 月までは「鳥取保健所（鳥取市江津 730）」、平成 27 年 5 月からは「県庁西町分庁舎（鳥取市西町 1-401）」で測定を実施している。

〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成



〔平成 28 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 29 年）より作成

第 3.1-12 図 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

#### (7) 大気汚染に係る苦情の発生状況

鳥取市における大気汚染に係る公害苦情受理件数は、「平成 29 年度版（平成 28 年度実績）鳥取市の環境」（鳥取市 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）によると、平成 28 年度は 20 件である。

### 3. 騒音の状況

#### (1) 環境騒音の状況

対象事業実施区域及びその周囲における一般環境騒音の状況について、鳥取県において公表された測定結果はない。

#### (2) 自動車騒音の状況

鳥取市における自動車騒音の状況は、鳥取市によって自動車騒音常時監視が行われている。平成 22～27 年度の対象事業実施区域及びその周囲における自動車騒音常時監視の面的評価結果は第 3.1-24 表、評価区間は第 3.1-13 図のとおりである。

#### (3) 騒音に係る苦情の発生状況

鳥取市における騒音に係る公害苦情受理件数は、「平成 29 年度版（平成 28 年度実績）鳥取市の環境」（鳥取市 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）によると、平成 28 年度は 24 件である。

### 4. 振動の状況

#### (1) 環境振動の状況

対象事業実施区域及びその周囲における環境振動の状況について、鳥取市において公表された測定結果はない。

#### (2) 道路交通振動の状況

対象事業実施区域及びその周囲における道路交通振動の状況について、鳥取県において公表された測定結果はない。

#### (3) 振動に係る苦情の発生状況

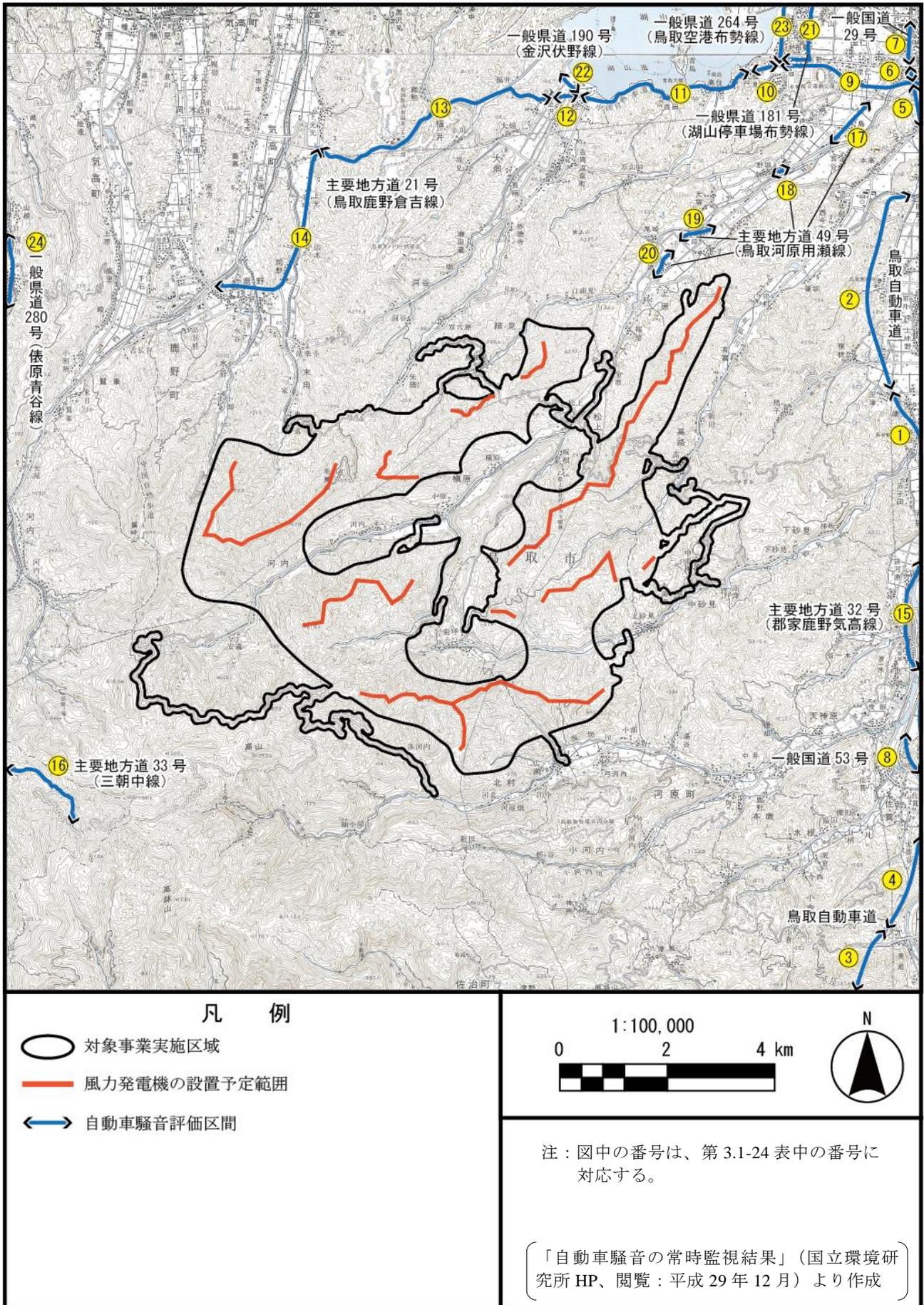
鳥取市における振動に係る公害苦情受理件数は、「平成 29 年度版（平成 28 年度実績）鳥取市の環境」（鳥取市 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）によると、平成 28 年度は 6 件である。

第 3.1-24 表 自動車騒音常時監視の面的評価結果

番号	路線名	報告年度	評価区間 開始点住所	評価区間 終了点住所	車線数	評価区間の 延長 (km)	評価対象住居 等戸数 (戸)	評価結果			
								昼間・夜間とも基準 値以下 (戸)	昼間のみ基準 値以下 (戸)	夜間のみ基準 値以下 (戸)	昼間・夜間とも基準 値超過 (戸)
1	鳥取自動車道	平成 25 年度	鳥取市倭文	鳥取市倭文	2	0.5	4	4	0	0	0
2			鳥取市倭文	鳥取市服部	2	4.7	8	8	0	0	0
3		平成 26 年度	鳥取市用瀬 町川中	鳥取市用瀬 町美成	2	8.5	1	1	0	0	0
4			鳥取市用瀬 町美成	鳥取市河原 町山手	2	4.6	4	4	0	0	0
5	一般国道 29 号	平成 27 年度	鳥取市古海	鳥取市徳尾	4	0.9	11	10	0	1	0
6			鳥取市徳尾	鳥取市徳吉	4	0.5	61	61	0	0	0
7			鳥取市徳吉	鳥取市緑ヶ 丘 3 丁目 21	4	0.7	27	27	0	0	0
8	一般国道 53 号	平成 26 年度	鳥取市河原 町釜口	鳥取市河原 町高福	2	2.3	22	22	0	0	0
9	主要地方道 21 号 (鳥取鹿野倉吉線)	平成 26 年度	鳥取市徳尾	鳥取市桂見	4	2.6	44	43	0	1	0
10		平成 27 年度	鳥取市桂見	鳥取市桂見	2	0.4	5	5	0	0	0
11			鳥取市桂見	鳥取市松原	2	3.6	132	132	0	0	0
12			鳥取市松原	鳥取市金沢	2	0.5	21	21	0	0	0
13			鳥取市金沢	鳥取市気高 町下光元	2	5.3	8	8	0	0	0
14			鳥取市気高 町下光元	鳥取市鹿野 町鹿野	2	4.0	78	78	0	0	0
15	主要地方道 32 号 (郡家鹿野気高線)	平成 24 年度	鳥取市河原 町渡一木	鳥取市河原 町袋河原	2	2.0	204	204	0	0	0
16	主要地方道 33 号 (三朝中線)	平成 26 年度	東伯郡三朝 町大字片柴	東伯郡三朝 町大字中津	2	15.5	101	101	0	0	0
17	主要地方道 49 号 (鳥取河原用瀬線)	平成 24 年度	鳥取市嶋	鳥取市宮谷	2	1.1	31	31	0	0	0
18			鳥取市野坂	鳥取市野坂	2	0.1	6	6	0	0	0
19			鳥取市下段	鳥取市上段	2	0.6	16	16	0	0	0
20			鳥取市上原	鳥取市上原	2	0.6	36	36	0	0	0
21	一般県道 181 号 (湖山停車場布勢線)	平成 26 年度	鳥取市湖山 町東	鳥取市布勢	2	2.3	539	539	0	0	0
22	一般県道 190 号 (金沢伏野線)	平成 24 年度	鳥取市松原	鳥取市金沢	2	0.5	24	24	0	0	0
23	一般県道 264 号 (鳥取空港布勢線)	平成 26 年度	鳥取市湖山 町南	鳥取市桂見	2	1.1	108	99	0	6	3
24	一般県道 280 号 (俵原青谷線)	平成 25 年度	鳥取市青谷 町小畑	鳥取市青谷 町早牛	2	6.9	149	149	0	0	0

注：番号は第 3.1-13 図中の番号に対応する。

[「自動車騒音の常時監視結果」(国立環境研究所 HP、閲覧：平成 29 年 12 月)より作成]



第 3.1-13 図 自動車騒音常時監視の評価区間

### 3.1.2 水環境の状況

#### 1. 水象の状況

##### (1) 河川

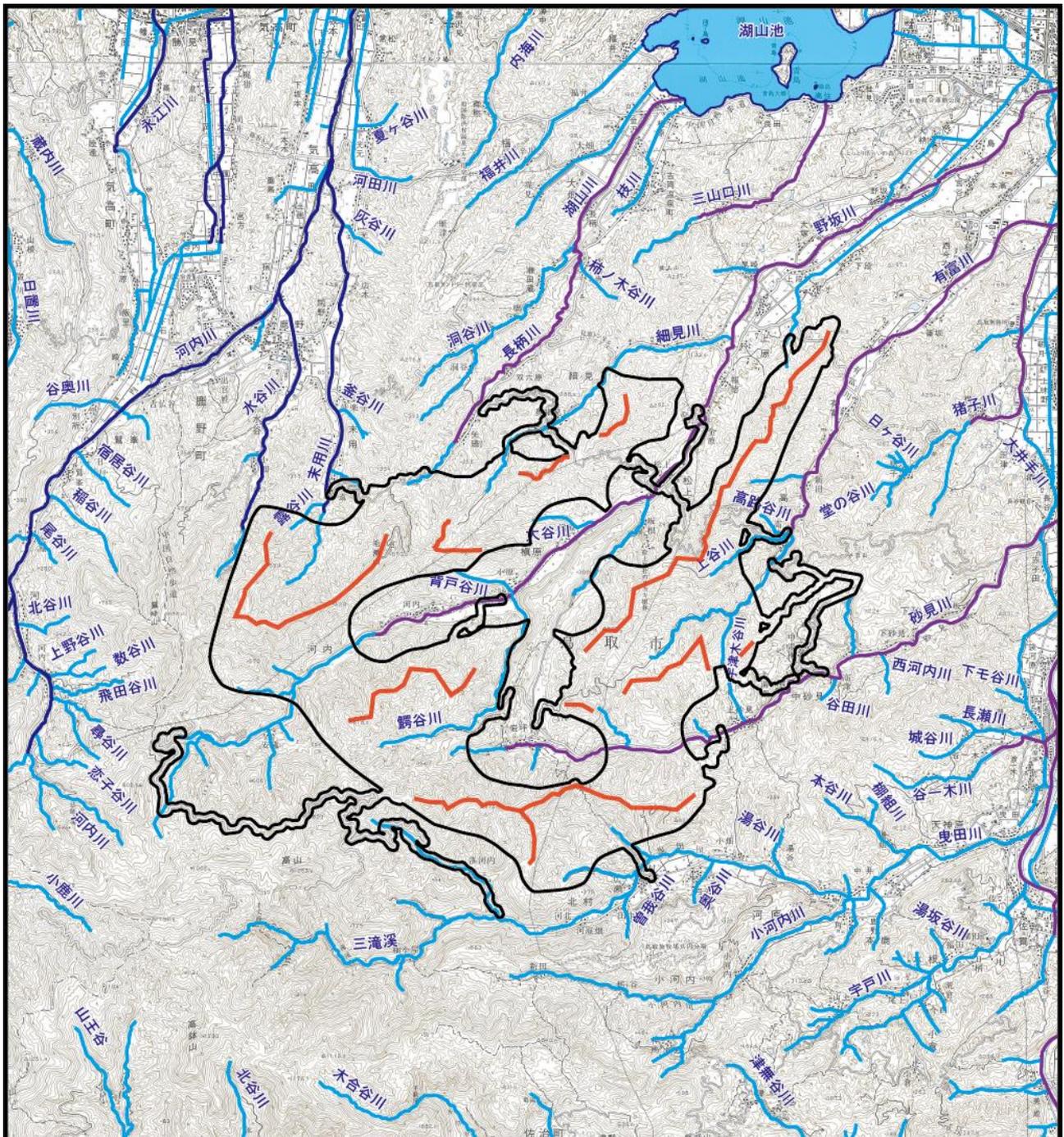
対象事業実施区域及びその周囲の主要な河川の状況は第 3.1-14 図のとおりである。対象事業実施区域の北側には一級河川の湖山川、東側には一級河川の野坂川、南側には一級河川の砂見川、西側には二級河川の河内川などがある。

##### (2) 湖沼

対象事業実施区域及びその周囲には、第 3.1-14 図のとおり湖山池がある。

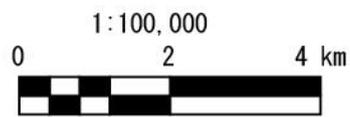
##### (3) 海域

対象事業実施区域及びその周囲に海域は存在しない。



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  一級河川
-  二級河川
-  普通河川
-  湖沼



「国土数値情報（河川データ）」（国土交通省国土政策局国土情報課 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）より作成

第 3.1-14 図 主要な河川及び湖沼の状況

## 2. 水質の状況

### (1) 河川の水質

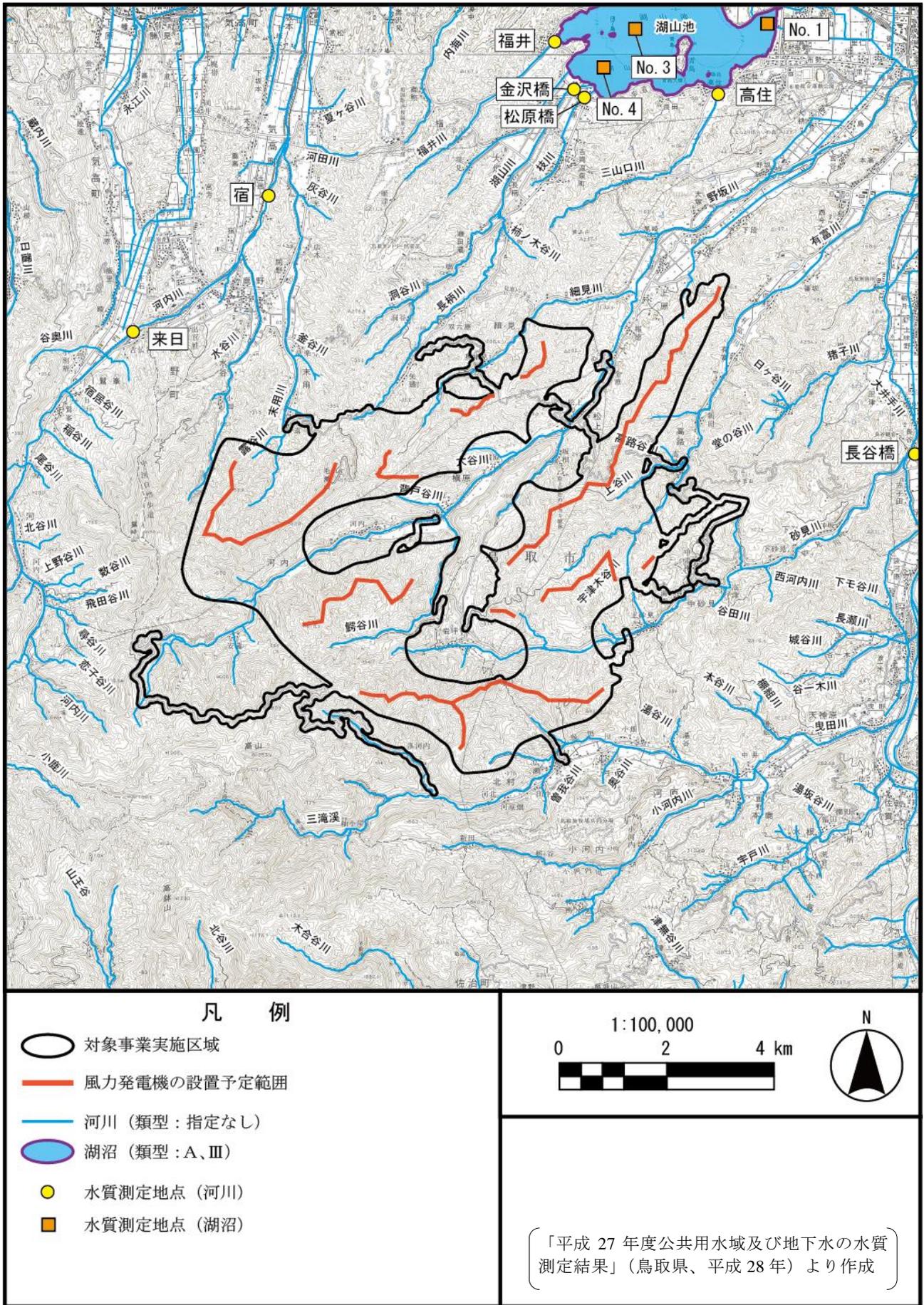
対象事業実施区域及びその周囲における平成 27 年度の河川の水質測定地点は第 3.1-15 図、水質測定結果は第 3.1-25 表のとおりである。

生活環境項目についての環境基準の類型指定は、いずれの測定地点もされていないが、参考として河川 A 類型の基準値と比較すると、水素イオン濃度、溶存酸素、生物化学的酸素要求量及び浮遊物質量は概ね基準値以下であるが、大腸菌群数はいずれの測定地点も基準値を超過している。

湖山池の流入河川である湖山川、枝川、福井川及び三山口川では全窒素及び全磷が測定されている。湖山池は湖沼 III 類型に指定されており、参考としてその環境基準値と比較すると、三山口川の高住の全窒素は環境基準値を下回っているが、その他の地点では全窒素、全磷ともに超過している。

また、水生生物保全項目としては、全亜鉛が測定されており、参考として環境基準値と比較すると、全地点で基準値の 0.03mg/L を下回っている。

健康項目については、測定された全地点、全項目で環境基準値を下回っている。



第 3.1-15 図 水質測定地点

第 3.1-25 表(1) 河川の水質測定結果 (生活環境項目)

水域名	地点名	類型	水素イオン濃度(pH)				溶存酸素量(DO) (mg/L)				
			最小値	最大値	m	n	最小値	最大値	m	n	日間平均値
											平均値
湖山川	金沢橋	—	7.1	7.7	—	12	6.2	13	—	12	10
枝川	松原橋	—	7.1	7.7	—	12	7.7	12	—	12	10
福井川	福井	—	7.1	8.4	—	12	8.5	12	—	12	10
三山口川	高住	—	6.9	7.7	—	12	7.7	12	—	12	9.9
砂見川	長谷橋	—	7.7	8.0	—	4	4.3	11	—	4	8.8
河内川	宿	—	7.1	7.3	—	4	7.4	11	—	4	9.1
	来日	—	7.2	7.4	—	4	7.6	11	—	4	9.2
(参考)環境基準値	A		6.5 以上 8.5 以下				7.5 以上				

水域名	地点名	類型	生物化学的酸素要求量(BOD) (mg/L)						化学的酸素要求量(COD) (mg/L)							
			日間平均値								日間平均値					
			最小値	最大値	x	y	平均値	75%値	最小値	最大値	x	y	平均値	75%値		
湖山川	金沢橋	—	<0.5	2.6	—	12	0.8	0.8	0.9	3.8	—	12	2.1	3.0		
枝川	松原橋	—	<0.5	1.3	—	12	0.7	0.8	0.8	4.8	—	12	2.6	2.8		
福井川	福井	—	<0.5	1.8	—	12	0.8	1.0	0.8	5.8	—	12	2.4	3.0		
三山口川	高住	—	<0.5	1.1	—	12	0.7	0.9	1.5	5.4	—	12	3.2	4.0		
砂見川	長谷橋	—	0.5	0.9	—	4	0.7	0.6	1.1	2.4	—	4	1.7	1.8		
河内川	宿	—	<0.5	0.9	—	4	0.7	0.8	1.8	2.4	—	4	2.1	2.4		
	来日	—	<0.5	0.8	—	4	0.6	0.6	1.3	1.8	—	4	1.5	1.4		
(参考)環境基準値	A		2 以下						—							

水域名	地点名	類型	浮遊物質質量(SS) (mg/L)						大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小値	最大値	m	n	日間平均値	最小値	最大値	m	n	日間平均値	
							平均値					平均値	
湖山川	金沢橋	—	<1	10	—	12	4	130	28,000	—	12	6,200	
枝川	松原橋	—	<1	9	—	12	3	490	92,000	—	12	16,000	
福井川	福井	—	1	29	—	12	6	240	17,000	—	12	5,700	
三山口川	高住	—	<1	20	—	12	4	350	54,000	—	12	10,000	
砂見川	長谷橋	—	1	3	—	4	2	110	130,000	—	4	45,000	
河内川	宿	—	1	3	—	4	2	790	220,000	—	4	63,000	
	来日	—	<1	2	—	4	2	240	49,000	—	4	15,000	
(参考)環境基準値	A		25 以下						1,000 以下				

注：1. 「<」は定量下限値未満であることを示す。

2. 「—」は該当がないことを示す。

3. 「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数、「x」は環境基準に値しない日数、「y」は総観測日を示す。

〔平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果〕(鳥取県、平成 28 年) より作成

第 3.1-25 表(2) 河川の水質測定結果（生活環境項目【全窒素・全磷】）

水域名	地点名	類型	全窒素 (mg/L)					全磷 (mg/L)				
			日間平均値					日間平均値				
			最小値	最大値	x	y	平均値	最小値	最大値	x	y	平均値
湖山川	金沢橋	—	0.25	0.66	—	12	0.43	0.016	0.058	—	12	0.030
枝川	松原橋	—	0.20	0.85	—	12	0.49	0.019	0.099	—	12	0.052
福井川	福井	—	0.36	2.4	—	12	1.00	0.026	0.63	—	12	0.15
三山口川	高住	—	0.10	0.43	—	6	0.28	—	—	—	—	
(参考)環境基準値	湖沼Ⅲ		0.4 以下					0.03 以下				

注：1. 「—」は該当がないことを示す。

2. 「x」は環境基準に値しない日数、「y」は総観測日を示す。

〔「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-25 表(3) 河川の水質測定結果  
（生活環境項目【水生生物保全項目】）

水域名	地点名	類型	全亜鉛 (mg/L)				
			最小値	最大値	m	n	平均値
湖山川	金沢橋	—	<0.001	0.003	—	12	0.001
枝川	松原橋	—	<0.001	0.012	—	12	0.004
福井川	福井	—	<0.001	0.003	—	12	0.001
三山口川	高住	—	0.001	0.004	—	12	0.002
砂見川	長谷橋	—	0.001	0.002	—	4	0.001
河内川	来日	—	0.001	0.021	—	4	0.007
(参考)環境基準値	河川の全類型		0.03 以下				

注：1. 「—」は該当がないことを示す。

2. 「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数を示す。

〔「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-25 表(4) 河川の水質測定結果（健康項目）

水域名		湖山川	枝川	砂見川	河内川	河内川	環境基準
測定地点名		金沢橋	松原橋	長谷橋	宿	来日	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	—	—	—	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	—	—	—	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	—	—	—	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	—	—	—	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	—	—	—	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	0.31	<0.08	0.08	<0.08	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は報告下限値未満であることを示す。

2. 「—」は該当がないことを示す。

〔「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

## (2) 湖沼の水質

対象事業実施区域及びその周囲における平成 27 年度の湖沼の水質測定は湖山池の 3 地点で行われており、水質測定地点は第 3.1-15 図、水質測定結果は、第 3.1-26 表のとおりである。

水素イオン等の生活環境項目は、3 地点ともすべての項目で、環境基準値の超過が見られる。また、全窒素及び全窒素についても、3 地点全てで環境基準値を超過している。健康項目については、測定された全地点、全項目で環境基準値を下回っている。

第 3.1-26 表(1) 湖沼の水質測定結果（生活環境項目）

水域名	地点名	類型	水素イオン濃度(pH)				溶存酸素量(DO) (mg/L)				
			最小値	最大値	m	n	最小値	最大値	m	n	日間平均値
											平均値
湖山池	布勢地先 (No.1)	A	7.8	9.0	10	24	5.9	12	3	24	9.6
	中央部 (No.3)	A	7.8	9.0	11	24	5.9	12	4	24	9.5
	松原地先 (No.4)	A	7.8	8.8	9	24	6.1	12	3	24	9.3
環境基準値(湖沼)		A	6.5 以上 8.5 以下				7.5 以上				

水域名	地点名	類型	化学的酸素要求量(COD) (mg/L)					
			日間平均値					
			最小値	最大値	x	y	平均値	75% 値
湖山池	布勢地先 (No.1)	A	3.6	6.7	12	12	5.0	5.8
	中央部 (No.3)	A	3.6	5.8	12	12	5.0	5.7
	松原地先 (No.4)	A	4.1	6.9	12	12	5.6	6.4
環境基準値(湖沼)		A	3 以下					

水域名	地点名	類型	浮遊物質質量(SS) (mg/L)					大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小値	最大値	m	n	日間平均値	最小値	最大値	m	n	日間平均値
							平均値					平均値
湖山池	布勢地先 (No.1)	A	4	22	23	24	12	240	17,000	19	24	2,600
	中央部 (No.3)	A	4	18	22	24	10	49	24,000	14	24	2,900
	松原地先 (No.4)	A	7	24	24	24	14	220	4,900	17	24	1,900
環境基準値(湖沼)		A	5 以下					1,000 以下				

注：「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数、「x」は環境基準に値しない日数、「y」は総観測日を示す。

〔平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果〕（鳥取県、平成 28 年）より作成

第 3.1-26 表(2) 湖沼の水質測定結果（生活環境項目【全窒素・全磷】）

水域名	地点名	類型	全窒素 (mg/L)					全磷 (mg/L)				
			日間平均値					日間平均値				
			最小値	最大値	x	y	平均値	最小値	最大値	x	y	平均値
湖山池	布勢地先 (No.1)	III	0.55	1.0	12	12	0.74	0.048	0.21	12	12	0.099
	中央部 (No.3)	III	0.62	1.0	12	12	0.75	0.056	0.21	12	12	0.10
	松原地先 (No.4)	III	0.66	1.1	12	12	0.83	0.067	0.22	12	12	0.13
環境基準値 (湖沼)		III	0.4 以下					0.03 以下				

注：「x」は環境基準に値しない日数、「y」は総観測日を示す。

〔平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果〕（鳥取県、平成 28 年）より作成

第 3.1-26 表(3) 湖沼の水質測定結果（生活環境項目【水生生物保全項目】）

水域名	地点名	類型	全亜鉛 (mg/L)					フェノール				
			最小値	最大値	m	n	平均値	最小値	最大値	m	n	平均値
湖山池	布勢地先 (No.1)	—	<0.001	0.014	—	24	0.006	—	—	—	—	—
	中央部 (No.3)	—	<0.001	0.013	—	24	0.006	<0.001	<0.001	—	1	<0.001
	松原地先 (No.4)	—	<0.001	0.014	—	24	0.006	—	—	—	—	—
(参考)環境基準値		湖沼の全類型	0.03 以下					—				

水域名	地点名	類型	ホルムアルデヒド (mg/L)				
			最小値	最大値	m	n	平均値
湖山池	布勢地先 (No.1)	—	—	—	—	—	—
	中央部 (No.3)	—	<0.003	<0.003	—	1	<0.003
	松原地先 (No.4)	—	—	—	—	—	—
(参考)環境基準値		湖沼の全類型	—				

注：1. 「—」は該当がないことを示す。

2. 「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数を示す。

3. 「<」は報告下限値未満であることを示す。

〔平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果〕（鳥取県、平成 28 年）より作成

第 3.1-26 表(4) 湖沼の水質測定結果（健康項目）

水域名 測定地点名		湖山池			環境基準
		布勢地先 (No.1)	中央部 (No.3)	松原地先 (No.4)	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	0.24	0.2	0.2	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	0.5	0.6	0.5	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

注：「<」は報告下限値未満であることを示す。

〔「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

### (3) 地下水の水質

対象事業実施区域及びその周囲における地下水の水質測定は、概況調査及び継続監視調査が行われており、調査が行われた井戸がある範囲は第 3.1-16 図、測定結果は第 3.1-27 表のとおりである。

概況調査は定点方式又はローリング方式で行われており、対象事業実施区域及びその周囲では、平成 23 年度に 2 地点、平成 25 年度に 1 地点、平成 26 年度に 1 地点、平成 27 年度に 2 地点で測定されており、全地点、全項目で環境基準値を下回っている。

継続監視調査は、朝月で砒素、用瀬町用瀬でふっ素の調査がそれぞれ行われており、いずれも環境基準値の超過が見られる。

第 3.1-27 表(1) 地下水水質の測定結果 (概況調査)

測定年度		平成 23 年度		平成 25 年度	環境基準
市		鳥取市		鳥取市	
地区名		赤子田	横枕	五反田町	
用途区分		その他	その他	工業用水井戸	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下※
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.01	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	—	—	<0.002	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	<0.1	<0.1	0.1	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	0.09	0.41	0.22	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	0.1	1 mg/L 以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	—	—	<0.002	—
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は報告下限値未満であること（検出されないこと）を示す。

2. 「—」は該当がないことを示す。

3. 「※」のクロロエチレン（別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）の環境基準は平成 29 年 4 月 1 日から適用されており、水質測定時には適用されていない。

〔「公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：29 年 12 月）  
 「平成 25 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 27 年）  
 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 9 号）より作成〕

第 3.1-27 表(2) 地下水水質の測定結果 (概況調査)

測定年度		平成 26 年度	平成 27 年度		環境基準
市		鳥取市	鳥取市		
地区名		佐貫	徳尾	高住	
用途区分		生活用水井戸	一般飲用井戸	一般飲用井戸	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下※
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	2.3	0.4	1.4	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	0.08	<0.08	0.09	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	1 mg/L 以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	—
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は報告下限値未満であること（検出されないこと）を示す。

2. 「—」は該当がないことを示す。

3. 「※」のクロロエチレン（別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）の環境基準は平成 29 年 4 月 1 日から適用されており、水質測定時には適用されていない。

〔平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果〕（鳥取県、平成 28 年）  
 〔平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果〕（鳥取県、平成 28 年）  
 〔水質汚濁に係る環境基準について〕（昭和 46 年環境庁告示第 9 号）より作成

第 3.1-27 表(3) 地下水水質の測定結果（継続監視調査【砒素】）

市	鳥取市					環境基準	
地区名	朝月						
用途区分	一般飲用井戸						
測定年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度		
砒素	mg/L	0.008	<0.005	0.010	0.016	0.019	0.01 mg/L 以下

「公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：29 年 12 月）  
 「平成 25 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 27 年）  
 「平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）  
 「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）  
 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 9 号）より作成

第 3.1-27 表(4) 地下水水質の測定結果（継続監視調査【ふっ素】）

市	鳥取市					環境基準	
地区名	用瀬町用瀬						
用途区分	生活用水井戸						
測定年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度		
ふっ素	mg/L	0.84	0.92	0.97	0.88	0.92	0.8mg/L 以下

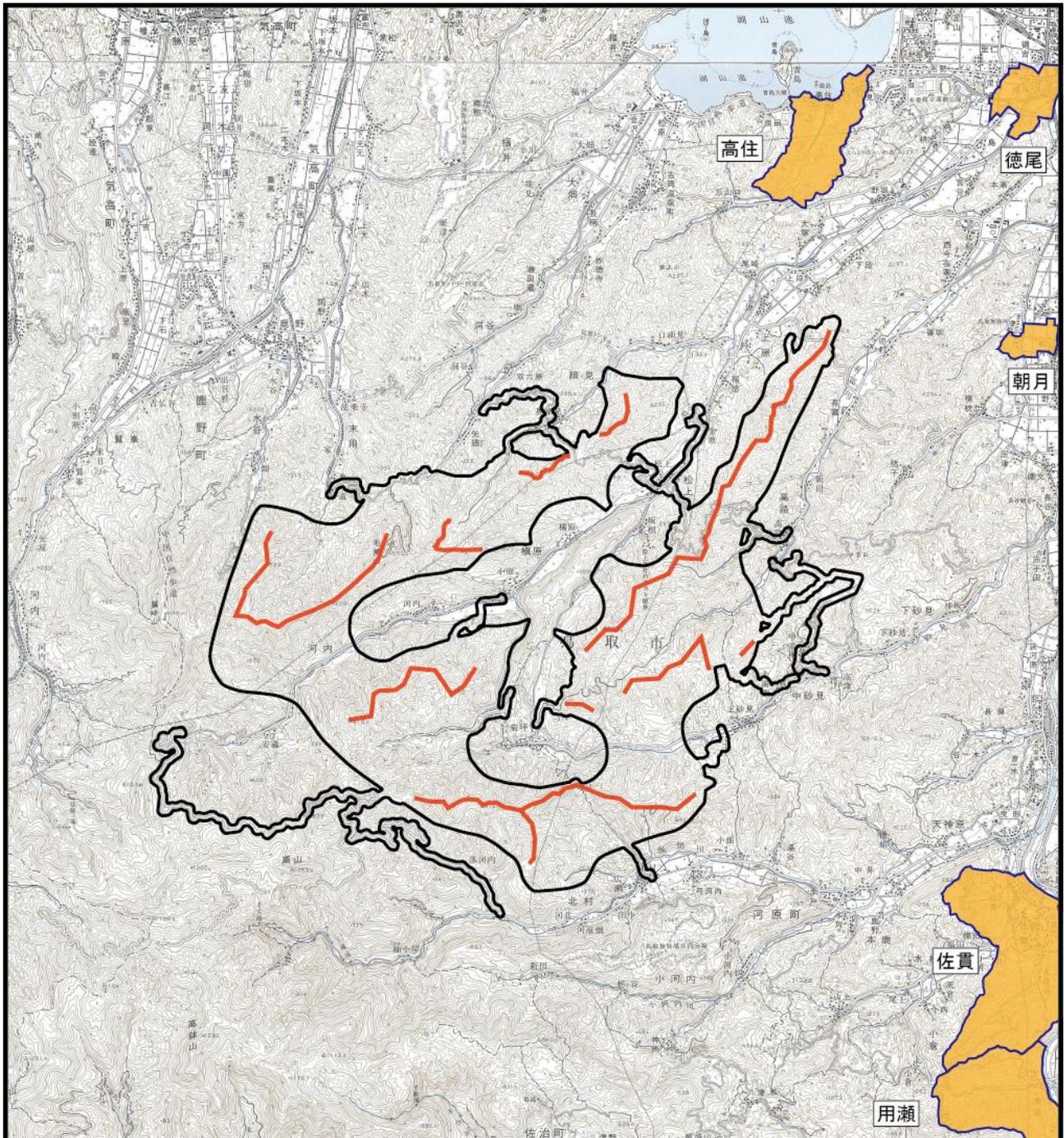
「公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：29 年 12 月）  
 「平成 25 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 27 年）  
 「平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）  
 「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 28 年）  
 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 9 号）より作成

(4) 水質に係る苦情の発生状況

鳥取市における水質に係る公害苦情受理件数は、「平成 29 年度版（平成 28 年度実績）鳥取市の環境」（鳥取市 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）によると、平成 28 年度は 13 件である。

3. 水底の底質の状況

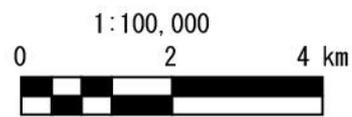
対象事業実施区域及びその周囲には、「水質汚濁防止法」（昭和 45 年法律第 138 号、最終改正：平成 28 年 5 月 20 日）第 16 条の規定により鳥取県が作成する「公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づき実施された底質の測定結果はない。



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  調査区域

注：地下水質の測定地点の井戸は図中の調査区域の範囲にあるが、具体的な位置は示されていない。



「公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、  
 閲覧：29年12月）  
 「平成25年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」  
 （鳥取県、平成27年）  
 「平成26年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」  
 （鳥取県、平成28年）  
 「平成27年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」  
 （鳥取県、平成28年）より作成

第 3.1-16 図 地下水水質の測定地点

### 3.1.3 土壌及び地盤の状況

#### 1. 土壌の状況

##### (1) 土壌

対象事業実施区域及びその周囲における土壌の状況は第 3.1-17 図のとおりである。

対象事業実施区域は主に乾性褐色森林土壌及び褐色森林土壌からなっている。

##### (2) 土壌汚染

「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域（平成 29 年 11 月 30 日現在）」（環境省、平成 29 年）によると、対象事業実施区域及びその周囲では、「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号、最終改正：平成 29 年 6 月 2 日）に基づいた要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はされていない。

##### (3) 土壌汚染に係る苦情の発生状況

鳥取市における土壌汚染に係る公害苦情受理件数は、「平成 29 年度版（平成 28 年度実績）鳥取市の環境」（鳥取市 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）によると、平成 28 年度は 0 件である。

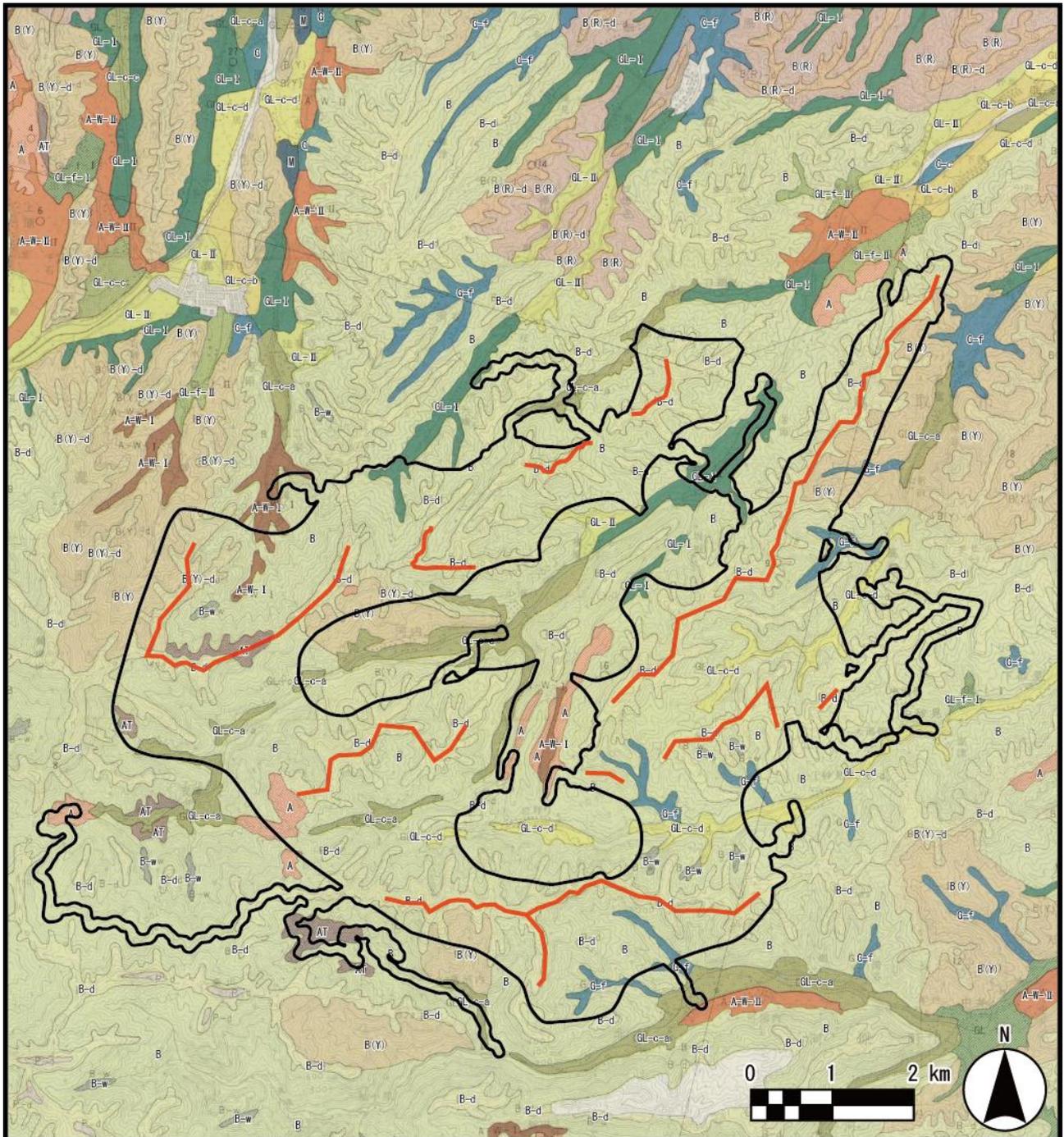
#### 2. 地盤の状況

##### (1) 地盤沈下の状況

「平成 27 年度 全国の地盤沈下地域の概況」（環境省、平成 28 年）によると、対象事業実施区域及びその周囲において地盤沈下は確認されていない。

##### (2) 地盤沈下に係る苦情の発生状況

鳥取市における地盤沈下に係る公害苦情受理件数は、「平成 29 年度版（平成 28 年度実績）鳥取市の環境」（鳥取市 HP、閲覧：平成 29 年 12 月）によると、平成 28 年度は 0 件である。



凡 例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機の設置予定範囲

厚層黒ボク土壌	褐色森林土壌(黄褐色)
黒ボク土壌	褐色森林土壌(赤褐色)
多湿黒ボク土壌 I	湿性褐色森林土壌
多湿黒ボク土壌 II	乾性ポドソル化土壌
乾性褐色森林土壌	細粒灰色低地土壌 I
乾性褐色森林土壌(黄褐色系)	細粒灰色低地土壌 II
乾性褐色森林土壌(赤褐色系)	灰色低地土壌 I
褐色森林土壌	灰色低地土壌 II

粗粒灰色低地土壌a	細粒グライ土壌
粗粒灰色低地土壌b	グライ土壌
粗粒灰色低地土壌c	粗粒グライ土壌
粗粒灰色低地土壌b	黒泥土壌
	試杭点位置及び番号

〔土地分類基本調査 土じょう図 鳥取北部・鳥取南部〕  
 (鳥取県、昭和 51 年) より作成

第 3.1-17 図 土壌図

### 3.1.4 地形及び地質の状況

#### 1. 地形の状況

対象事業実施区域及びその周囲における地形の状況は第 3.1-18 図のとおりである。対象事業実施区域及びその周囲の南西部には高鉢山などの 1,000m を越す山地があつて中国山脈の一部をなし、北方や北東方に次第に高度を低下する地勢を示している。対象事業実施区域は、主に山地の中起伏山地及び小起伏山地からなっている。

「日本の典型地形」(財)日本地図センター、平成 11 年)によると、対象事業実施区域及びその周囲における典型地形は第 3.1-28 表及び第 3.1-19 図のとおりであり、対象事業実施区域には、「鹿野断層」が存在する。

また、対象事業実施区域及びその周囲は「世界ジオパーク」に認定されている「山陰海岸ジオパーク」のエリアの一部となっている。対象事業実施区域の周囲には、「湖山池」、「吉岡温泉」、「安蔵・岩坪」及び「鹿野」の各ジオサイトがあり、特徴的な地形・地質及び天然記念物などが見どころとなっている。

第 3.1-28 表 対象事業実施区域及びその周囲における地形の状況 (典型地形)

地形項目		名称	所在地
地殻の変動による地形	地震断層	吉岡断層	鳥取市
		鹿野断層	鳥取市
	その他の断層崖	岩坪断層	鳥取市
地質を反映した地形	柱状節理・板状節理	御熊(ミクマ)神社の柱状節理	鳥取市御熊
河川的作用による地形	河川争奪地形	今市付近	鳥取市
		吉岡温泉町付近	鳥取市吉岡温泉町
	風隙	岩坪付近	鳥取市
	谷中分水界	今市付近	鳥取市
	湧泉・湧泉群	布施の清水	鳥取市気高町殿
	三角洲	鳥取平野	鳥取市
海的作用による地形	潟湖(ラグーン)	湖山池(コヤマイケ)	鳥取市

〔「日本の典型地形」(財)日本地図センター、平成 11 年)より作成〕

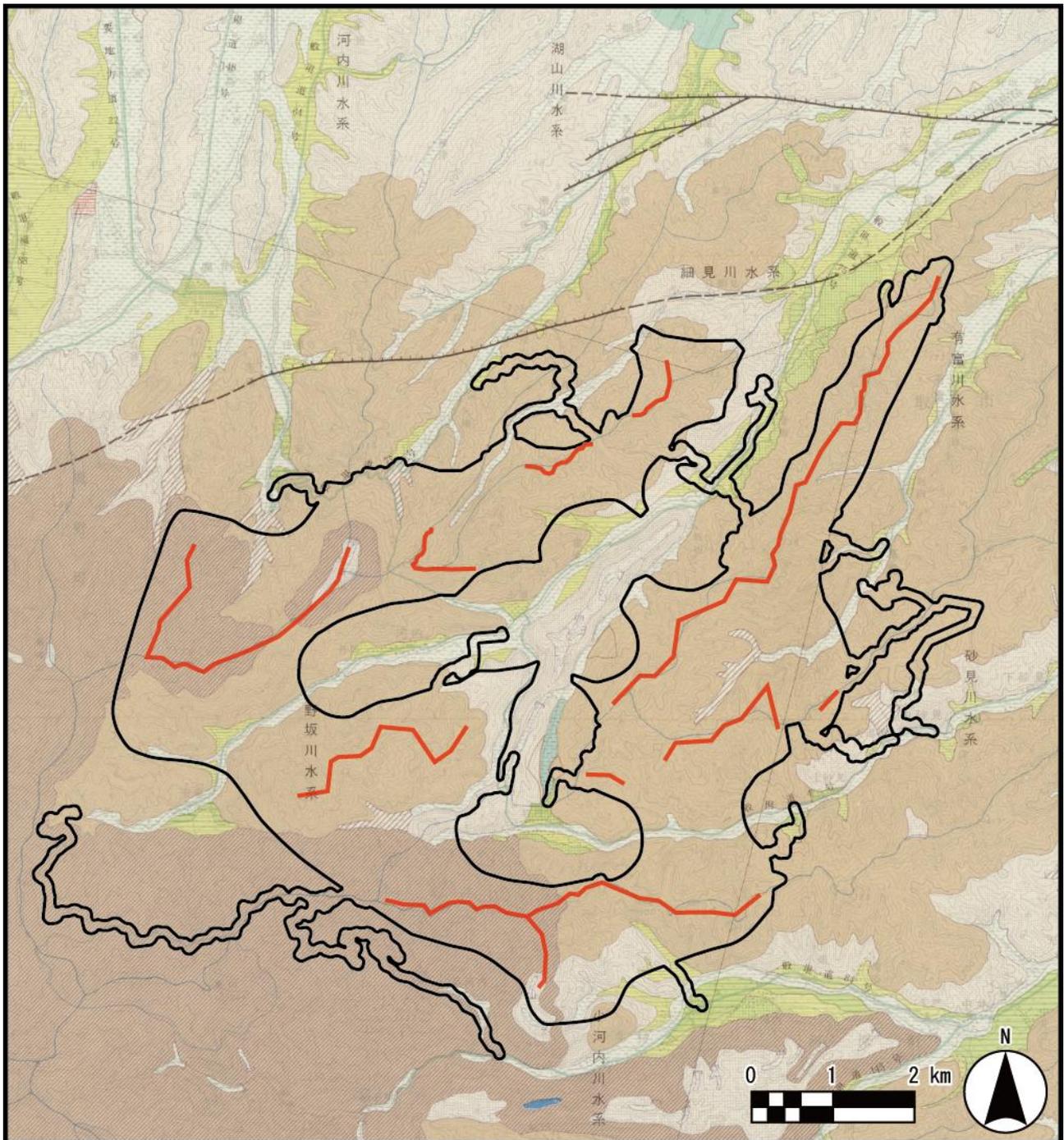
#### 2. 地質の状況

対象事業実施区域及びその周囲における表層地質の状況は第 3.1-20 図のとおりである。対象事業実施区域は北部が主に深成岩の花崗岩質岩石 3 (鳥取花崗岩-中生代第三期侵入岩)から、南部が主に火山性岩石の流紋岩質岩石 1 (中生代火山岩類)等からなっている。

#### 3. 重要な地形・地質

「日本の地形レッドデータブック第 1 集」(日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 12 年)において選定された保存すべき地形は存在しない。

また、「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)により指定されている重要な地形・地質は第 3.1-21 図のとおりであり、対象事業実施区域の周囲に鳥取県指定の名勝「三滝溪」及び天然記念物「鹿野地震断層の痕跡」、鳥取市指定の天然記念物「御熊神社玄武岩柱状節理」が存在する。



凡 例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機の設置予定範囲

山地

- 中起伏山地
- 小起伏山地
- 山頂緩斜面
- 山麓地

台地

- 砂礫台地Gt I
- 砂礫台地Gt II
- 砂礫台地Gt III
- 砂礫台地Gt IV
- 砂礫台地Gt V
- 古崖錐

低地

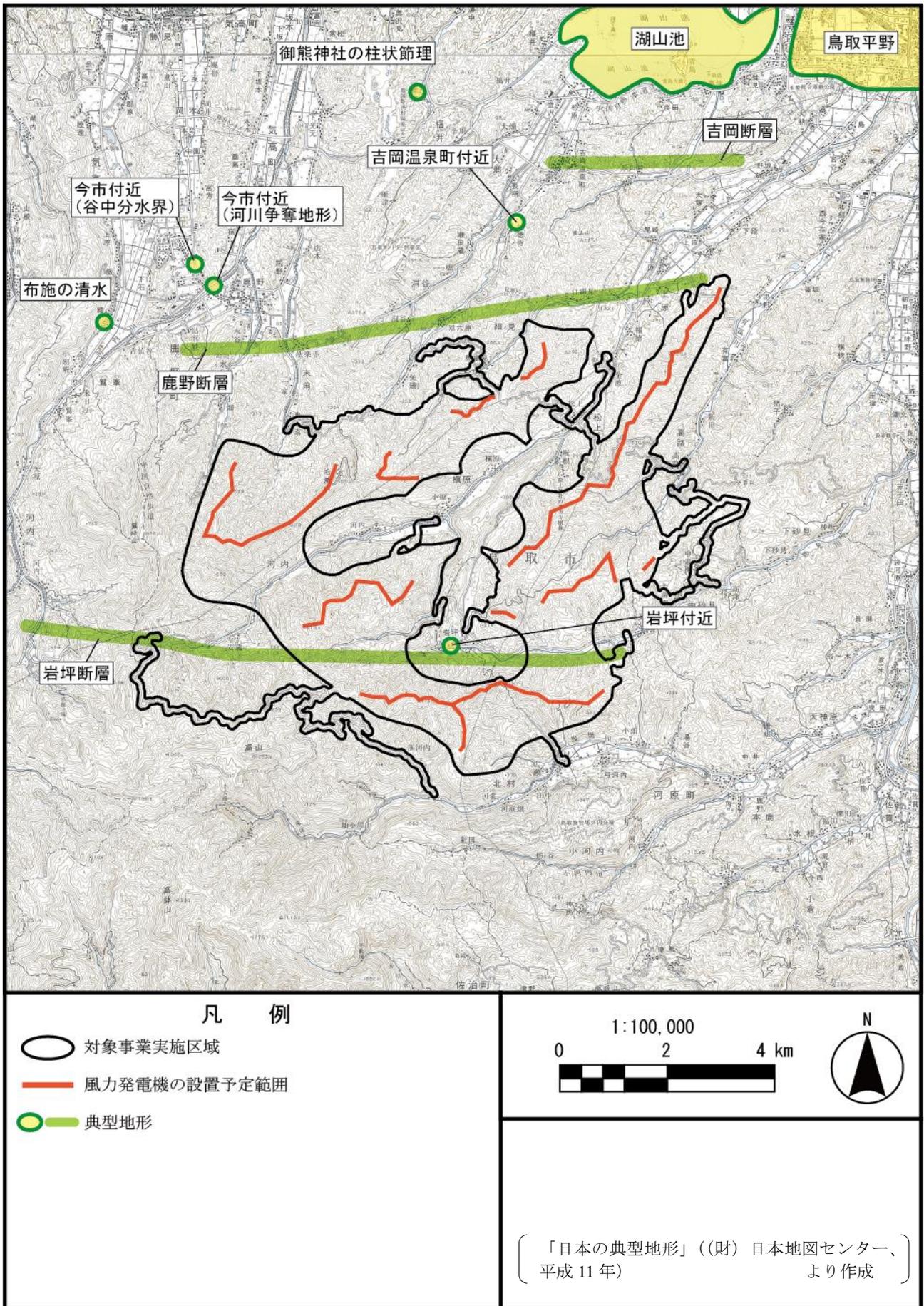
- 谷底平野
- 三角州

その他

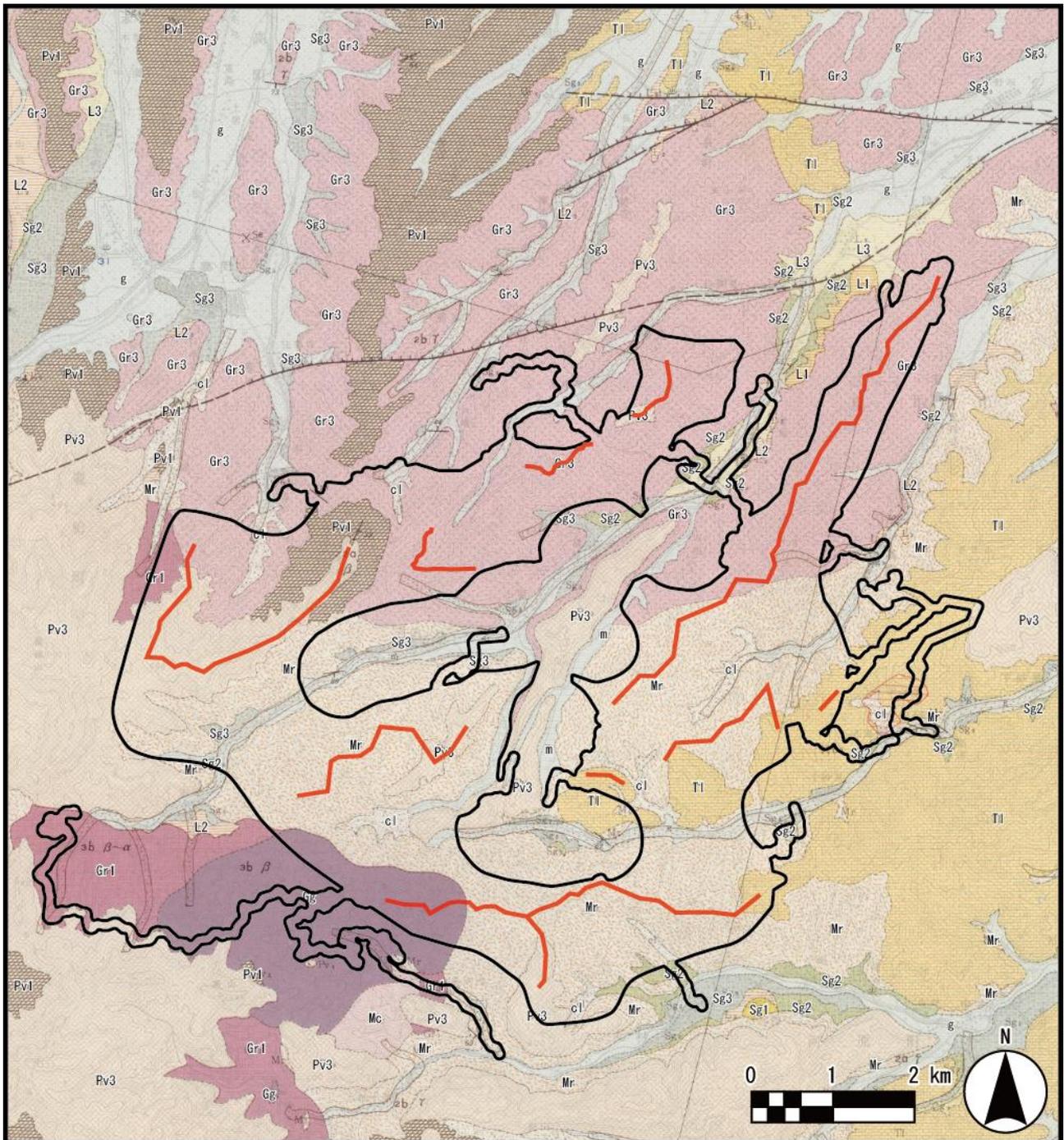
- 崖
- 遷急点
- 崖錐
- 湿地
- 二級水系河川流域界
- 主要地方道
- 人工改变地
- 活断層

「土地分類基本調査 地形分類図 鳥取北部・鳥取南部」  
(鳥取県、昭和 51 年) より作成

第 3.1-18 図 対象事業実施区域及びその周囲における地形の状況 (地形分類図)



第 3.1-19 図 対象事業実施区域及びその周囲における地形の状況 (典型地形)



**凡 例**

- 対象事業実施区域
- 風力発電機の設置予定範囲

未固結堆積物

- 礫
- 泥
- 砂屑物 + 火山灰土

半固結堆積物

- 砂礫3
- 砂礫2
- 砂礫1

半固結～固結堆積物

- L3 ローム3(大山上部火山灰)
- L2 ローム2(大山中部火山灰)
- L1 ローム1(ローム2 + 粘土)
- Cg1 礫岩・砂岩(郡家礫岩層)
- Mc 泥岩・砂岩(砂屑岩)

火山性岩石  
(固結火山性岩石)

- Pv3 安山岩質岩石
- Pv1 火山砕屑岩(白兔層)
- Tu 荒金火砕岩
- T1 河原火砕岩
- Mr 流紋岩質岩石1

深成岩

- Gr3 花崗岩質岩石3(鳥取花崗岩)
- Gr1 花崗岩質岩石1(鉛山花崗岩)
- Gg 斑礫岩質岩石(若杉山斑礫岩)

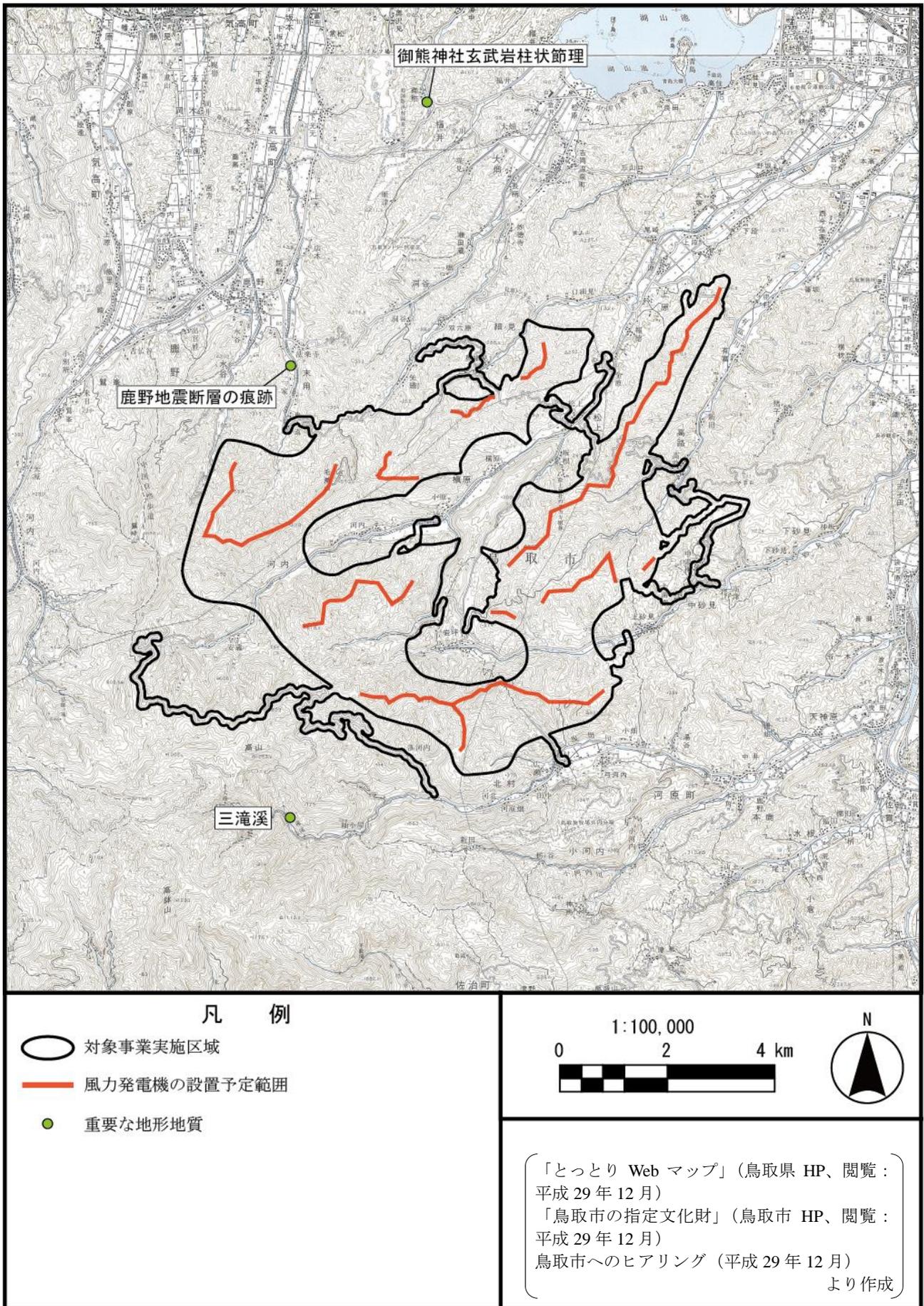
その他

- 地すべり防止区域
- 砂防指定地
- 基盤深度(m)ならびに基盤の種類
- 鉱山
- 試錐番号
- 活断層
- 走向傾斜

- |        |        |         |
|--------|--------|---------|
| 岩体のかたさ | 岩片のかたさ | 風化状況    |
| 1: 軟   | a: 軟   | α: ごく浅い |
| 2: 中   | b: 中   | β: 中程度  |
| 3: 硬   | c: 硬   | γ: ごく深い |

〔「土地分類基本調査 表層地質図 鳥取北部・鳥取南部」  
(鳥取県、昭和51年)より作成〕

第 3.1-20 図 表層地質の状況



第 3.1-21 図 重要な地形・地質

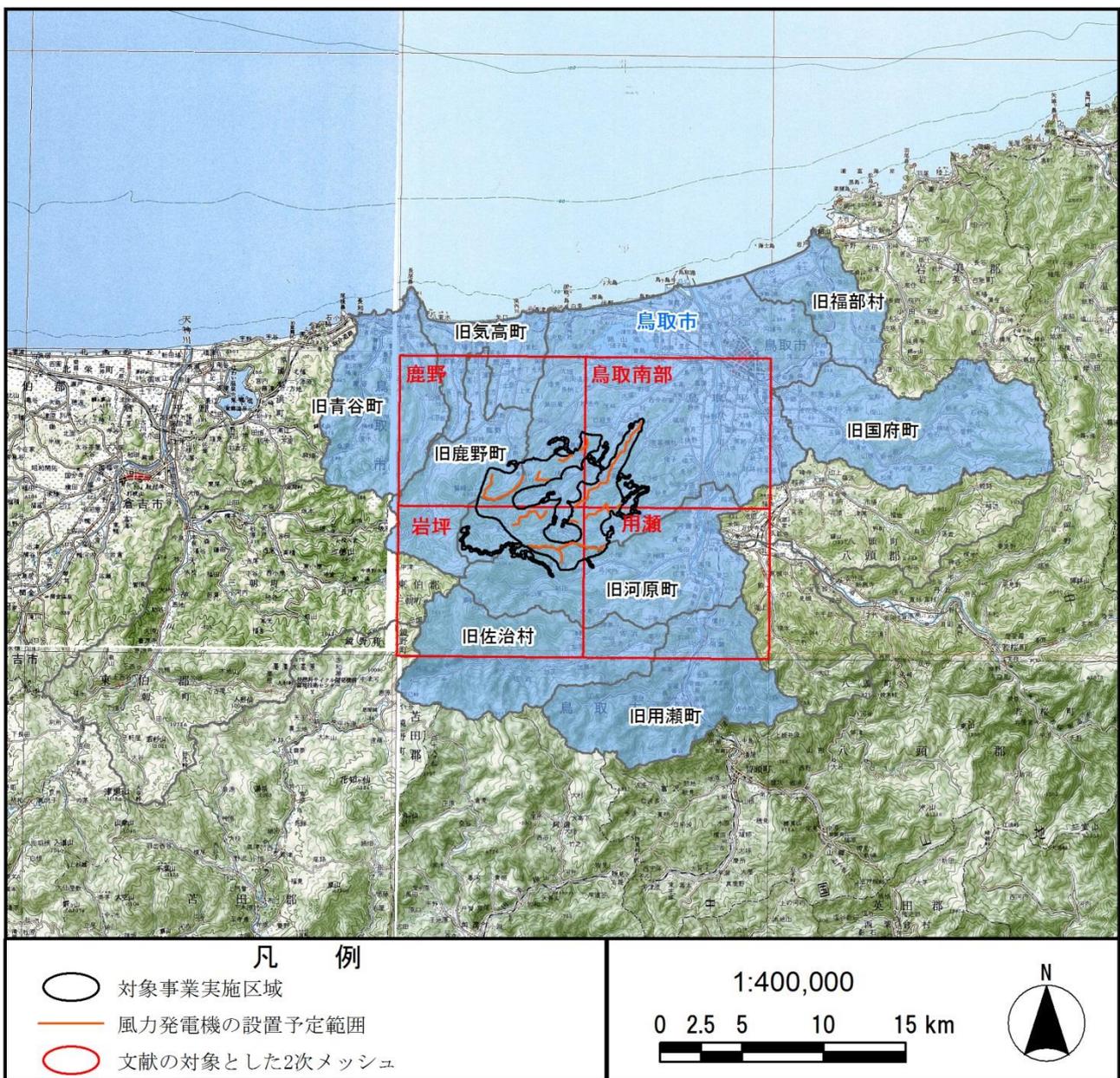
### 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

#### 1. 動物の生息の状況

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、対象事業実施区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「レッドデータブックとっとり改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－」（鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年）、鳥取市（鳥取市、旧福部村、旧国府町、旧気高町、旧青谷町、旧鹿野町、旧佐治村、旧河原町、旧用瀬町）の各町史等）により整理した。

また、「自然環境保全基礎調査」については、対象事業実施区域が含まれる 2 次メッシュ<sup>注</sup>として、「鹿野」「岩坪」「鳥取南部」及び「用瀬」を対象とした。調査範囲は第 3.1-22 図のとおりである。

注：国土地理院発行の 1/25,000 の地形図名称



第 3.1-22 図 文献その他の資料調査の範囲

### (1) 動物相の概要

対象事業実施区域及びその周囲の動物相の概要は、第 3.1-29 表のとおりであり、哺乳類 31 種、鳥類 223 種、爬虫類 15 種、両生類 19 種、昆虫類 1,031 種、魚類 82 種及び底生動物 14 種の計 1,415 種が確認されている。

第 3.1-29 表(1) 動物相の概要

分類	文献名	確認種数	主な確認種
哺乳類	「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」(環境庁、昭和 54-56 年)	7 種	カワネズミ、コキクガシラ ラコウモリ、キクガシラ コウモリ、アブラコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、ヤマネ、スミスネズミ、アカネズミ、ツキノワグマ、タヌキ、テン、チョウセンイタチ、ニホンアナグマ、イノシシ等 (合計 31 種)
	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	10 種	
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	5 種	
	「第 6 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 16 年)	7 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	11 種	
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	8 種	
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	1 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	19 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	6 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	8 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	9 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	6 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	14 種	
	「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業(鳥取県鳥取市情報整備モデル地区における地域固定環境情報調査事業)委託業務 報告書 公開版」(中外テクノス株式会社、平成 28 年)	10 種	
鳥類	「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」(環境庁、昭和 54-56 年)	74 種	ヤマドリ、ヒシクイ、マガン、オシドリ、カイツブリ、キジバト、コウノトリ、コグンカンドリ、ヒメウ、ヨシゴイ、ヘラサギ、ヨタカ、ハリオアマツバメ、タゲリ、タシギ、ミツユビカモメ、ウミスズメ、ハチクマ、サシバ、ノスリ、イヌワシ、クマタカ、コノハズク、コゲラ、ヤイロチョウ、サンショウクイ、コガラ、ヤマガラ、メボソムシクイ、マミジロ、トラツグミ等 (合計 223 種)
	「第 3 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、昭和 63 年)	56 種	
	「第 6 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 16 年)	84 種	
	「生物多様性システム ガンカモ類の生息調査」(環境省 HP、閲覧：平成 30 年 1 月)	23 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	68 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	6 種	
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	42 種	
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	15 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	73 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	19 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	28 種	
	「新修 気高町誌」(鳥取市、平成 18 年)	77 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	186 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	88 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	132 種	
	「千代川の自然」(藤島弘純、平成 6 年)	46 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	91 種	
	「湖山の歴史と文化 霞の里」(湖山地区自治会・湖山地区公民館、平成 24 年)	3 種	
	「とっとりの野鳥」(鳥取県農林水産部森林保全課、平成 15 年)	95 種	
	「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業(鳥取県鳥取市情報整備モデル地区における地域固定環境情報調査事業)委託業務 報告書 公開版」(中外テクノス株式会社、平成 28 年)	52 種	

第 3.1-29 表(2) 動物相の概要

分類	文献名	確認種数	主な確認種
爬虫類	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	0 種	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、カミツキガメ、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ (合計 15 種)
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	9 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	4 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	0 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	11 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	6 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	9 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	8 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	0 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	8 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	0 種	
	「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業(鳥取県鳥取市情報整備モデル地区における地域固定環境情報調査事業)委託業務 報告書 公開版」(中外テクノス株式会社、平成 28 年)	8 種	
両生類	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	1 種	カスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、オオサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ヌマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル (合計 19 種)
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	8 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	10 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	2 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	11 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	9 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	6 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	8 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	1 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	13 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	3 種	
	「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業(鳥取県鳥取市情報整備モデル地区における地域固定環境情報調査事業)委託業務 報告書 公開版」(中外テクノス株式会社、平成 28 年)	6 種	
昆虫類	「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」(環境庁、昭和 54-56 年)	12 種	コバネアオイトトンボ、アオモンイトトンボ、ムカシトンボ、ハラビロカマキリ、ハマスズ、ヤマトマダラバッタ、ニイニイゼミ、アカスジカメムシ、コガタシマトビケラ、ホシチャバネセセリ、オナガシジミ、コムラサキ、ジャコウアゲハ本土亜種、ニホンアミカモドキ、ゴヘイニクバエ、オオヒョウタンゴミムシ、ハラビロハンミョウ、クロゲンゴロウ、ツノアカヤマアリ、ニッポンハナダカバチ等 (合計 1,031 種)
	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	60 種	
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	174 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	91 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	2 種	
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	49 種	
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	73 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	107 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	113 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	33 種	
	「新修 気高町誌」(鳥取市、平成 18 年)	40 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	91 種	
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	188 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	144 種	
	「鳥取県立博物館研究報告 第 47 号 鳥取県のアリ類」(鳥取県立博物館、平成 22 年)	62 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	87 種	
	「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業(鳥取県鳥取市情報整備モデル地区における地域固定環境情報調査事業)委託業務 報告書 公開版」(中外テクノス株式会社、平成 28 年)	604 種	

第 3.1-29 表(3) 動物相の概要

分類	文献名	確認種数	主な確認種
魚類	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	37 種	スナヤツメ南方種、カワヤツメ、ニホンウナギ、コノシロ、コイ、ゲンゴロウブナ、ギンプナ、ヤリタナゴ、ドジョウ、シマドジョウ、ギギ、ゴンズイ、ワカサギ、アユ、ニッコウイワナ、サクラマス、ニホンイトヨ、ドンコ、カワアナゴ、シロウオ、ミミズハゼ、チチブ等  (合計 82 種)
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	31 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	16 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	2 種	
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	27 種	
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	19 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	17 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	15 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	14 種	
	「新修 気高町誌」(鳥取市、平成 18 年)	35 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	13 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	6 種	
	「鳥取県立博物館研究報告 第 30 号 鳥取市湖山池の魚類について」(鳥取県立博物館、平成 5 年)	28 種	
	「鳥取県立博物館研究報告 第 33 号 鳥取県千代川水系の魚類」(鳥取県立博物館、平成 8 年)	51 種	
	「千代川の自然」(藤島弘純、平成 6 年)	54 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	42 種	
	「湖山の歴史と文化 霞の里」(湖山地区自治会・湖山地区公民館、平成 24 年)	17 種	
「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業 (鳥取県鳥取市情報整備モデル地区における地域固定環境情報調査事業) 委託業務 報告書 公開版」(中外テクノス株式会社、平成 28 年)	10 種		
底生動物	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	3 種	マルタニシ、カワニナ、モノアラガイ、マルドブガイ、マシジミ、テナガエビ、アメリカザリガニ、モクズガニ等  (合計 14 種)
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	7 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	7 種	
	「湖山の歴史と文化 霞の里」(湖山地区自治会・湖山地区公民館、平成 24 年)	2 種	
合計	1,415 種		

注：哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年)、鳥類の種名は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(日本鳥学会 平成 24 年)に準拠した。

対象事業実施区域及びその周囲では、哺乳類は、「第 2 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 54~56 年)、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5~6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13~14 年)及び「第 6 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 16 年)によるとキクガシラコウモリ、ノウサギ、ニホンリス、ツキノワグマ、タヌキ、テン、ニホンアナグマ等が確認されている。

鳥類は、「第 2 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 54~56 年)、「第 3 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 63 年)及び「第 6 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 16 年)では、ヤマドリ、オシドリ、ヨタカ、サシバ、コノハズク、サンショウクイ、コガラ、メボソムシクイ、トラツグミ等が確認されている。

「ガンカモ類の生息調査」(環境省 HP、閲覧：平成 30 年 1 月)においては、ガン、カモ、ハクチョウ類の渡来数が掲載されている。対象事業実施区域及びその周囲にある調査地点は、第 3.1-23 図のとおり「湖山池」の 1 地点であった。平成 23 年度から平成 28 年度までの調査において、第 3.1-30 表のとおりマガモ、ヨシガモ、ホシハジロ、ミコアイサ等の計 15 種が確認されている。

「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版)によると、ノスリは第 3.1-24 図のとおり春季に対象事業実施区域内及び周囲で渡り経路が確認されている。ハチクマは第 3.1-26 図のとおり春季及び秋季に対象事業実施区域及びその周囲において渡り経路が確認されている。また、サシバは第 3.1-25 図のとおり対象事業実施区域の周囲において渡り経路は確認されていない。イヌワシ及びクマタカについては第 3.1-27 図のとおり対象事業実施区域を含むメッシュで生息が確認されている。

爬虫類は、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5~6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13~14 年)によると、ニホンイシガメ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ジムグリ、ヒバカリ等が確認されている。

両生類は、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5~6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13~14 年)によると、カスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、オオサンショウウオ、アカハライモリ、トノサマガエル、ニホンヒキガエル、モリアオガエル、カジカガエル等が確認されている。

昆虫類は、「第 2 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 54~56 年)、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5~6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13~14 年)によると、ホソミオツネトンボ、ムカシトンボ、ニイニイゼミ、オナガシジミ、コムラサキ、ジャコウアゲハ本土亜種等が確認されている。

魚類は、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5~6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13~14 年)によると、スナヤツメ南方種、ニホンウナギ、ギギ、サクラマス、サツキマス、ニホンイトヨ、ドンコ、チチブ等が確認されている。

底生動物は、「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)によると、マルタニシ、マルドブガイ、マシジミ、テナガエビ、アメリカザリガニ、モクズガニ等が確認されている。

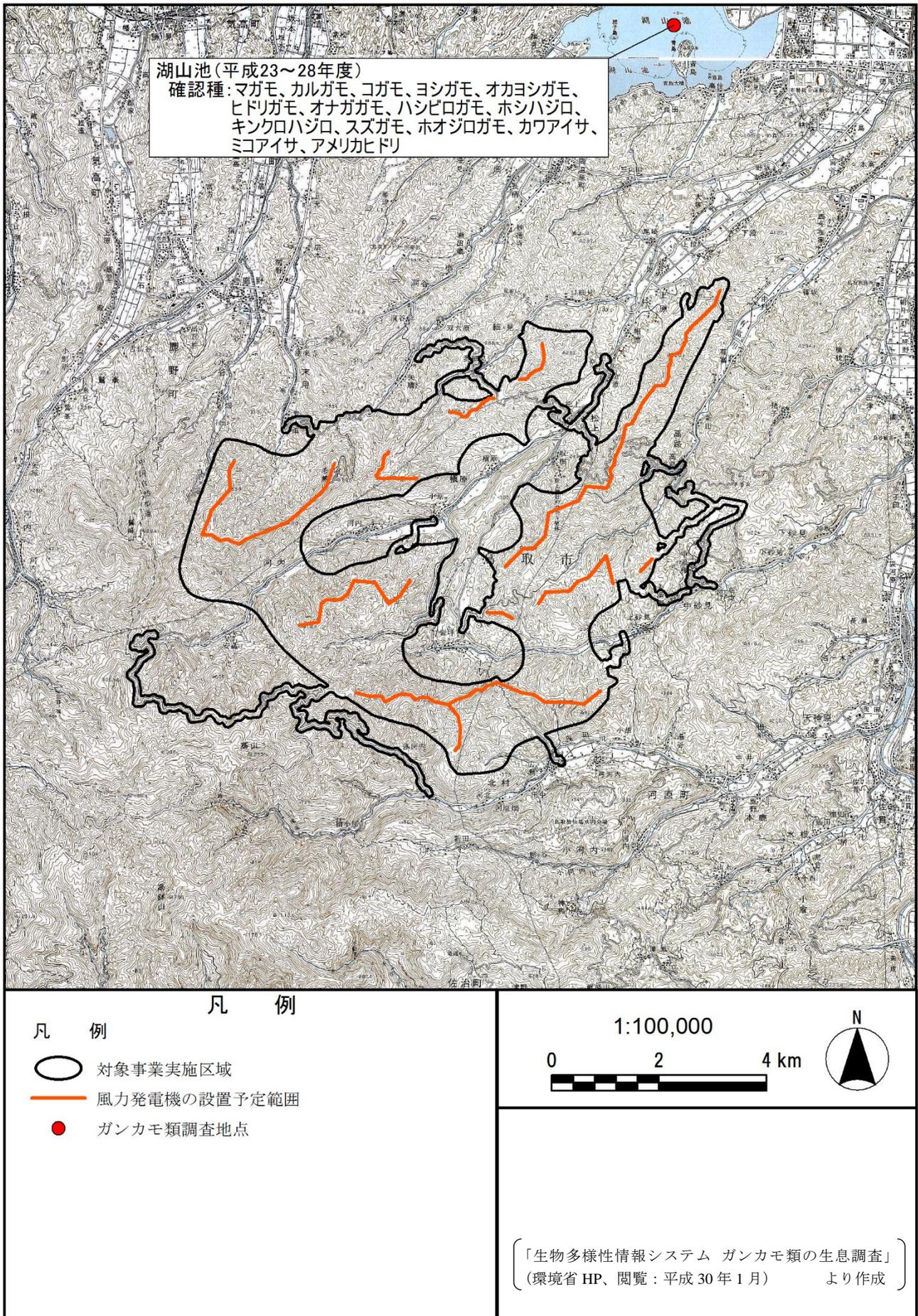
第 3.1-30 表 ガンカモ類の渡来数

調査地点名 (事業実施区域までの およその距離)	調査年度	マガモ	カルガモ	コガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	カワアイサ	ミコアイサ	アメリカカヒドリ	カモ類不明種
湖山池 (約 2km)	平成 23 年度	755	426	7			184	20		92	81		10		6		
	平成 24 年度	259	491	10	7		157			454	237	10	13	1	11		55
	平成 25 年度	667	436	14	14		192	6		373	407	9	24		15	1	27
	平成 26 年度	780	401	7			533	1		107	171	8	19		5		3
	平成 27 年度	598	237	11	1		483	13	1	65	104		4		3		
	平成 28 年度	204	146				1	19	1		1029	925	830	17		3	

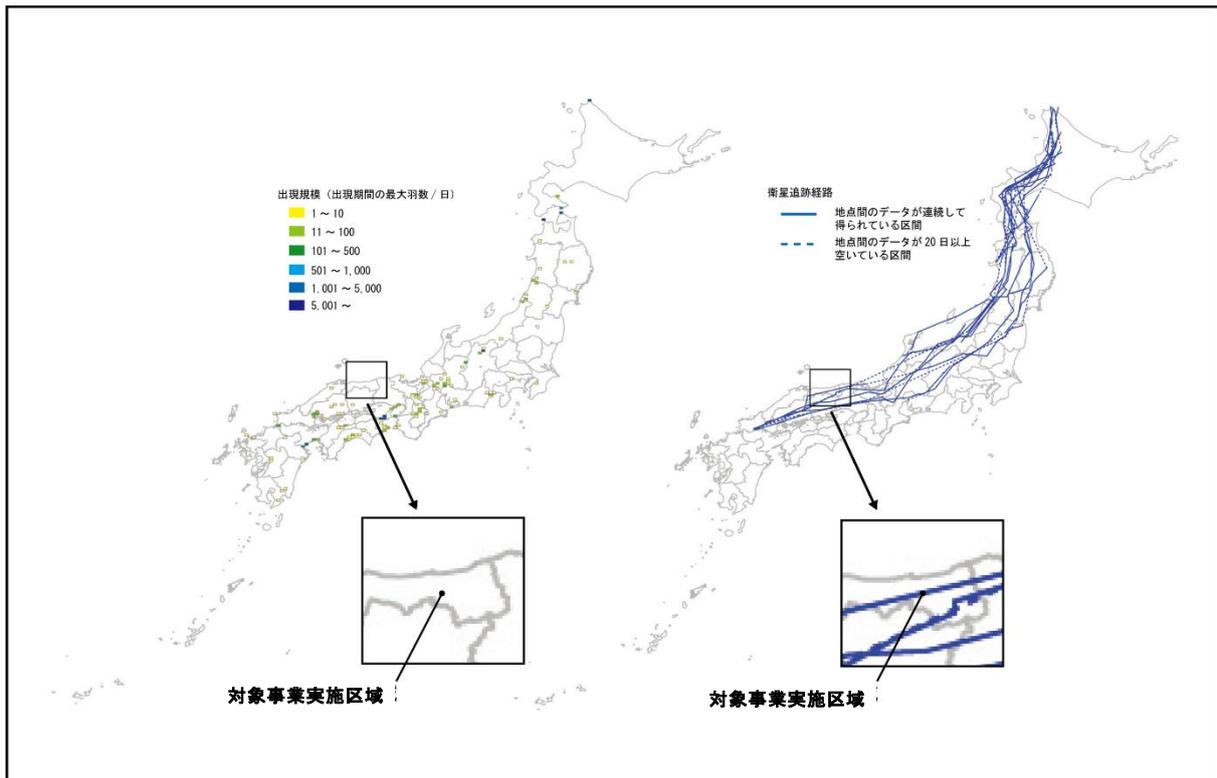
注：1. 調査は各年度 1 月に行われている。

2. 調査対象種のうち、確認されていない種については割愛した。

「生物多様性情報システム ガンカモ類の生息調査」(環境省 HP、閲覧：平成 30 年 1 月)  
より作成

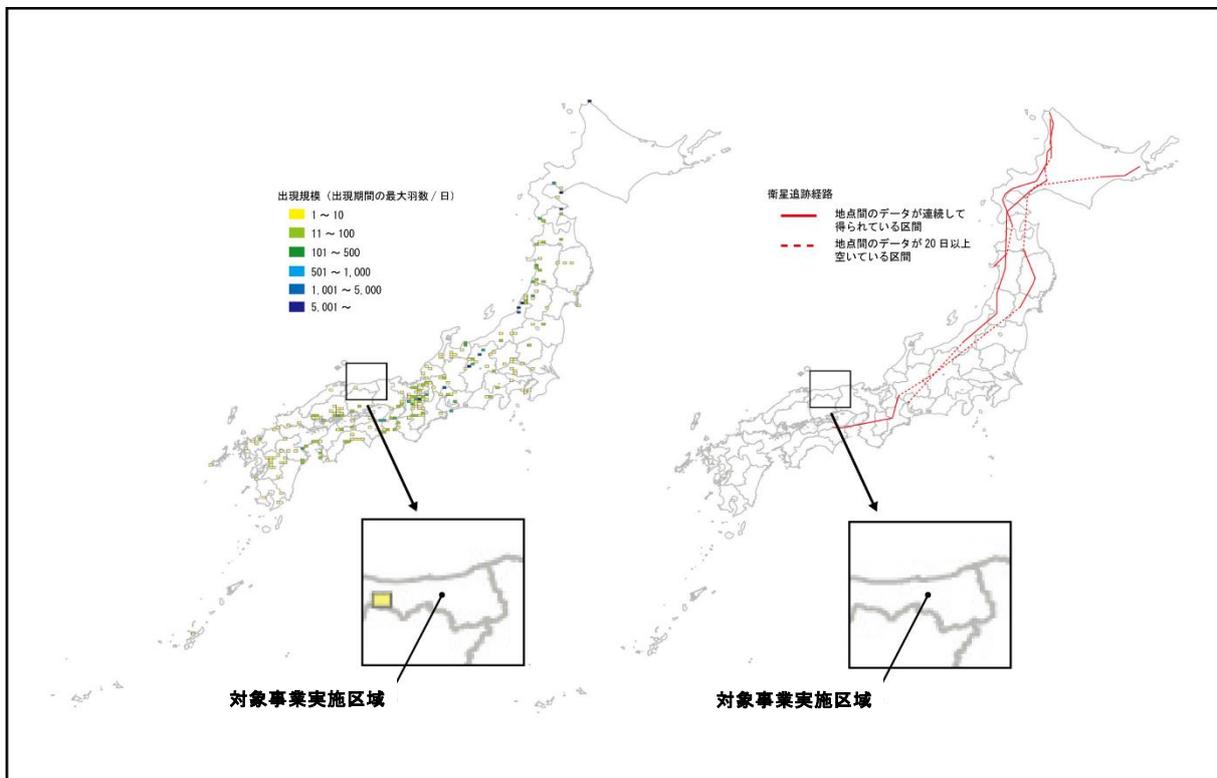


第 3.1-23 図 ガンカモ類の調査地点



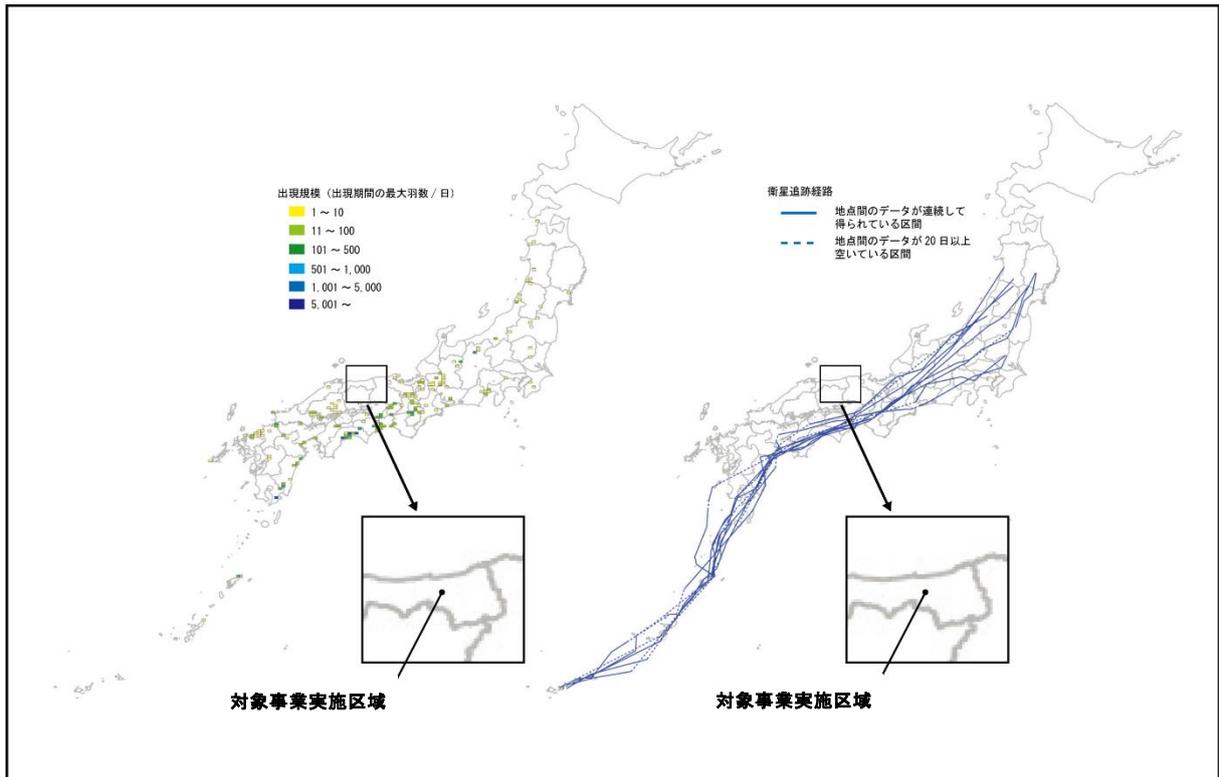
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) より作成〕

第 3.1-24 図(1) ノスリの渡り経路 (春季)



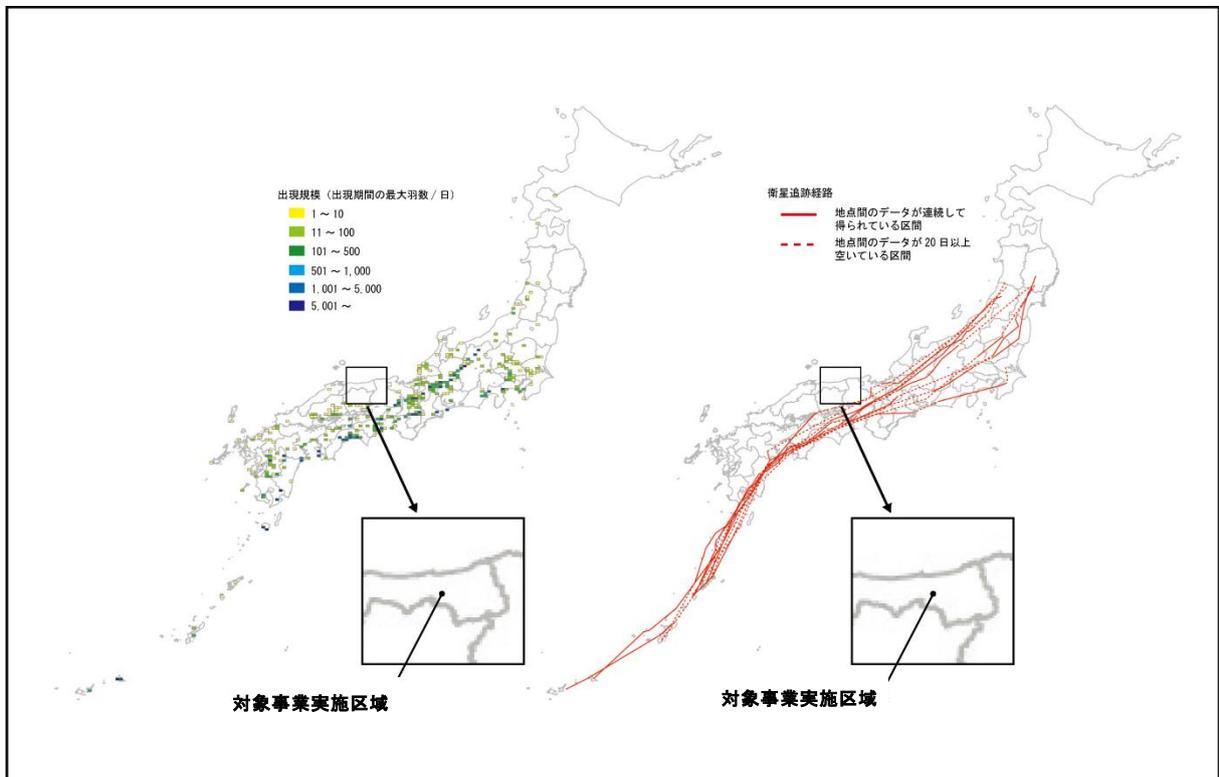
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) より作成〕

第 3.1-24 図(2) ノスリの渡り経路 (秋季)



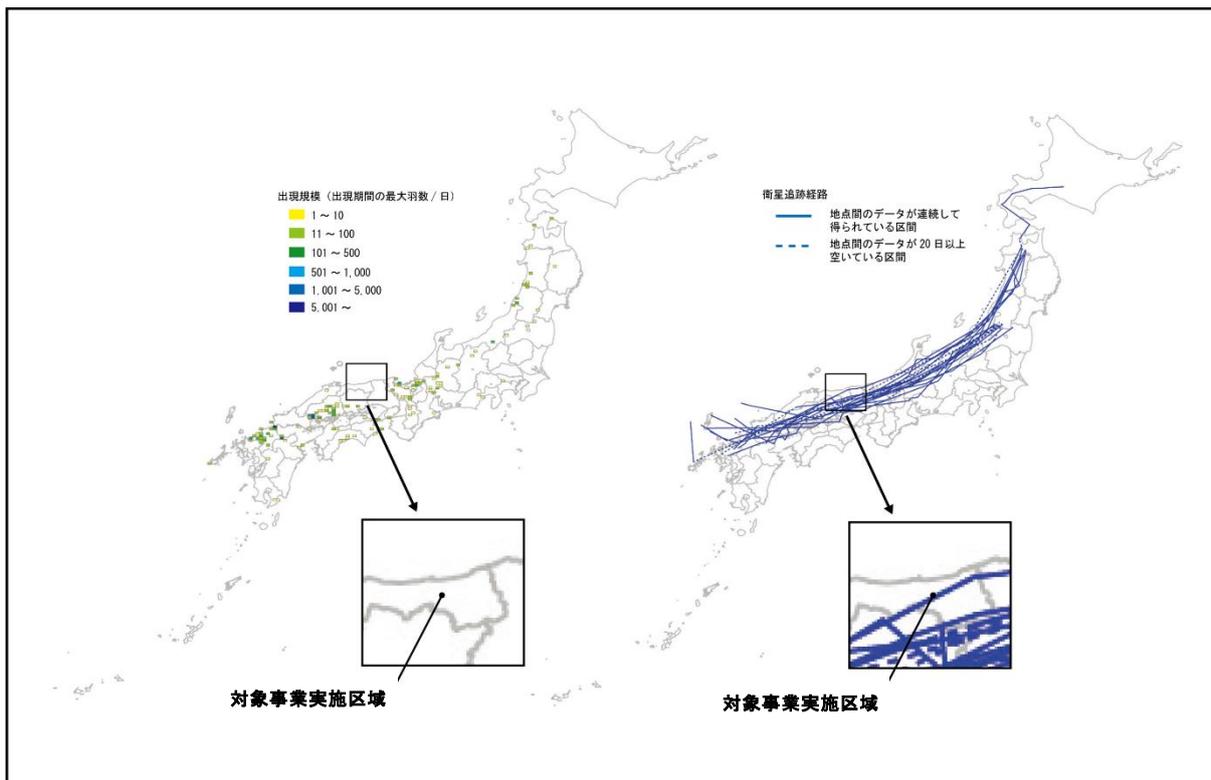
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-25 図(1) サシバの渡り経路（春季）



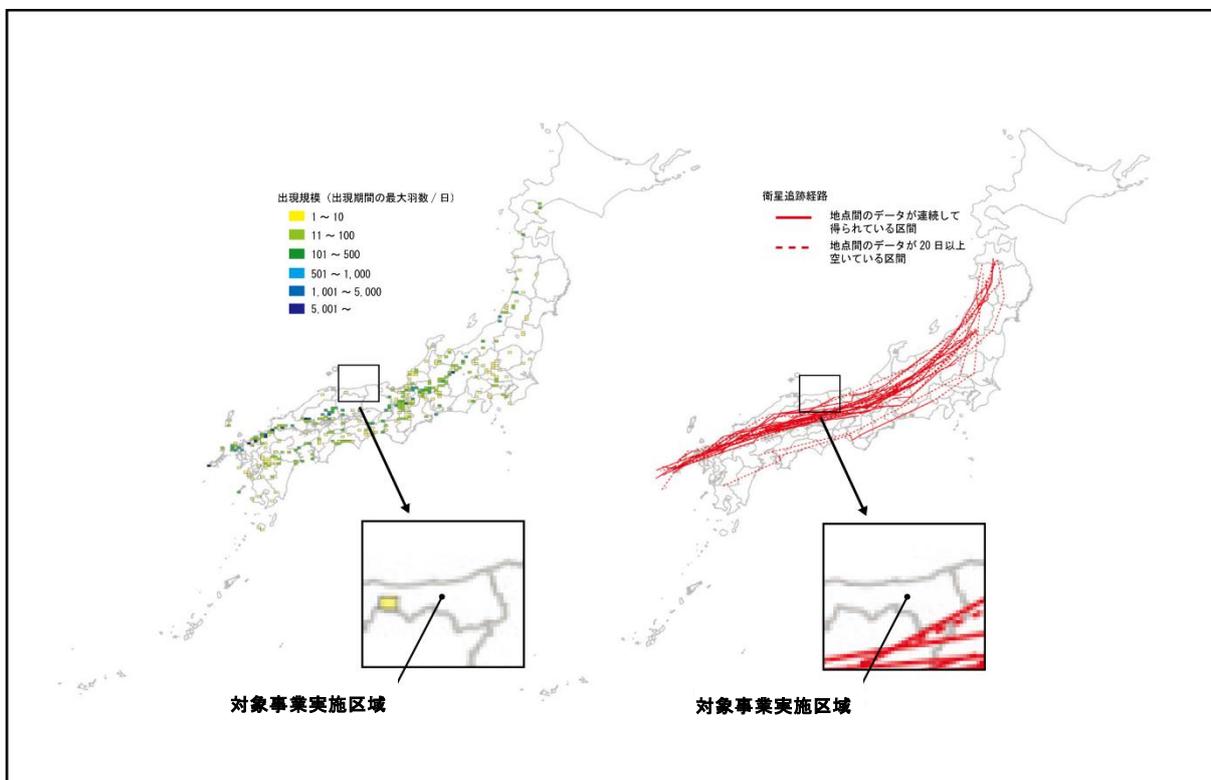
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-25 図(2) サシバの渡り経路（秋季）



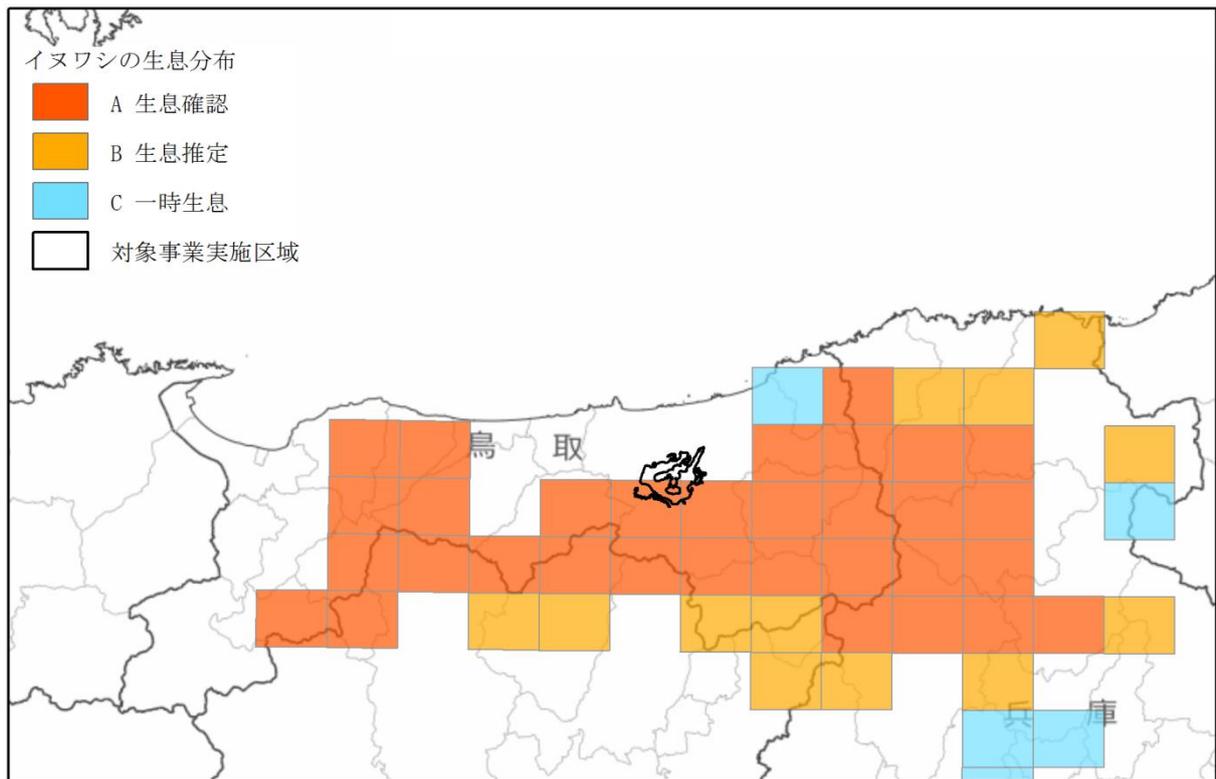
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-26 図(1) ハチクマの渡り経路（春季）



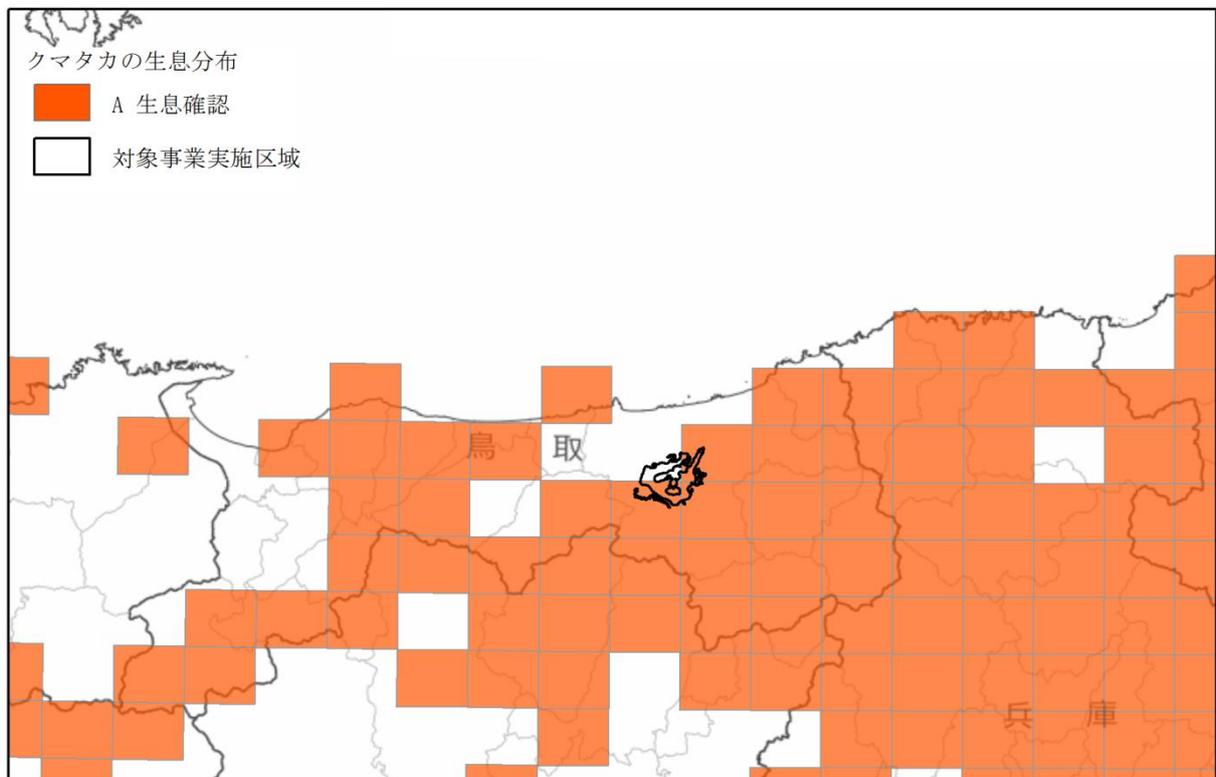
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-26 図(2) ハチクマの渡り経路（秋季）



〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) より作成〕

第 3.1-27 図(1) 2次メッシュにおけるイヌワシの生息分布



〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) より作成〕

第 3.1-27 図(2) 2次メッシュにおけるクマタカの生息分布

## (2) 動物の重要な種

動物の重要な種は、「(1) 動物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、第 3.1-31 表の選定根拠に基づき、学術上または希少性の観点から選定した。その結果は第 3.1-32 表のとおり、哺乳類ではカワネズミ、コキクガシラコウモリ、ニホンザル、ニホンリス、ムササビ、ヤマネ、ツキノワグマ等の 13 種、鳥類ではヒシクイ、オシドリ、コウノトリ、ヨシゴイ、ヨタカ、タマシギ、ハチクマ、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサ、サンコウチョウ、セッカ、トラツグミ、カヤクグリ、ホオアカ等 82 種、爬虫類ではニホンイシガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、シロマダラの 4 種、両生類ではカスミサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、オオサンショウウオ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル等の 11 種、昆虫類ではコバネアオイトトンボ、ハッチョウトンボ、ヒメハルゼミ、ツノアカヤマアリ等の 100 種、魚類ではスナヤツメ南方種、カワヤツメ、ニホンウナギ、ワカサギ、サクラマス、ニホンイトヨ等の 25 種、底生動物ではマルタニシ、オオタニシ、モノアラガイ、タガイ、カラスガイ、イシガイ及びマシジミの 7 種が選定されている。

第 3.1-31 表(1) 動物の重要な種の選定基準

	選定基準	文献その他の資料
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 26 年 6 月 13 日)に基づく天然記念物 「鳥取県文化財保護条例」(昭和 34 年鳥取県条例第 50 号)及び「鳥取市文化財保護条例」(昭和 48 年鳥取市条例第 2 号)、「三朝町文化財保護条例」(昭和 48 年三朝町条例第 20 号)、「八頭町文化財保護条例」(平成 17 年八頭町条例第 94 号)に基づく指定文化財	「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧：平成 30 年 1 月)、「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP、閲覧：平成 30 年 1 月)
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正：平成 29 年 6 月 2 日)に基づく国内希少野生動物等	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号)

第 3.1-31 表(2) 動物の重要な種の選定基準

	選定基準	文献その他の資料
③	<p>「環境省レッドリスト 2017」(環境省、平成 29 年)の掲載種</p> <p>EX: 絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種  EW: 野生絶滅…飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種  CR+EN: 絶滅危惧種 I 類…絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの  CR: 絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの  EN: 絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの  VU: 絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」の категорияに移行することが確実と考えられるもの  NT: 準絶滅危惧…存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの  DD: 情報不足…評価するだけの情報が不足している種  LP: 絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</p>	<p>「環境省レッドリスト 2017 の公表について」(環境省報道発表資料、平成 29 年)</p>
④	<p>「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)の掲載種</p> <p>EX: 絶滅…鳥取県では既に絶滅したと考えられる種  EW: 野生絶滅…野生では絶滅し、栽培下でのみ存続している種  CR+EN: 絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの  VU: 絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」の категорияに移行することが確実と考えられるもの  NT: 準絶滅危惧…存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの  DD: 情報不足…評価するだけの情報が不足している種  OT: その他の保護上重要な種…鳥取県の地理的な自然特性等から保護上重要度の高い種</p>	<p>「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)</p>
⑤	<p>鳥取県条例:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等</p> <p>特定: 特定希少野生動植物…希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要があるものとして第 4 条の規定により知事が指定する種に該当するものをいう。  希少: 希少野生動植物…県内に生息し、又は生育する動植物の種(亜種又は変種がある種にあっては、その亜種又は変種とする。以下同じ。)のうち、次の各号のいずれかに該当するものとして知事が公告する種に該当するものをいう。  (1) 種の存続に支障を来す程度にその個体の数が著しく少ない野生動植物の種  (2) その個体の数が著しく減少しつつある野生動植物の種  (3) その個体の主要な生息地又は生育地が消滅しつつある野生動植物の種  (4) その個体の生息又は生育の環境が著しく悪化しつつある野生動植物の種</p>	<p>鳥取県条例:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等</p>

第 3.1-32 表(1) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市	選定基準						
					鳥取市	①	②	③	④	⑤		
1	哺乳類	モグラ目 (食虫)	トガリネズミ	カワネズミ	○				NT			
2		コウモリ (翼手)	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	○				NT			
3				キクガシラコウモリ	○				DD			
4		ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	ヤマコウモリ	○			VU	DD			
5				ユビナガコウモリ	○				NT			
6				オヒキコウモリ	○			VU	CR+EN			
7		サル (霊長)	オナガザル	ニホンザル	○				DD			
8		ネズミ (齧歯)	リス	ニホンリス	○			LP <sup>※1</sup>	NT			
9				ホンドモモンガ	○				NT <sup>※2</sup>	希少		
10				ムササビ	○				NT			
11				ヤマネ	ヤマネ	○	天			VU	希少	
12		ネコ (食肉)	クマ	ツキノワグマ	○			LP <sup>※3</sup>	VU	希少		
13				イタチ	イタチ	○				NT <sup>※4</sup>		
14	鳥類	カモ	カモ	ヒシクイ	○	天		VU	VU	希少		
15				マガン	○	天		NT	NT			
16				コハクチョウ	○				NT			
17				オオハクチョウ	○				VU	希少		
18				ツクシガモ	○			VU	VU	希少		
19				オシドリ	○			DD	NT			
20				ヨシガモ	○				NT			
21				トモエガモ	○			VU	VU	希少		
22				シノリガモ	○				VU	希少		
23				ホオジロガモ	○				NT			
24				ミコアイサ	○				NT			
25				コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	○	特天	国内	CR	EX	
26				カツオドリ	ウ	ヒメウ	○			EN		
27		ペリカン	サギ	ヨシゴイ	○			NT	NT			
28				ミゾゴイ	○			VU	CR+EN			
29				ササゴイ	○				NT			
30				チュウサギ	○			NT	NT			
31				クロサギ	○				NT			
32			トキ	ヘラサギ	○			DD	CR+EN	希少		
33				クロツラヘラサギ	○			EN	CR+EN	希少		
34	ツル	クイナ	シマクイナ	○			EN					
35			クイナ	○				NT				

第 3.1-32 表(2) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市	選定基準					
					鳥取市	①	②	③	④	⑤	
36	鳥類	ツル	クイナ	ヒクイナ	○			NT			
37		ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○			NT	VU		
38		チドリ	チドリ	タゲリ	○				NT		
39				イカルチドリ	○				NT		
40				シロチドリ	○			VU			
41			シギ	オオソリハシギ	○			VU			
42				ホウロクシギ	○			VU			
43				ツルシギ	○			VU			
44				タカブシギ	○			VU			
45				ハマシギ	○			NT			
46			タマシギ	タマシギ	○			VU	DD		
47			カモメ	ワシカモメ	○				NT		
48				シロカモメ	○				NT		
49				コアジサシ	○			VU	CR+EN	特定	
50			ウミスズメ	ウミスズメ	○			CR			
51			タカ	ミサゴ	○			NT	NT		
52				タカ	ハチクマ	○			NT	NT	
53					オジロワシ	○	天	国内	VU	CR+EN	希少
54					オオワシ	○	天	国内	VU	CR+EN	希少
55					チュウヒ	○		国内	EN	VU	希少
56					ハイロチュウヒ	○				VU	希少
57					ツミ	○				NT	
58					ハイタカ	○			NT	NT	
59					オオタカ	○			NT	NT	希少
60					サシバ	○			VU	VU	
61					ノスリ	○				NT	
62					イヌワシ	○	天	国内	EN	CR+EN	特定
63					クマタカ	○		国内	EN	CR+EN	特定
64			フクロウ	コノハズク	○				VU	希少	
65				フクロウ	○					NT	
66				アオバズク	○					NT	
67				トラフズク	○					NT	
68			コミミズク	○				CR+EN	希少		
69		ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	○				NT		
70				ヤマセミ	○				NT		

第 3.1-32 表(3) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市	選定基準						
					鳥取市	①	②	③	④	⑤		
71	鳥類	ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	○			EN	CR+EN	特定		
72		キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	○				NT			
73		ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ	○				NT			
74				ハヤブサ	○		国内	VU	VU	希少		
75		スズメ		ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	○		国内	EN	CR+EN	希少	
76				サンショウクイ	サンショウクイ	○			VU	NT		
77				カササギヒタキ	サンコウチョウ	○				NT		
78				カラス	ホシガラス	○				VU	希少	
79				クイタダキ	クイタダキ	○				NT		
80				ツバメ	コシアカツバメ	○				VU		
81				ムシクイ		メボソムシクイ	○				CR+EN	
82						エゾムシクイ	○				DD	
83				セッカ	セッカ	○				NT		
84				ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○				NT		
85				ヒタキ		マミジロ	○				NT	
86						トラツグミ	○				NT	
87						コマドリ	○				NT	
88		コルリ	○						NT			
89		ルリビタキ	○						DD			
90		イワヒバリ	カヤクグリ	○				CR+EN	希少			
91		セキレイ	ビンズイ	○				NT				
92		アトリ	ベニヒワ	○				NT				
93		ホオジロ		ホオアカ	○				CR+EN			
94				ノジコ	○			NT				
95				クロジ	○				NT			
96	爬虫類	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	○			NT	NT			
97			スッポン	ニホンスッポン	○			DD	DD			
98		有鱗		タカチホヘビ	タカチホヘビ	○			DD			
99				ナミヘビ	シロマダラ	○			DD			
100	両生類	有尾	サンショウウオ	カスミサンショウウオ	○			VU	VU	希少		
101				ブチサンショウウオ	○			NT	NT			
102				ヒダサンショウウオ	○			NT	NT			
103				ハコネサンショウウオ	○			NT	NT			
104			オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	○	特天		VU	VU	希少		
105			イモリ	アカハライモリ	○			NT	OT <sup>※5</sup>			

第 3.1-32 表(4) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市	選定基準					
					鳥取市	①	②	③	④	⑤	
106	両生類	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	○				OT		
107			アカガエル	ナガレタゴガエル	○				NT		
108				ニホンアカガエル	○				NT		
109				トノサマガエル	○			NT			
110			アオガエル	カジカガエル	○				OT		
111	昆虫類	トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	コバナアオイトトンボ	○			EN	EX	希少	
112			イトトンボ	アオモンイトトンボ	○				NT		
113				モートンイトトンボ	○			NT	DD		
114			カワトンボ	アオハダトンボ	○			NT	NT		
115				ニホンカワトンボ	○				OT		
116				アサヒナカワトンボ	○				OT		
117			ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	○			NT	VU	希少	
118				アオヤンマ	○			NT	VU	希少	
119				ルリボシヤンマ	○				NT		
120			サナエトンボ	ホンサナエ	○				NT		
121				オグマサナエ	○			NT	VU		
122			ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○				DD		
123			エゾトンボ	ハネビロエゾトンボ	○			VU	VU	希少	
124				エゾトンボ	○				NT		
125			トンボ	ハッチョウトンボ	○				VU	希少	
126				コノシメトンボ	○				NT		
127				ナニワトンボ	○			VU	EX	希少	
128				マイコアカネ	○				CR+EN	希少	
129				ヒメアカネ	○				NT		
130			カマキリ (螳螂)	カマキリ	ウスバカマキリ	○			DD	DD	
131			バッタ (直翅)	ヒバリモドキ	ハマスズ	○				NT	
132				バッタ	ヤマトマダラバッタ	○				NT	
133					カワラバッタ	○				EX	
134	ショウリョウバッタモドキ	○						NT			
135	イナゴ	ヤマトフキバッタ		○				OT**6			
136		セグロイナゴ	○				DD				
137	カメムシ (半翅)	セミ	ヒメハルゼミ	○				NT			
138			ハルゼミ	○				NT			
139		キジラミ	エノキカイガラキジラミ	○			NT	DD			
140		サシガメ	ゴミアシナガサシガメ	○			VU	DD			

第 3.1-32 表(5) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市	選定基準					
					鳥取市	①	②	③	④	⑤	
141	昆虫類	カメムシ (半翅)	ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ	○			NT	DD		
142			ツチカメムシ	ハマベツチカメムシ	○				NT		
143			イトアメンボ	イトアメンボ	○			VU	DD		
144			ミズムシ	ホッケミズムシ	○			NT	DD		
145			コオイムシ	コオイムシ	○			NT	NT		
146				タガメ	○			VU	VU	希少	
147				タイコウチ	ヒメミズカマキリ	○				DD	
148			アミメカゲロウ (脈翅)	ウスバカゲロウ	ハマベウスバカゲロウ	○				NT	希少
149			チョウ (鱗翅)	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	○			EN	CR+EN	希少
150				シジミチョウ	オナガシジミ	○				OT	
151		スギタニルリシジミ本州亜種		○				NT <sup>**7</sup>			
152		キリシマミドリシジミ本州以南亜種		○				NT <sup>**8</sup>			
153		ヒサマツミドリシジミ		○				NT			
154		ヒロオビミドリシジミ		○				NT			
155		オオミドリシジミ		○				NT			
156		ウラジロミドリシジミ		○				NT			
157		ミヤマカラスシジミ		○				NT			
158		ウラナミアカシジミ		○				CR+EN	希少		
159		ミドリシジミ		○				NT			
160		クロシジミ		○			EN	CR+EN	希少		
161		ヒメシジミ本州・九州亜種		○			NT	VU <sup>**9</sup>	希少 <sup>**9</sup>		
162		キマダラルリツバメ		○			NT	NT	希少		
163		シルビアシジミ		○			EN	CR+EN	希少		
164	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン		ウラギンスジヒョウモン	○			VU	CR+EN	希少	
165		ヒメヒカゲ本州西部亜種		ヒメヒカゲ本州西部亜種	○			EN <sup>**10</sup>	CR+EN	希少	
166		メスグロヒョウモン		メスグロヒョウモン	○				CR+EN	希少	
167		キマダラモドキ		キマダラモドキ	○			NT	VU	希少	
168		ウスイロヒョウモンモドキ		ウスイロヒョウモンモドキ	○		国内	CR	CR+EN	特定	
169		ヒョウモンモドキ		ヒョウモンモドキ	○		国内	CR	EX		
170		クモガタヒョウモン		クモガタヒョウモン	○				VU	希少	
171		ミスジチョウ		ミスジチョウ	○				DD		
172		ホシミスジ		ホシミスジ	○				NT		
173		オオヒカゲ		オオヒカゲ	○				NT		
174	シータテハ	シータテハ	○				EX				
175		オオムラサキ	オオムラサキ	○			NT	NT			

第 3.1-32 表(6) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市	選定基準					
					鳥取市	①	②	③	④	⑤	
176	昆虫類	チョウ (鱗翅)	タテハチョウ	ウラナミジャノメ本土亜種	○			VU <sup>※11</sup>	CR+EN <sup>※12</sup>		
177			アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種	○				NT <sup>※13</sup>		
178				ギフチョウ		○			VU	NT	
179				シロチョウ	ツマグロキチョウ	○			EN	NT	希少
180					スジボソヤマキチョウ	○				VU	
181				スズメガ	モンホソバズメ	○				DD	
182				ヤガ	コシロシタバ	○			NT	DD	
183				ハエ (双翅)	アミカモドキ	ニホンアミカモドキ	○			VU	VU
184				ニクバエ	ゴヘイニクバエ	○			VU	VU	
185			コウチュウ (鞘翅)	オサムシ	オオヒョウタンゴミムシ	○			NT	VU	希少
186				ハンミョウ	ハラビロハンミョウ	○			VU	CR+EN	希少
187					カワラハンミョウ	○			EN	VU	希少
188				ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○			NT	VU	
189					ゲンゴロウ	○			VU	CR+EN	希少
190					コガタノゲンゴロウ	○			VU	CR+EN	特定
191					シマゲンゴロウ	○			NT		
192				ミズスマシ	オオミズスマシ	○			NT		
193					ミズスマシ	○			VU		
194				クワガタムシ	オオクワガタ	○			VU	VU	希少
195				コガネムシ	ダイコクコガネ	○			VU	CR+EN	希少
196		オオチャイロハナムグリ			○			NT	NT		
197		ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ	○			VU	NT	希少		
198		タマムシ	トオヤマシラホシナガタマムシ	○				DD			
199		ジョウカイボン	ジョウカイボン	○				OT			
200		ホタル	ヒメボタル	○				DD			
201		カミキリムシ	アカネキスジトラカミキリ	○				DD			
202			クロサワヘリグロハナカミキリ	○				DD			
203			シラユキヒメハナカミキリ	○				OT			
204		ハムシ	キヌツヤミズクサハムシ	○				VU <sup>※14</sup>	希少 <sup>※14</sup>		
205		ハチ (膜翅)	アリ	ツノアカヤマアリ	○			DD			
206				トゲアリ	○			VU			
207			ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ	○			VU	VU	希少	
208			アナバチ	フクイアナバチ	○			NT	DD		
209			ハキリバチ	キヌゲハキリバチ	○				NT <sup>※15</sup>		
210				キバラハキリバチ	○			NT	DD		

第 3.1-32 表(7) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市	選定基準					
					鳥取市	①	②	③	④	⑤	
211	魚類	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種	○			VU	VU <sup>※16</sup>		
212				カワヤツメ	○			VU	DD		
213		ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○			EN			
214		コイ	コイ	ヤリタナゴ	○			NT	NT		
215				ミナミアカヒレタビラ	○			CR	CR+EN	希少	
216				ニッポンバラタナゴ	○			CR			
217				ドジョウ	ドジョウ	○			DD		
218					サンインコガタスジシマドジョウ	○			EN	NT <sup>※17</sup>	
219					ナガレホトケドジョウ	○			EN	CR+EN	
220		サケ	キュウリウオ	ワカサギ	○				NT		
221				サケ	ニッコウイワナ	○			DD	NT	
222			ゴギ		○			VU	VU		
223			アメマス類		○			DD	NT		
224			サクラマス		○			NT	NT <sup>※18</sup>		
225			サクラマス (ヤマメ)		○			NT	NT <sup>※18</sup>		
226			サツキマス		○			NT			
227			サツキマス (アマゴ)	○			NT				
228		ダツ	メダカ	メダカ類	○			VU <sup>※19</sup>	VU <sup>※19</sup>		
229			サヨリ	クルマサヨリ	○			NT			
230		トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ	○			LP <sup>※20</sup>	CR+EN <sup>※21</sup>		
231		カサゴ	カジカ	カマキリ	○			VU	NT <sup>※22</sup>		
232				カジカ	○			NT <sup>※23</sup>	VU <sup>※23</sup>		
233		スズキ	カワアナゴ	カワアナゴ	○				NT		
234			ハゼ	シロウオ	○			VU			
235				オオヨシノボリ	○				NT		
236		底生動物	原始紐舌	タニシ	マルタニシ				VU	NT	
237					オオタニシ	○			NT	NT	
238	基眼		モノアラガイ	モノアラガイ	○			NT	NT		
239	イシガイ		イシガイ	タガイ	○				VU		
240				カラスガイ				NT	CR+EN	特定	
241				イシガイ					NT		
242	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ	○			VU	NT			
合計	7 類	40 目	93 科	242 種	239 種	8 種	10 種	129 種	219 種	62 種	

注：1. 哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類及び底生動物の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年)、鳥類の種名は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(日本鳥学会、平成 24 年)に準拠した。

2. 選定基準は、第 3.1-31 表に対応する。各選定基準の原記載は次のとおりである。

※1：中国地方のニホンリスで掲載、※2：ニホンモモンガで掲載、※3：東中国地域のツキノワグマで掲載、※4：ニホンイタチで掲載、  
※5：アカハライモリ（イモリ）で掲載、※6：セトウチフキバツタで掲載、※7：スギタニルリシジミで掲載、※8：キリシマミドリシジミで掲載、  
※9：ヒメシジミで掲載、※10：ヒメヒカゲ本州中部・近畿・中国地方亜種で掲載、※11：ウラナミジャノメ日本本土亜種で掲載、※12：ウラナミジャノメで掲載、  
※13：ジャコウアゲハで掲載、※14：スゲハムシで掲載、※15：コウベキヌゲハキリバチで掲載、※16：スナヤツメで掲載、  
※17：スジシマドジョウ種群小型種山陰型で掲載、※18：ヤマメ・サクラマスで掲載、※19：メダカで掲載、※20：本州のイトヨ日本海型で掲載、  
※21：イトヨ日本海型で掲載、※22：アユカケで掲載、※23：カジカ大卵型で掲載

3. アメマス類は、「ニッコウイワナ」である可能性が、メダカ類は、「ミナミメダカ」である可能性があるため、重要種として扱った。
4. ホトケドジョウは、鳥取県 RDB 改訂時に「ナガレホトケドジョウ」の誤同定であるとされ除外された。ただし、元となる記載文献が不明なため、リストには残し、重要種の対象から除外した。
5. コイ、ゲンゴロウブナ、ワタカ、ハス、カワヒガイ、デメモロコ（以上魚類）、マルドブガイ（以上底生動物）は、当該水域では国内外来種にあたるため、重要種の対象から除外した。

### (3) 動物の注目すべき生息地

動物の注目すべき生息地としては、「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(平成 5 年、鳥取県)より対象事業実施区域の南西側に位置する高鉢山・高山・三滝溪及び南側に位置する鷲峰山の 2 ヶ所が挙げられる。高鉢山・高山・三滝溪は、イヌワシの営巣地として著名でオシドリ、ヤマセミの繁殖地、クマタカ、ゴジュウカラ等の鳥類の生息地、ギフチョウ、ヒサマツミドリシジミ等の昆虫類の生息地となっている。鷲峰山は、ゴジュウカラ、ツツドリ、ウソ等の鳥類、ヒバカリ、モリアオガエル等の爬虫類・両生類、ギフチョウ、ニホンカワトンボ等の昆虫類も確認されており、キリシマミドリシジミは県内の数少ない産地の一つとなっている。

また、「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)より対象事業実施区域の北側に位置する湖山池でオシロワシ、オオワシが確認されている。

第 3.1-33 表 天然記念物 (動物関係)

指定	名称	指定年月日	所在地
天然記念物	イヌワシ	昭和 40 年 5 月 12 日	地域を定めず
	オジロワシ	昭和 45 年 1 月 23 日	地域を定めず
	オオワシ	昭和 45 年 1 月 23 日	地域を定めず

「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP、閲覧：平成 30 年 1 月)  
より作成

## 2. 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生の状況は、当該地域の自然特性を勘案し、対象事業実施区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」（鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年）、鳥取市（鳥取市、旧福部村、旧国府町、旧気高町、旧青谷町、旧鹿野町、旧佐治村、旧河原町、旧用瀬町）の各町史等により整理した。

また、「自然環境保全基礎調査 植生調査」については、対象事業実施区域が含まれる 2 次メッシュとして「鹿野」「岩坪」「鳥取南部」及び「用瀬」を対象とした。調査範囲は第 3.1-22 図のとおりである。

### (1) 植物相の概要

対象事業実施区域及びその周囲の植物相の概要は第 3.1-34 表のとおりであり、維管束植物（シダ植物及び種子植物）1,068 種が確認されている。

第 3.1-34 表 植物相の概要

分類			主な確認種
シダ植物			ミズスギ、カタヒバ、ミズニラ、スギナ、オオハナワラビ、ヤマドリゼンマイ、オオキジノオ、コシダ、カニクサ、ハイホラゴケ等 (22 科 136 種)
種子植物	裸子植物		イチヨウ、モミ、スギ、ヒノキ、イヌマキ、イヌガヤ、イチイ等 (7 科 17 種)
	被子植物	離弁花類	オニグルミ、アカメヤナギ、ヤシャブシ、クリ、ムクノキ、ヒメコウゾ、ヤブマオ、ツクバネ、ヒノキバヤドリギ、ミズヒキ等 (77 科 470 種)
		合弁花類	イワカガミ、リョウブ、ウメガサソウ、ベニドウダン、マンリョウ、オカトラノオ、リュウキュウマメガキ、エゴノキ、タンナサワフタギ、アオダモ等 (32 科 238 種)
	単子葉類		ヘラオモダカ、オオカナダモ、エビモ、ホンゴウソウ、ノギリラン、ヒガンバナ、ヤマノイモ、コナギ、ヒオウギ、ハナビゼキシヨウ等 (20 科 207 種)
合計			158 科 1,068 種

「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-」  
 (鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)  
 「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)  
 「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)  
 「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)  
 「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)  
 「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)  
 「新修 気高町誌」(鳥取市、平成 18 年)  
 「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)  
 「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)  
 「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)  
 「新 船岡町誌」(船岡町、平成 14 年)  
 「新修 三朝町史」(三朝町、平成 21 年)  
 「鳥取県のすぐれた自然 植物編」(鳥取県、平成 5 年)  
 「鳥取県立博物館研究報告 第 18 号 鳥取県のスミレ」(鳥取県立博物館、昭和 56 年)

「鳥取県立博物館研究報告 第 37・38 合併号 鳥取県三朝町内に依存するミツガシワ湿原の植生」  
(鳥取県立博物館、平成 13 年)  
「鳥取県立博物館研究報告 第 49 号 鳥取県において新たに分布が確認された 5 種の植物」  
(鳥取県立博物館、平成 24 年)  
「鳥取県立博物館研究報告 第 52・53 号 鳥取県におけるヒノキバヤドリギの初記録」(鳥取県立博物館、平成 28 年)  
「千代川の自然」(藤島弘純、平成 6 年)  
「三徳山の植生永遠に」(鳥取県三朝町教育委員会、平成 22 年)  
「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業 (鳥取県鳥取市情報整備モデル地区における地域固定環境情報  
調査事業) 委託業務 報告書 公開版」(中外テクノス株式会社、平成 28 年)

より作成

## (2) 植生の概要

対象事業実施区域及びその周囲の現存植生図は第 3.1-28 図、現存植生図の凡例は第 3.1-35 表のとおりである。

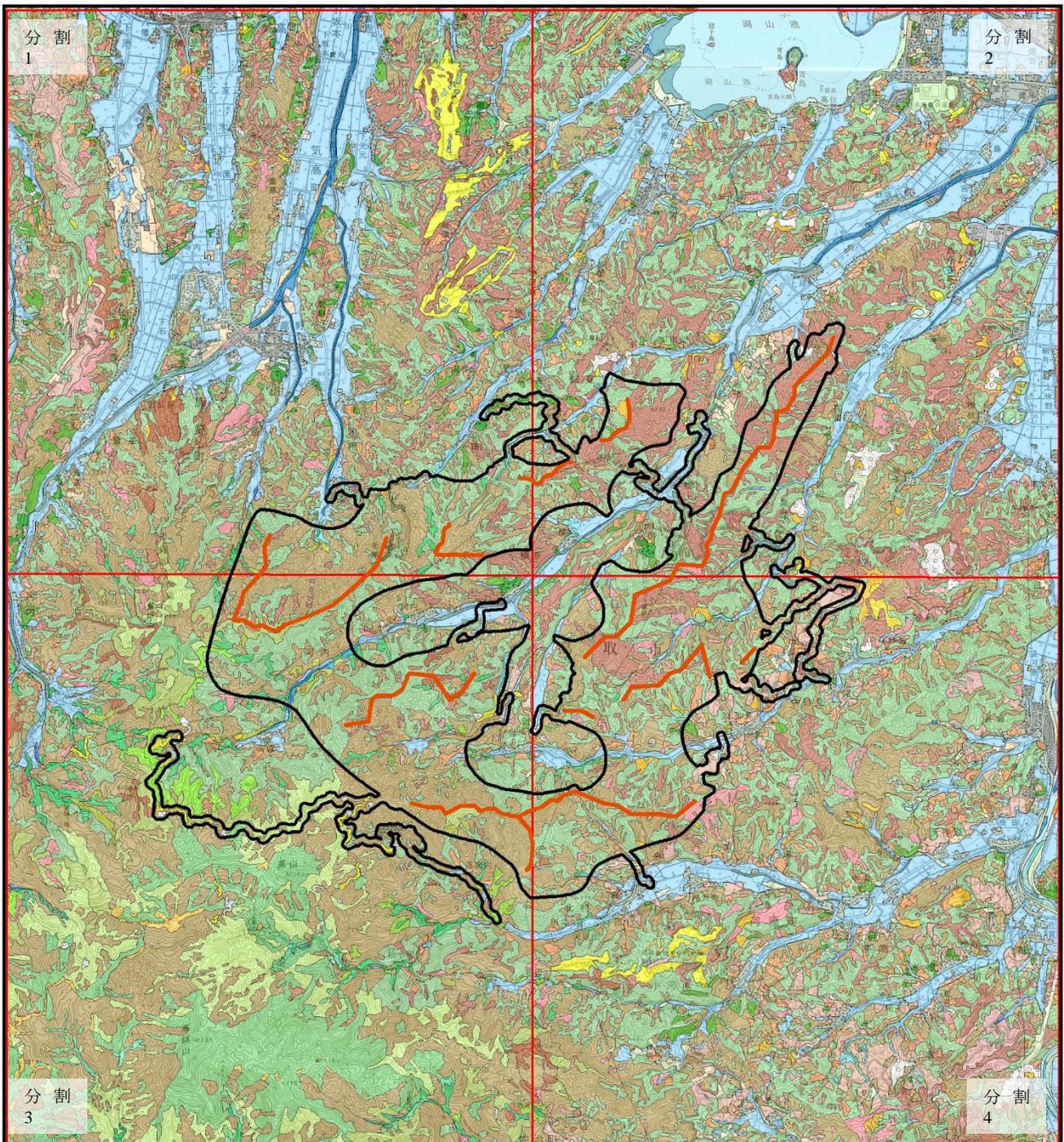
山斜面には植林、耕作地植生のスギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林などが主に分布しているが、代償植生のコナラ群落（Ⅶ）も多く見られる。また、牧草地が点在しており、ゴルフ場・芝生も見られる。

谷底平野の平坦地や緩傾斜地は主に耕作地として利用されており、市街地等の分布は北側に集中している。

対象事業実施区域西側の鷲峰山頂付近には、自然植生のクロモジブナ群集、ケヤキ群落（Ⅵ）代償植生のブナーミズナラ群落、コナラ群落（Ⅴ）が分布しており、代償植生の伐採跡地群落（Ⅴ）、伐採跡地群落（Ⅶ）も一部に分布している。

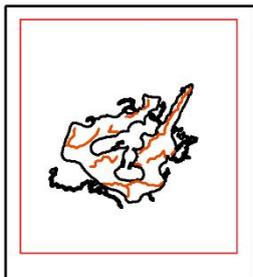
対象事業実施区域南西側の高鉢山一帯は、ブナクラス域が主となっており、自然植生のクロモジブナ群集や代償植生のブナーミズナラ群落が広く分布し、自然植生のイヌシデアカシデ群落、ジュウモンジシダーサワグルミ群集、代償植生のササ群落（Ⅴ）、アカマツ群落（Ⅴ）が点在している。その他にも、植林地であるスギ・ヒノキ・サワラ植林も広く分布している。

対象事業実施区域にはヤブツバキクラス域代償植生のアカマツ群落（Ⅶ）、コナラ群落（Ⅶ）や、植林地、耕作地植生であるスギ・ヒノキ・サワラ植林、水田雑草群落が多く分布する。また、小面積ではあるが、自然植生のスダジイ群落、ケヤキ群落（Ⅵ）が点在している。



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲



※植生凡例は分割図にて記載

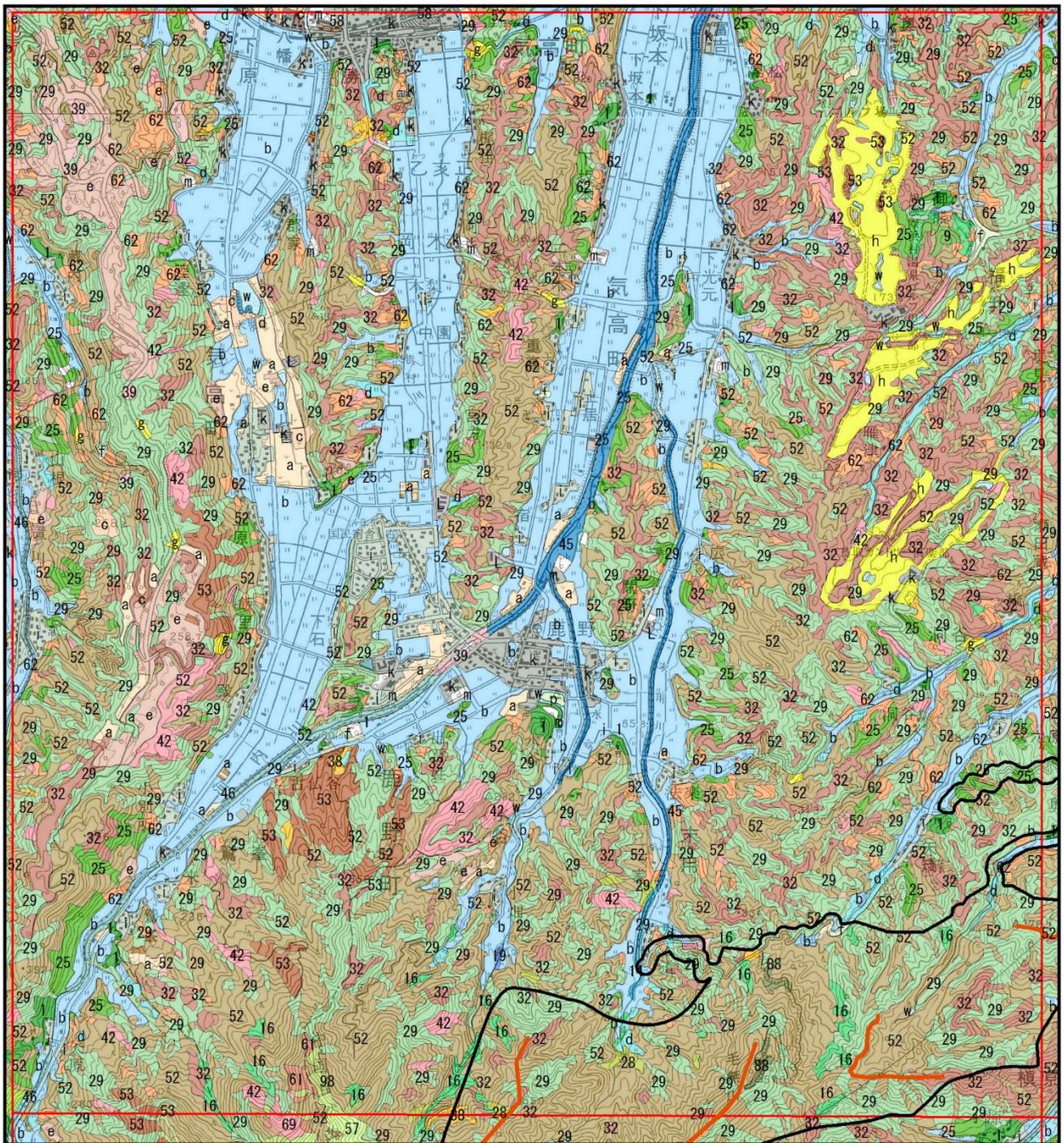
1:100,000  
0 2 4 km



「第 6-7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 (1/25,000 縮尺)」(環境省、平成 21 年) 1/25,000 植生図「浜村」「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」の GIS データ

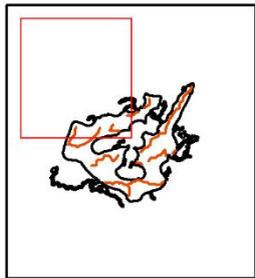
より作成

第 3.1-28 図(1) 文献その他の資料調査による現存植生図(全体)



凡例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲



※植生凡例の詳細は別頁に記載

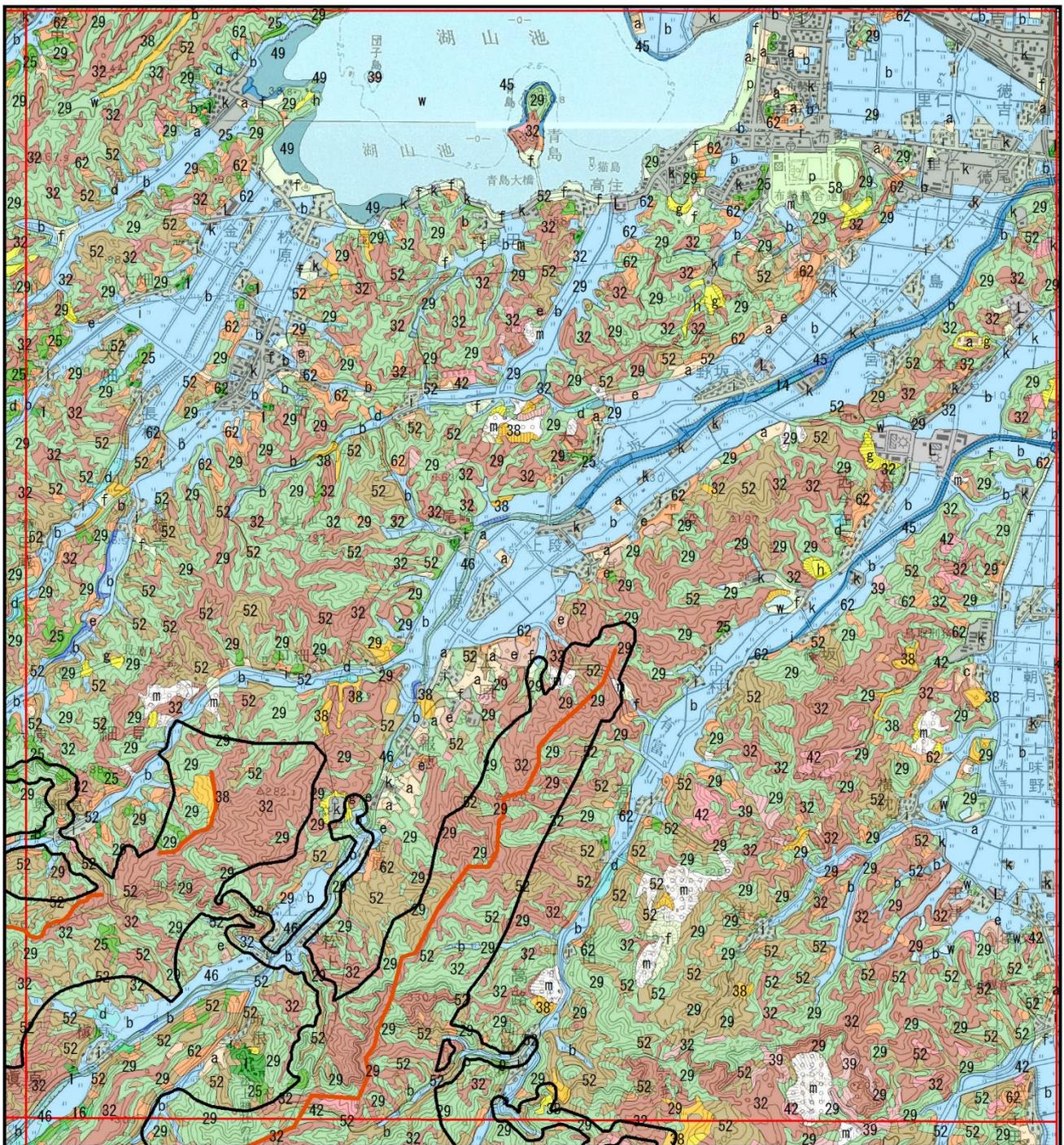
1:51,000



「第 6-7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 (1/25,000 縮尺)」(環境省、平成 21 年) 1/25,000 植生図「浜村」「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」の GIS データ

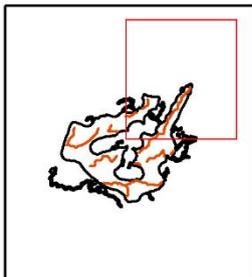
より作成

第 3.1-28 図(2) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 1)



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲



※植生凡例の詳細は別頁に記載

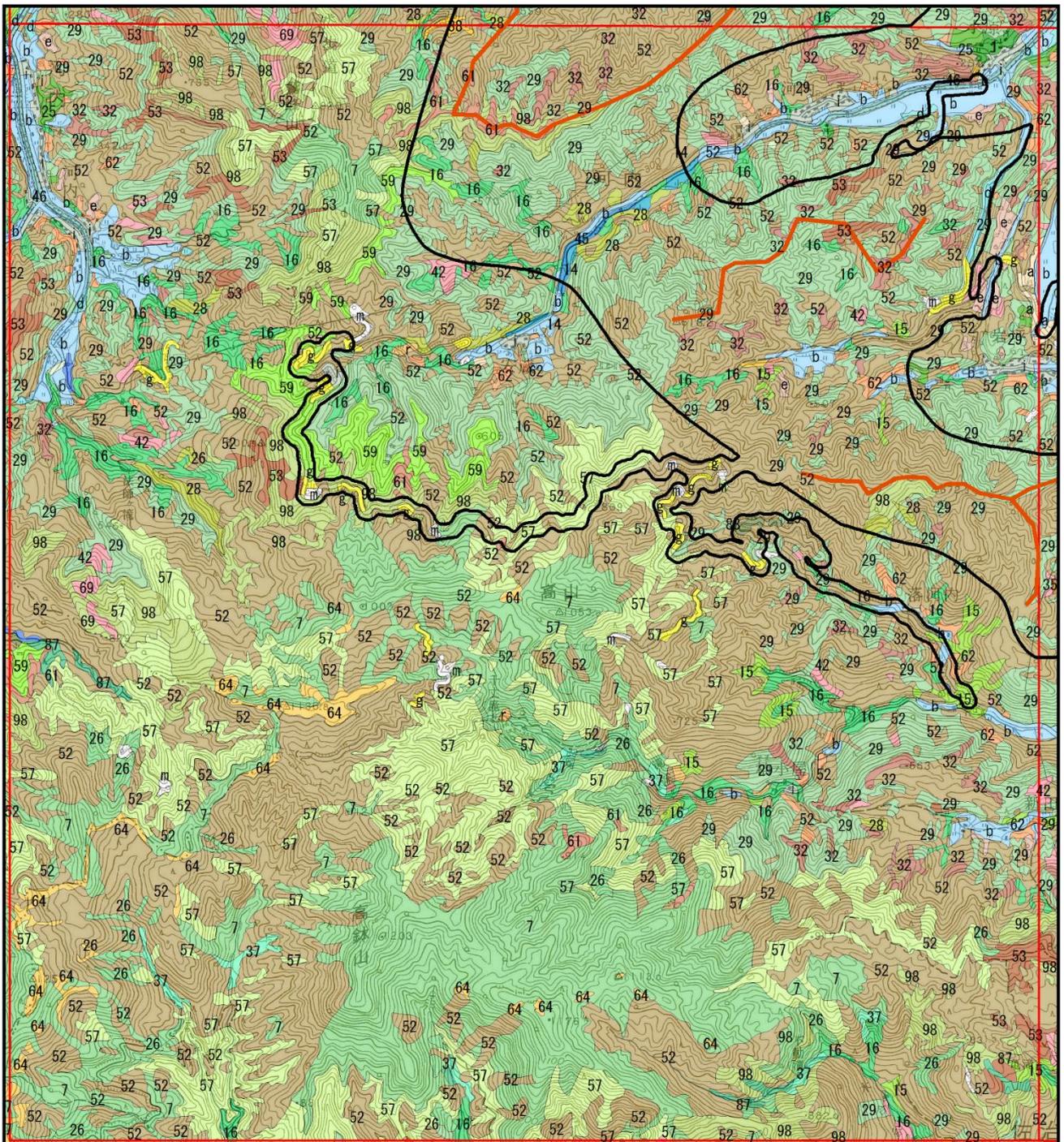
1:51,000



「第 6-7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 (1/25,000 縮尺)」(環境省、平成 21 年) 1/25,000 植生図「浜村」「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」の GIS データ

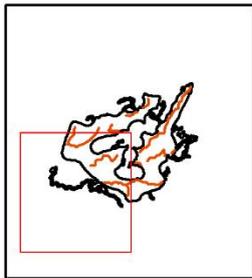
より作成

第 3.1-28 図(3) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 2)



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲



※植生凡例の詳細は別頁に記載

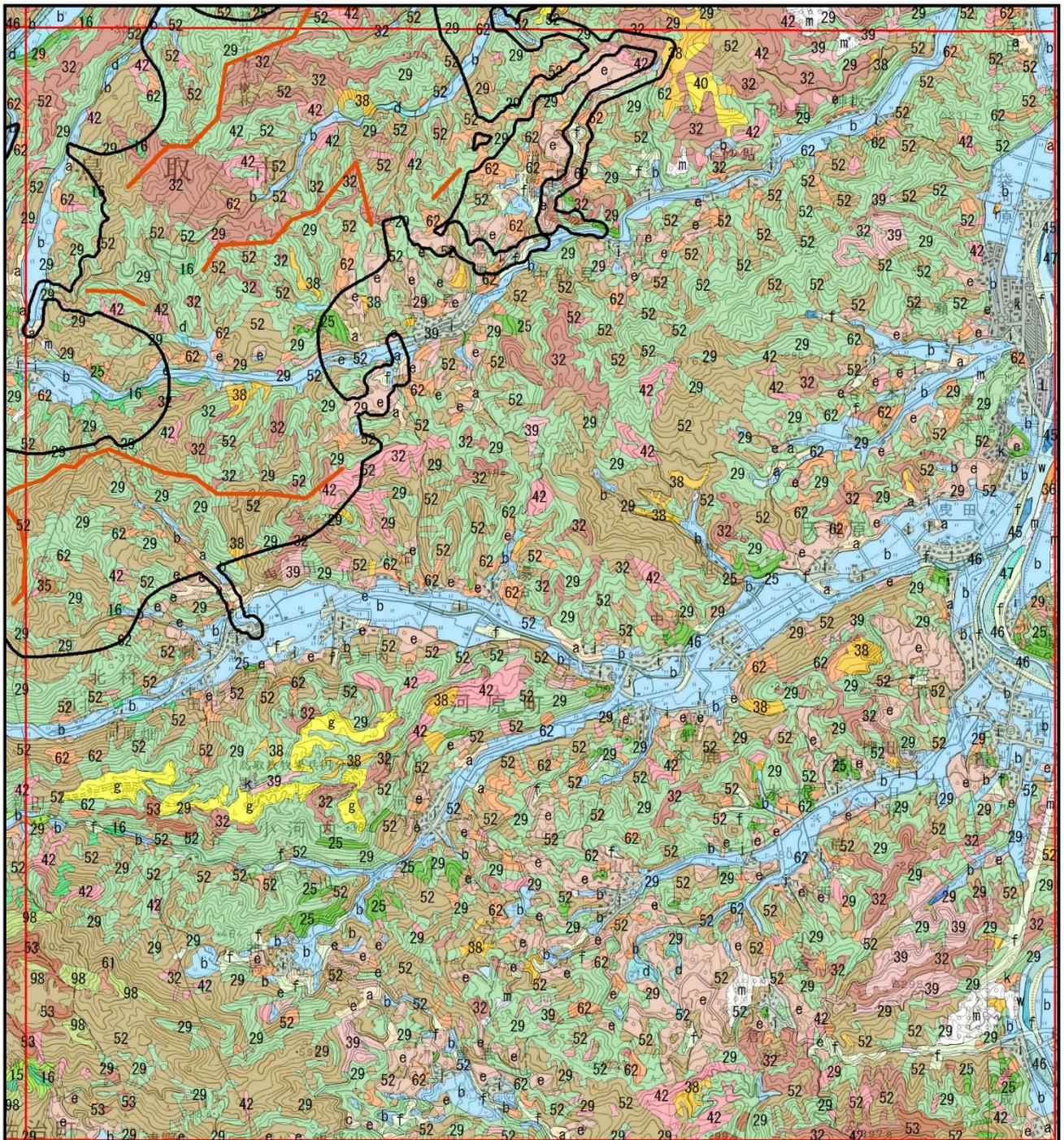
1:51,000



「第 6-7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 (1/25,000 縮尺)」(環境省、平成 21 年) 1/25,000 植生図「浜村」「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」の GIS データ

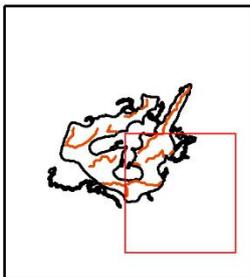
より作成

第 3.1-28 図(4) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 3)



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲



※植生凡例の詳細は別頁に記載

1:51,000



「第 6-7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 (1/25,000 縮尺)」(環境省、平成 21 年) 1/25,000 植生図「浜村」「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」の GIS データ

より作成

第 3.1-28 図(5) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 4)

第 3.1-35 表 文献その他の資料調査による現存植生図(凡例)

植生区分	図中 No.	凡例名	統一凡例 No.	
ブナクラス域自然植生	 7	クロモジブナ群集	110104	
	 26	イヌシデーアカシデ群集	130401	
	 37	ジュウモンジシダーサワグルミ群集	160101	
	 87	ケヤキ群落 (IV)	160400	
ブナクラス域代償植生	 57	ブナーミズナラ群落	220100	
	 98	クリーミズナラ群落	220102	
	 59	コナラ群落 (V)	220500	
	 61	アカマツ群落 (V)	230100	
	 64	ササ群落 (V)	250100	
	 69	伐採跡地群落 (V)	260000	
ヤブツバキクラス域自然植生	 1	スダジイ群落	271200	
	 9	タブノキ群落	271600	
	 16	ケヤキ群落 (VI)	300100	
	 15	イヌシデーアカシデ群落 (VI)	300401	
	 19	ヤナギ高木群落 (VI)	320100	
	 14	ヤナギ低木群落 (VI)	320200	
ヤブツバキクラス域代償植生	 25	シイ・カシ二次林	400100	
	 29	コナラ群落 (VII)	410100	
	 28	アカシデーイヌシデ群落 (VII)	410400	
	 32	アカマツ群落 (VII)	420100	
	 35	タケ・ササ群落	430000	
	 36	メダケ群落	430200	
	 38	低木群落	440000	
	 39	クズ群落	440200	
	 40	ススキ群団 (VII)	450100	
	 42	伐採跡地群落 (VII)	460000	
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	 45	ヨシクラス	470400	
	 46	ツルヨシ群集	470501	
	 47	オギ群集	470502	
	 49	ヒルムシロクラス	470600	
植林地、耕作地植生	 52	スギ・ヒノキ・サワラ植林	540100	
	 53	アカマツ植林	540200	
	 54	クロマツ植林	540300	
	 58	その他植林	541000	
	 88	オオバヤシャブシ植林	541203	
	 62	竹林	550000	
	 h	ゴルフ場・芝地	560100	
	 g	牧草地	560200	
	 f	路傍・空地雑草群落	570100	
	 c	放棄畑雑草群落	570101	
	 e	果樹園	570200	
	 a	畑雑草群落	570300	
	 b	水田雑草群落	570400	
	 d	放棄水田雑草群落	570500	
	その他	 k	市街地	580100
		 i	緑の多い住宅地	580101
 p		残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	580200	
 l		工場地帯	580300	
 m		造成地	580400	
 w		開放水域	580600	
 r		自然裸地	580700	

注：1.図中 No.は現存植生図内の番号に対応する。

2.統一凡例 No.とは、「生物多様性情報システム自然環境保全基礎調査 植生調査(植生自然度調査)」(環境省 HP) の 1/25,000 に示される 6 桁統一凡例番号(凡例コード)である。

### (3) 植物の重要な種及び重要な群落

植物の重要な種及び重要な群落の選定基準は第 3.1-36 表のとおりである。

また、文献その他の資料により確認された植物の重要な種を第 3.1-37 表に、重要な植物群落及びその分布位置は第 3.1-38 表及び第 3.1-29 図のとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲では、ミズスギ、コバノチョウセンエノキ、ジュンサイ、アサノハカエデ、イワウチワ、ヤマザトタンポポ、マルバオモダカ、オオミクリ等の 219 種の重要な植物種が選定されている。また、重要な植物群落では、「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成 12 年）によると、対象事業実施区域の周辺環境には、4 つの特定植物群落が分布している。対象事業実施区域の南側に権現の森（アサダーヤブツバキ群落）が存在するほか、南西側の三滝溪谷のブナ林、西側の高鉢山北谷の自然林、北側の湖山池の傍には日吉神社のスダジイ林がある。なお、対象事業実施区域内に特定植物群落は分布していない。

第 3.1-36 表(1) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準		文献その他の資料	重要な種	重要な群落	
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 26 年 6 月 13 日）に基づく天然記念物 「鳥取県文化財保護条例」（昭和 34 年鳥取県条例第 50 号）及び「鳥取市文化財保護条例」（昭和 48 年鳥取市条例第 2 号）、「三朝町文化財保護条例」（昭和 48 年三朝町条例第 20 号）、「八頭町文化財保護条例」（平成 17 年八頭町条例第 94 号）に基づく指定文化財	特天：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物	「国指定文化財等データベース」（文化庁 HP、閲覧：平成 30 年 1 月）、「とっとり文化財ナビ」（鳥取県 HP、閲覧：平成 30 年 1 月）	○	○
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号、最終改正：平成 29 年 6 月 2 日）に基づく国内希少野生動物等	国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年政令第 17 号）	○	

第 3.1-36 表 (2) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

	選定基準	文献その他の資料	重要な種	重要な群落
③ 「環境省レッドリスト 2017」(環境省、平成 29 年)の掲載種	<p>EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</p> <p>EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種</p> <p>CR+EN：絶滅危惧種 I 類・・・絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの</p> <p>CR：絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの</p> <p>EN：絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p> <p>VU：絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」の категорияに移行することが確実に考えられるもの</p> <p>NT：準絶滅危惧・・・存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位 categoria に移行する要素を有するもの</p> <p>DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種</p> <p>LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</p>	「環境省レッドリスト 2017 の公表について」(環境省報道発表資料、平成 29 年)	○	
④ 「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)の掲載種	<p>EX：絶滅・・・鳥取県では既に絶滅したと考えられる種</p> <p>EW：野生絶滅・・・野生では絶滅し、栽培下でのみ存続している種</p> <p>CR+EN：絶滅危惧 I 類・・・絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの</p> <p>VU：絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」の categoria に移行することが確実に考えられるもの</p> <p>NT：準絶滅危惧・・・存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位 categoria に移行する要素を有するもの</p> <p>DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種</p> <p>OT：その他の保護上重要な種・・・鳥取県の地理的な自然特性等から保護上重要度の高い種</p>	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	○	

第 3.1-36 表 (3) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

	選定基準	文献その他の資料	重要な種	重要な群落
⑤	鳥取県条例：「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等	<p>特定：特定希少野生動植物・・・希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要があるものとして第 4 条の規定により知事が指定する種に該当するものをいう。</p> <p>希少：希少野生動植物・・・県内に生息し、又は生育する動植物の種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）のうち、次の各号のいずれかに該当するものとして知事が公告する種に該当するものをいう。</p> <p>(1) 種の存続に支障を来す程度にその個体の数が著しく少ない野生動植物の種</p> <p>(2) その個体の数が著しく減少しつつある野生動植物の種</p> <p>(3) その個体の主要な生息地又は生育地が消滅しつつある野生動植物の種</p> <p>(4) その個体の生息又は生育の環境が著しく悪化しつつある野生動植物の種</p>	鳥取県条例：「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等	○
⑥	「第 2 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、昭和 54 年)「第 3 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、昭和 63 年)「第 5 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成 12 年)に掲載されている特定植物群落	<p>A：原生林もしくはそれに近い自然林</p> <p>B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群</p> <p>C：比較的普通に見られるものであつても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群</p> <p>D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの</p> <p>E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの</p> <p>F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であつても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの</p> <p>G：乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群</p> <p>H：その他、学術上重要な植物群落</p>	「第 2 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、昭和 54 年)「第 3 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、昭和 63 年)「第 5 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成 12 年)	○
⑦	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J,WWF Japan、平成 8 年)に掲載の植物群落	<p>4：緊急に対策必要</p> <p>3：対策必要</p> <p>2：破壊の危惧</p> <p>1：要注意</p>	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J,WWF Japan、平成 8 年)	○

第 3.1-37 表(1) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市	選定基準				
				鳥取市	①	②	③	④	⑤
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	ミズスギ	○				VU	
2			マンネンスギ	○				VU	
3		イワヒバ	カタヒバ	○				NT	
4			イワヒバ	○				NT	
5		ミズニラ	ミズニラ	○			NT	VU	希少
6		ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ	○				VU	
7		コバノイシカグマ	オウレンシダ	○				VU	希少 <sup>*1</sup>
8			オオフジシダ	○				NT	
9		シノブ	シノブ	○				NT	
10		シシラン	タキミシダ	○			EN	CR+EN	特定
11		チャセンシダ	ヌリトラノオ	○				NT	
12			カミガモシダ	○				NT	
13		シシガシラ	オサシダ	○				NT	
14			ミヤマシシガシラ	○				VU	希少
15		オシダ	ミヤコヤブソテツ	○				VU	希少
16			ハチジョウベニシダ	○				NT	
17			キヨズミオオクジャク	○				VU	希少 <sup>*2</sup>
18			ツルデンダ	○				VU	
19		メシダ	シマイヌワラビ	○			CR	CR+EN	希少
20			イッポンワラビ	○				CR+EN	希少
21			イワヤシダ	○				NT	
22			フクロシダ	○				VU	
23			イワデンダ	○				NT	
24		ウラボシ	サジラン	○				NT	
25			クリハラン	○				NT	希少
26			アオネカズラ	○				VU	希少
27			ビロードシダ	○				VU	希少
28	裸子植物	イチイ	イチイ	○			OT		
29	離弁花類	ニレ	コバノチョウセンエノキ	○			VU		
30		ビャクダン	ツクバネ	○			NT		
31		タデ	ハルトラノオ	○				NT	
32			ナガバノウナギツカミ	○			NT		
33			ノダイオウ	○			VU	VU	希少
34		キンボウゲ	ユキワリイチゲ	○				VU	希少
35			キクザキイチゲ	○				NT	
36			アズマイチゲ	○				NT	
37			リュウキンカ	○				VU	希少
38			トリガタハンショウヅル	○				VU	希少
39			バイカオウレン	○				VU	希少
40			サンインシロカネソウ	○				OT	
41			ミスミソウ	○			NT	VU	希少
42		バイカモ	○				CR+EN		
43		メギ	サンカヨウ	○				NT	
44		スイレン	コウホネ	○				NT	
45			ヒツジグサ	○				NT	
46		ドクダミ	ハンゲショウ	○				NT	
47		ウマノスズクサ	マルバウマノスズクサ	○			VU	VU	希少
48			フタバアオイ	○				NT	
49			ウスバサイシン	○				NT	
50			ミヤマアオイ	○				VU	

第 3.1-37 表 (2) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市	選定基準					
				鳥取市	①	②	③	④	⑤	
51	離弁花類	ボタン	ヤマシャクヤク	○			NT	NT		
52		ツバキ	ハマヒサカキ	○				NT		
53		アブラナ	コイヌガラシ	○			NT	NT		
54		ベンケイソウ	メノマンネングサ	○				NT		
55			アズマツメクサ	○			NT	CR+EN		
56		ユキノシタ	オオシラヒゲソウ	○				VU	特定	
57			ウメバチソウ	○				NT		
58			バイカウツギ	○				NT		
59			ヤシヤビシヤク	○			NT	NT		
60		バラ	オニシモツケ	○				NT		
61			オオウラジロノキ	○				NT		
62			イヌザクラ	○				NT		
63			リンボク	○				VU	希少	
64			ハマナス	○				VU	希少	
65			マメ	フジキ	○				VU	希少
66		カタバミ	ヒヨウノセンカタバミ	○				OT		
67		ハマビシ	ハマビシ	○			EN			
68		トウダイグサ	ナツトウダイ	○				NT		
69		ミカン	コクサギ	○				NT		
70			フユザンショウ	○				NT		
71		カエデ	アサノハカエデ	○				NT		
72		ジンチョウゲ	コショウノキ	○				VU	希少	
73		グミ	マメグミ	○				VU		
74		スマレ	ツルタチツボスマレ	○				NT		
75			アカネスマレ	○				NT		
76			イソスマレ	○			VU	VU		
77			ヒゴスマレ	○				NT		
78		ヒシ	ヒメビシ	○			VU			
79		アカバナ	エゾミズタマソウ	○			VU	CR+EN		
80		セリ	オオハナウド	○				NT		
81		合弁花類	イワウメ	イワウチワ	○				NT	
82			ツツジ	ダイセンミツバツツジ	○				OT	
83				バイカツツジ	○				NT	
84				アラゲナツハゼ	○				VU	
85			カキノキ	リュウキュウマメガキ	○				NT	
86			マチン	ホウライカズラ	○				VU	希少
87			ミツガシワ	ミツガシワ	○				VU	希少
88			ガガイモ	フナバラソウ	○			VU	VU	希少
89				スズサイコ	○			NT	VU	希少
90			アカネ	ホソバオオアリドオシ	○				NT <sup>**3</sup>	
91				オオバノヨツバムグラ	○				NT	
92				サツマイナモリ	○				NT	
93			ヒルガオ	マメダオシ	○			CR		
94			ムラサキ	スナビキノソウ	○				NT	
95			シソ	ジャコウソウ	○				NT	
96				タジマタムラソウ	○			VU	NT	希少
97				ヒメナミキ	○				VU	
98				ナミキソウ	○				NT	
99			ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ	○			VU	NT	希少
100				スズメハコベ	○			VU	CR+EN	希少

第 3.1-37 表 (3) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市	選定基準						
				鳥取市	①	②	③	④	⑤		
101	合弁花類	ゴマノハグサ	オオバミヅホオズキ	○				CR+EN	希少		
102			サンインクワガタ	○				OT			
103			カワヂシャ	○				NT	NT		
104			ナンゴククガイソウ	○				VU	NT		
105		イワタバコ	イワギリソウ	○			VU	VU	特定		
106		ハマウツボ	ハマウツボ	○			VU	VU			
107		タヌキモ	コウシンソウ	○			VU				
108			イヌタヌキモ	○			NT	VU	希少		
109		キキョウ	サワギキョウ	○				NT			
110			キキョウ	○			VU	NT			
111		キク	チョウジギク	○				VU	希少		
112			シマカンギク	○				OT			
113			ワカサハマギク	○				NT	VU	希少	
114			フジバカマ	○				NT	EW	希少	
115			ハマベノギク	○					NT		
116			カセンソウ	○					NT		
117			ヤマザトタンポポ	○				NT	NT		
118			カンサイタンポポ	○					NT		
119			クシバタンポポ	○					NT		
120				オナモミ	○				VU		
121	単子葉植物	オモダカ	マルバオモダカ	○			VU	CR+EN	希少		
122			アギナシ	○				NT	VU	希少	
123		トチカガミ	ミズオオバコ	○				VU	CR+EN	希少	
124		ヒルムシロ	カワツルモ	○				NT	CR+EN	希少	
125		ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	○				VU	CR+EN		
126		ユリ	カタクリ	○					NT	希少	
127			キバナノアマナ	○					VU	希少	
128			タケシマラン	○						VU	希少
129			ハナゼキショウ	○						CR+EN	特定
130			バイケイソウ	○					NT		
131		ヒガンバナ	オオキツネノカミソリ	○					NT		
132		アヤメ	ヒオウギ	○					NT		
133			カキツバタ	○				NT	NT		
134		イネ	イワタケソウ	○					NT		
135		サトイモ	ウラシマソウ	○					NT		
136			ザゼンソウ	○					NT		
137		ミクリ	オオミクリ	○				VU			
138			ミクリ	○				NT	NT	希少	
139			ナガエミクリ	○				NT	VU	希少	
140			ヒメミクリ	○				VU	CR+EN	希少	
141		カヤツリグサ	ウキヤガラ	○					NT <sup>**4</sup>		
142			エゾウキヤガラ	○					NT		
143			ダイセンスゲ	○					OT		
144			ケスゲ	○					DD		
145			ヒロバスゲ	○					VU		
146			サンインヒエスゲ	○					NT		
147			サツマスゲ	○					VU	希少	
148			オタルスゲ	○					NT		
149			コマツカサスキ	○					VU		
150			ヒナラン	○				EN	CR+EN	特定	
151		ムギラン	○				NT	CR+EN	希少		

第 3.1-37 表 (4) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市	選定基準					
				鳥取市	①	②	③	④	⑤	
152	単子葉植物	ラン	エビネ	○			NT	NT	希少	
153			ナツエビネ	○			VU	NT	希少	
154			ユウシュンラン	○			VU	CR+EN	特定	
155			キンラン	○			VU	VU	希少	
156			トケンラン	○			VU	CR+EN	特定	
157			イチヨウラン	○				CR+EN	希少	
158			セッコク	○				VU	特定	
159			クロヤツシロラン	○					NT	
160			ツリシュスラン	○					CR+EN	希少
161			ミヤマウズラ	○					NT	
162			サギソウ	○				NT	CR+EN	特定
163			ミズトンボ	○				VU	VU	希少
164			ホクリクムヨウラン	○					VU	
165			クモキリソウ	○					NT	
166			コ克蘭	○					NT	
167			フウラン	○				VU	VU	希少
168			ヨウラクラン	○					CR+EN	特定
169			ジンバイソウ	○					NT	
170			ミズチドリ	○					CR+EN	希少
171			トキソウ	○				NT	VU	希少
172	カヤラン	○					CR+EN	特定		
173	ショウキラン	○					NT			
合計	5 類	71 科	173 種	173 種	0 種	0 種	56 種	165 種	65 種	

注：1. 種名については「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

2. 選定基準は、第 3.1-36 表に対応する。

※1：オオレンシダで掲載、※2：キヨスミオオクジャクで掲載、

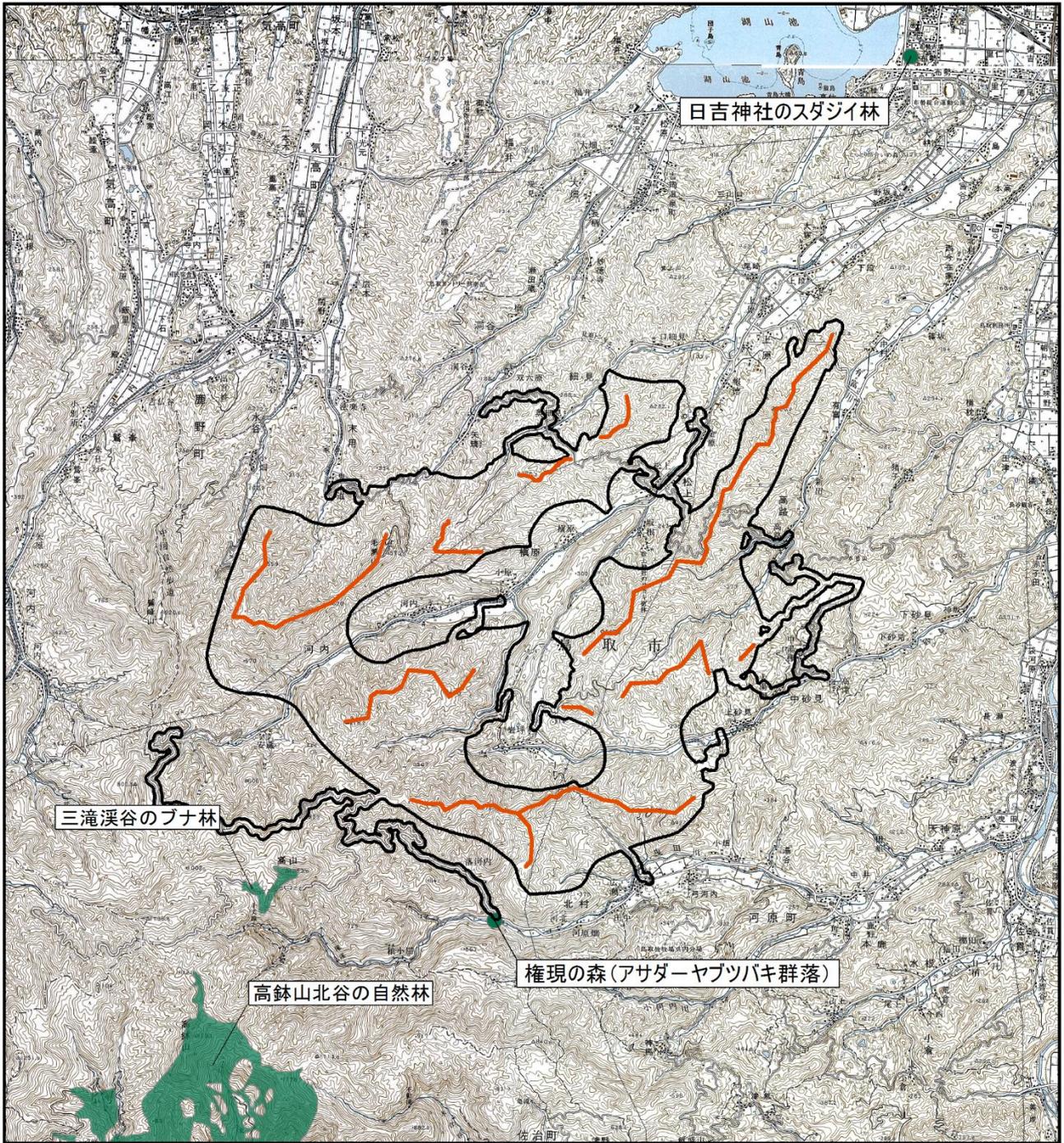
※3：ホソバオオアリドオシ（ホソバニセシュズネノキ）で掲載、※4：コウキヤガラで掲載

第 3.1-38 表 重要な植物群落

所在市町	名称	選定基準		
		⑥		⑦
		ランク	面積 (ha)	ランク
鳥取市	日吉神社のスダジイ林	E	0.5ha	1
	権現の森 (アサダーヤブツバキ群落)	E、H	0.8ha	1
	松上神社のスダジイ・サカキ林	-	-	1
	矢矯神社社叢	-	-	1
	ハマゴウ群落	-	-	3
	オニシバ群落	-	-	3
	ケカモノハシ群落	-	-	3
	コウボウシバ群落	-	-	3
	ネコノシタ群落	-	-	3
	ハマヒルガオ群落	-	-	3
	大野見倉弥命神社社叢	-	-	1
鳥取市 (旧河原町)	三滝溪谷のスギ・シヤクナゲ群落	-	-	1
	三滝溪谷のブナ林	A、G	不明	1
鳥取市 (旧佐治村)	高鉢山北谷の自然林	A	不明	1
鳥取市 (旧鹿野町)	鷲峰神社社叢	-	-	1
三朝町	三国山のブナ林	-	-	-

注：選定基準は、第 3.1-36 表に対応する。

「第 2 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」(環境庁、昭和 54 年)  
 「第 3 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」(環境庁、昭和 63 年)  
 「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」(環境庁、平成 12 年)  
 「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成 8 年)  
 より作成



<p><b>凡 例</b></p> <p>○ 対象事業実施区域</p> <p>— 風力発電機の設置予定範囲</p> <p>■ } 特定植物群落</p>	<p>1:100,000</p> <p>0 2 4 km</p>
<p>「第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」 (環境庁、昭和54年)</p> <p>「第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」 (環境庁、昭和63年)</p> <p>「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」 (環境庁、平成12年)</p> <p style="text-align: right;">より作成</p>	

第 3.1-29 図 重要な植物群落の分布位置

#### (4) 巨樹・巨木林・天然記念物

対象事業実施区域及びその周囲の植物に係る天然記念物を第 3.1-39 表に、巨樹・巨木林は第 3.1-40 表のとおりである。また、それぞれの分布位置は第 3.1-30 図のとおりである。

対象事業実施区域の周囲には、国指定 2、県指定 7、計 9 の天然記念物が分布している。また、「巨樹・巨木林データベース」（環境省 HP、閲覧：平成 30 年 1 月）によると、対象事業実施区域の周囲には、樹林 1、並木 1、単木 22、区分不明 51、計 75 の巨樹・巨木林が分布している。

第 3.1-39 表 天然記念物（植物関係）

市	指定	所在地	指定年月日	所在の場所
鳥取市	国	大野見宿禰命神社	昭和 9 年 8 月 9 日	鳥取市徳尾
	国	松上神社のサカキ樹林	昭和 19 年 3 月 7 日	鳥取市松上
	県	長瀬の大シダレザクラ	昭和 34 年 6 月 5 日	鳥取市河原町長瀬
	県	落河内の大キリシマ	昭和 32 年 2 月 6 日	鳥取市河原町北村
	県	落河内のカツラ	昭和 48 年 3 月 30 日	鳥取市河原町北村
	県	桂見の「二十世紀」ナシ親木	昭和 60 年 2 月 22 日	鳥取市桂見
	県	田岡神社のツバキ樹林	昭和 48 年 3 月 30 日	鳥取市佐治町津無
	県	矢矯神社社叢	昭和 31 年 3 月 6 日	鳥取市矢矯
	県	弓河内の大シダレザクラ	昭和 30 年 9 月 6 日	鳥取市河原町弓河内

「とっとり文化財ナビ」（鳥取県 HP、閲覧：平成 30 年 1 月）

「国土数値情報 指定文化財データ」（国土数値情報 ダウンロードサービス HP、閲覧：平成 30 年 1 月）

より作成

第 3.1-40 表(1) 巨樹・巨木林

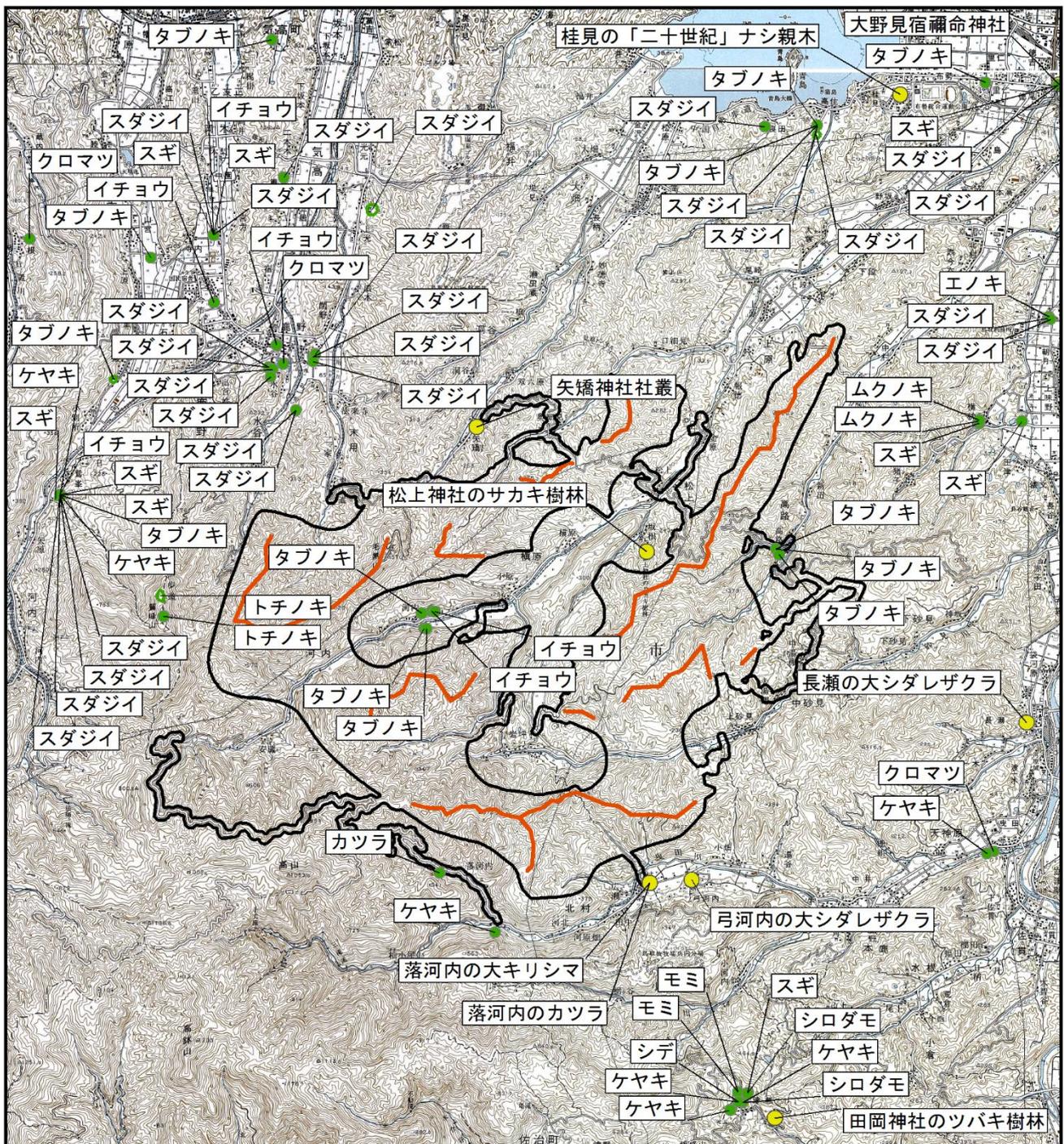
市町村	区分	名称・所在地	樹種	樹幹 (cm)	樹高 (m)	
鳥取市	—	荒神むく	ムクノキ	720	30	
	—	お富の杉	スギ	390	29	
	—	—	スダジイ	330	10	
	—	—	エノキ	450	17	
	—	—	タブノキ	320	10	
	—	—	タブノキ	350	23	
	—	—	スダジイ	320	11	
	—	—	スダジイ	660	20	
	—	荒田神社内	スダジイ	460	20	
	—	冬を知らせる木	イチョウ	500	30	
	—	荒神さん	タブノキ	580	16	
	—	—	タブノキ	330	20	
	—	—	タブノキ	380	30	
	—	—	タブノキ	400	30	
	単木	甲山神社内	タブノキ	500	12	
	—	—	スギ	350	20	
	—	—	スダジイ	340	20	
	単木	河内荒神内	タブノキ	580	16	
	単木	正福寺内	イチョウ	500	30	
	樹林	高路神社内	タブノキ	380	30	
	単木	近藤伝一宅内	ムクノキ	720	30	
	単木	玉屋神社内	スギ	390	30	
	単木	下味野神社内	スダジイ	330	10	
	—	北野神社内	スダジイ	-	-	
	—	大野見宿示雨命神社内	スダジイ	-	-	
	鳥取市 (旧河原町)	単木	落河内	カツラ	1290	30
		単木	北村	ケヤキ	345	30
		単木	曳田	クロマツ	345	25
		単木	曳田	ケヤキ	315	30
鳥取市 (旧佐治村)	—	—	ケヤキ	560	0	
	—	—	シロダモ	440	0	
	—	—	モミ	360	20	
	—	上津無ミイカチ	モミ	370	20	
	—	—	シロダモ	380	20	
	—	上津無	スギ	390	20	
	—	上津無	ケヤキ	480	20	
	—	—	シデ	320	20	
	並木	上津無山の神	ケヤキ	540	0	
鳥取市 (旧気高町)	単木	日光	タブノキ	650	15	
	単木	山宮	タブノキ	720	15	
	単木	重高	スダジイ	350	20	

「第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境庁、平成 3 年)  
 「第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境省、平成 11-12 年)  
 より作成

第 3.1-40 表(2) 巨樹・巨木林

市町村	区分	名称・所在地	樹種	樹幹 (cm)	樹高 (m)
鳥取市 (旧鹿野町)	-	-	スダジイ	320	0
	-	-	スダジイ	305	0
	-	-	スダジイ	560	0
	-	-	スダジイ	450	0
	単木	幸盛寺	イチョウ	610	34
	-	松泉寺	イチョウ	380	20
	-	-	イチョウ	350	25
	-	-	スギ	520	40
	-	-	スギ	415	40
	-	-	スダジイ	400	15
	-	-	スダジイ	330	15
	-	-	スギ	360	25
	-	-	スギ	360	25
	-	-	ケヤキ	390	25
	-	-	スダジイ	320	20
	-	-	イチョウ	330	20
	-	-	ケヤキ	310	25
	-	-	スダジイ	360	25
	-	-	スダジイ	420	25
	-	-	スダジイ	420	25
	-	-	タブノキ	330	25
	単木	住吉神社	スダジイ	500	20
	単木	住吉神社	スダジイ	305	20
	-	-	トチノキ	0	0
	単木	観世音寺山	スダジイ	310	0
	単木	光輪寺	スダジイ	410	0
	-	殿	タブノキ	-	-
	-	加美美都神社	スダジイ	-	-
	単木	光輪寺	スダジイ	410	0
	単木	観世音寺山	スダジイ	310	0
	単木	二ノ丸	クロマツ	330	25
-	鷹峰山	トチノキ	-	-	
-	鷹峰神社	スギ	-	-	
鳥取市(旧青谷町)	単木	山根	クロマツ	335	25

「第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境庁、平成 3 年)  
 「第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境省、平成 11-12 年)  
 より作成



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  } 巨樹・巨木林
-  天然記念物

1:100,000

0 2 4 km



「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP、閲覧：平成 30 年 1 月)  
 「国土数値情報 指定文化財データ」(国土数値情報 ダウンロードサービス HP)  
 第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査 (環境庁、平成 3 年)  
 「第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境省、平成 11-12 年)

より作成

第 3.1-30 図 巨樹・巨木林・天然記念物の位置

### 3. 生態系の状況

#### (1) 環境類型区分

対象事業実施区域及びその周囲の環境類型区分の概要を第 3.1-41 表に、その分布状況は第 3.1-31 図のとおりである。

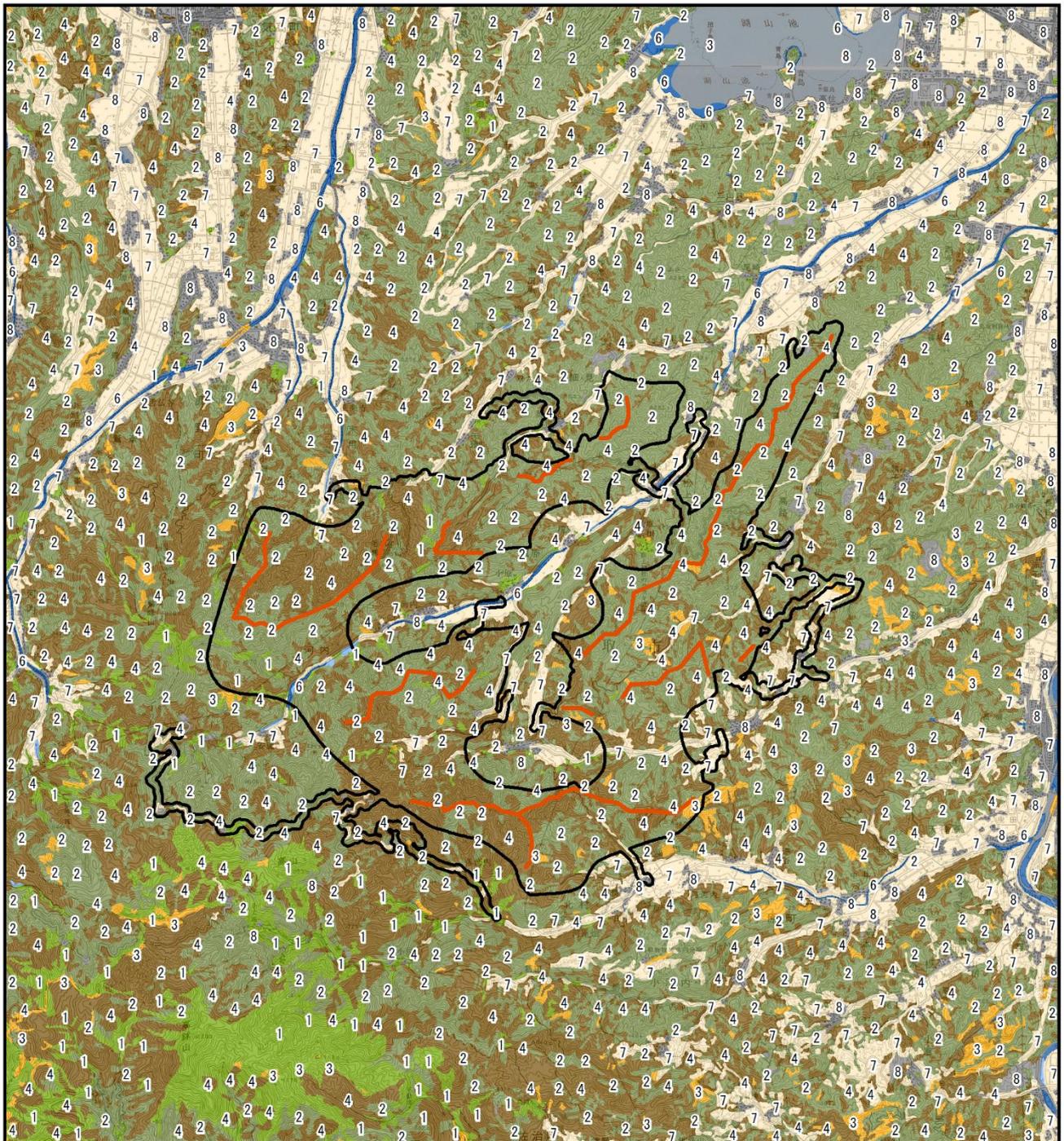
対象事業実施区域及びその周囲の地形は、主に山地の起伏状山地等と谷底平野の低地からなり、植生区分との対応関係より、山地自然林、山地二次林、草原・伐採跡地等、植林地、湿地林、河川・湖沼、耕作地等、市街地等の 8 つの環境類型区分に分類される。山地の大部分は、山地二次林、植林地であり、低地は、耕作地等、市街地等が広がっている。

また、対象事業実施区域の環境類型区分は主に山地二次林、植林地であり、一部に草原・伐採跡地等の分布が認められる。

第 3.1-41 表 環境類型区分の概要

類型区分	主な地形	植生区分
山地自然林	山地丘陵地	落葉広葉樹林（日本海型）（クロモジブナ群集）、落葉広葉樹林（太平洋型）（イヌシデーアカシデ群落）、溪畔林（ジュウモンジシダーサワグルミ群集、ケヤキ群落（IV））、常緑広葉樹林（スダジイ群落、タブノキ群落）、落葉広葉樹林（ケヤキ群落（VI）、イヌシデーアカシデ群落（VI））
山地二次林		落葉広葉樹二次林（ブナーミズナラ群落、クレーミズナラ群集、コナラ群落（V））、常緑針葉樹二次林（アカマツ群落（V））、常緑広葉樹二次林（シイ・カシ二次林）、落葉広葉樹二次林（コナラ群落（VII）、アカシデーイヌシデ群落（VII））、常緑針葉樹二次林（アカマツ群落（VII））、低木群落
草原・伐採跡地等		二次草原（ササ群落（V））、伐採跡地群落（V）、タケ・ササ群落（タケ・ササ群落、メダケ群落）、低木群落（クズ群落）、二次草原（ススキ群団（VII））、伐採跡地群落（VII）
植林地		植林地（スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、クロマツ植林、ニセアカシア群落、その他植林、オオバヤシヤブシ植林）、竹林
湿生林	低地	河辺林（ヤナギ高木群落（VI）、ヤナギ低木群落（VI））
河川・湖沼		湿原・河川・池沼植生（ヨシクラス、ツルヨシ群集、オギ群集、ヒルムシロクラス）
耕作地等		牧草地・ゴルフ場・芝地（ゴルフ場・芝地、牧草地）、耕作地（路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落、放棄水田雑草群落）
市街地等		市街地等（市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、工場地帯、造成地、開放水域、自然裸地）

注：植生区分は現存植生図（第 3.1-28 図参照）による。



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  1 山地自然林
-  2 山地二次林
-  3 草原・伐採跡地等
-  4 植林地
-  5 湿性林
-  6 河川・湖沼
-  7 耕作地等
-  8 市街地等

1:100,000

0 2 4 km



「第 6-7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 (1/25,000 縮尺)」(環境省、平成 21 年) 1/25,000 植生図「浜村」「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」の GIS データ

より作成

第 3.1-31 図 環境類型区分

## (2) 生態系の概要

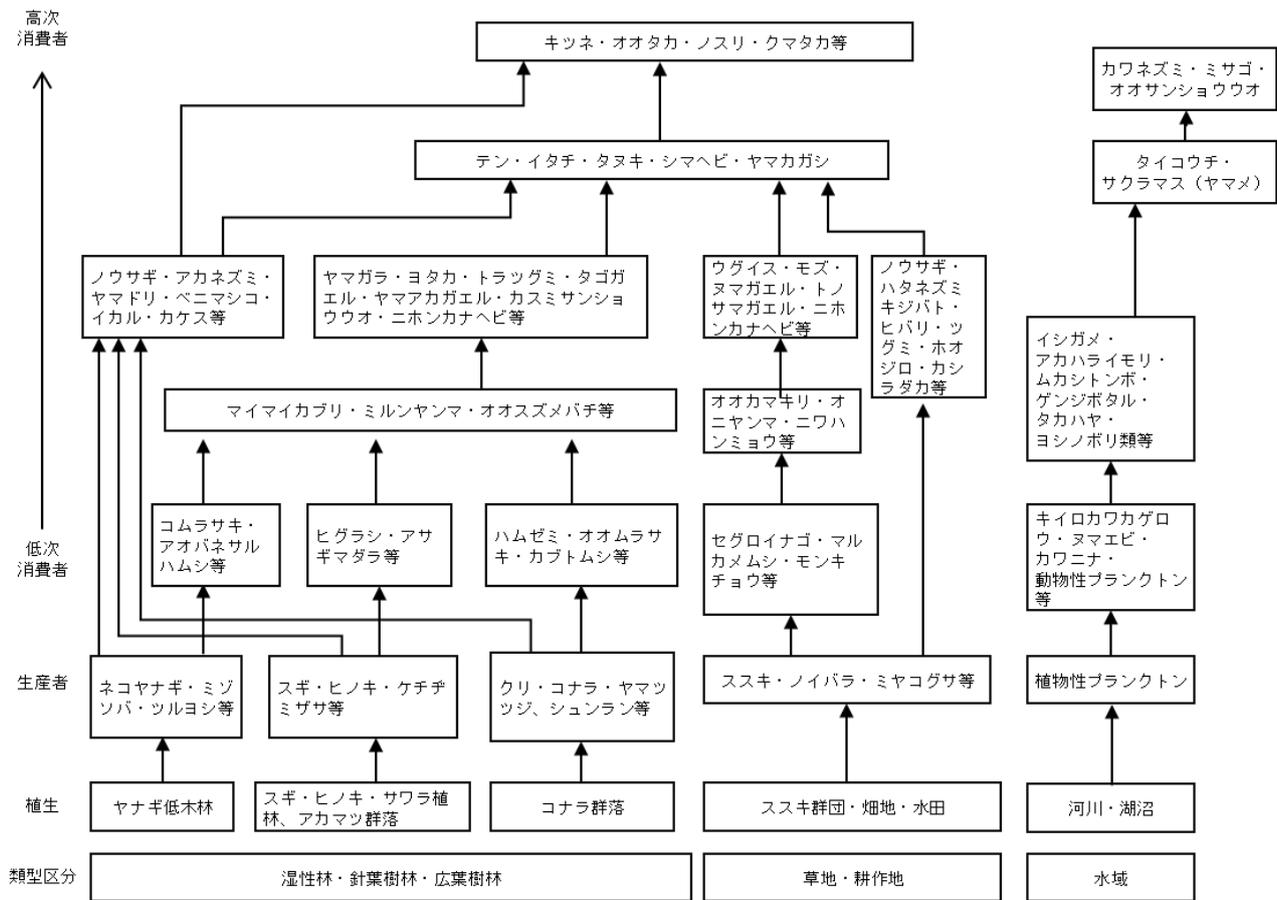
地域の生態系（動植物群）を総合的に把握するために、文献その他の資料により確認された対象事業実施区域周囲の環境及び生物種より、生物とその生息環境の関わり、また、生物相互の関係について代表的な生物種等を選定し、第 3.1-32 図の食物連鎖の概要として整理した。

対象事業実施区域西側の鷲峰山頂付近には、自然植生のクロモジブナ群集、ケヤキ群落（Ⅵ）代償植生のブナーミズナラ群落、コナラ群落（Ⅴ）が分布しており、代償植生の伐採跡地群落（Ⅴ）、伐採跡地群落（Ⅶ）も一部に分布している。

対象事業実施区域南西側の高鉢山一帯は、ブナクラス域が主となっており、自然植生のクロモジブナ群集や代償植生のブナーミズナラ群落が広く分布し、自然植生のイヌシデアカシデ群落、ジュウモンジサワグルミ群集、代償植生のササ群落（Ⅴ）、アカマツ群落（Ⅴ）が点在している。その他にも、植林地であるスギ・ヒノキ・サワラ植林も広く分布している。対象事業実施区域にはヤブツバキクラス域代償植生のアカマツ群落（Ⅶ）、コナラ群落（Ⅶ）や、植林地、耕作地植生であるスギ・ヒノキ・サワラ植林、水田雑草群落が多く分布する。また、小面積ではあるが、自然植生のスタジイ群落、ケヤキ群落（Ⅵ）が点在している。これらのことから対象事業実施区域及びその周囲の生態系は、陸域である樹林地環境、草地環境及び水域であるため池を基盤として成立しているものと考えられる。

陸域の生態系では、スギ・ヒノキ・サワラ植林、コナラ群落に生育する植物を生産者として、第一次消費者としてはバッタ類やチョウ類等の草食性の昆虫類や、ノウサギ等の草食性の哺乳類が、第二次消費者としてはカマキリ類やオサムシ類やトンボ類等の肉食性昆虫類等が存在する。また、第三次消費者としてはカラ類やカケス等の鳥類、カエル類等の両生類が、第四次消費者としては、テン等の哺乳類やヘビ類等の爬虫類が存在すると考えられる。さらに、これらを餌とする消費者として、キツネ等の哺乳類やオオタカやノスリ等の猛禽類やキツネ等の中型哺乳類が存在する。

水域の生態系では、植物性プランクトンを生産者として、第一次消費者としてはカゲロウ類等の草食性の昆虫類やカワニナ類の貝類が、第二次消費者として、昆虫類などを捕食するイシガメ等の爬虫類やトンボ類等の昆虫類やタカハヤ等の魚類が存在する。また第三次消費者としては、昆虫類のタイコウチや魚類のウグイが存在すると考えられる。さらに、これらを餌とする最上位の消費者として、哺乳類のカワネズミ、鳥類のミサゴや両生類のオオサンショウウオが存在する。



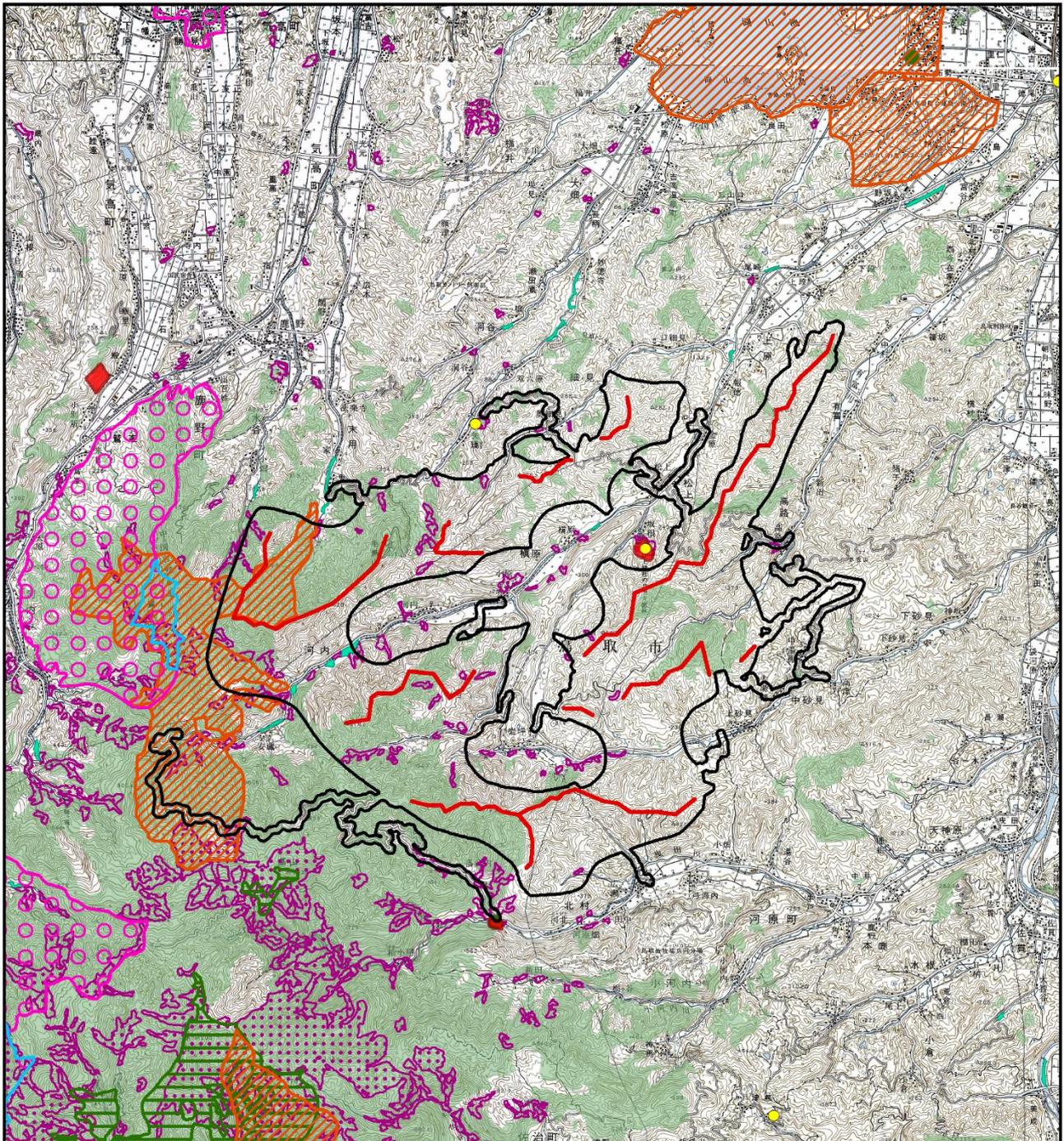
第 3.1-32 図 対象事業実施区域及びその周囲の食物連鎖の概要

### (3) 重要な自然環境のまとまりの場

対象事業実施区域及びその周囲の自然環境について、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場は第 3.1-42 表、その分布状況は第 3.1-33 図のとおりである。

第 3.1-42 表 重要な自然環境のまとまりの場の概要

No.	重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
1	自然植生	山地自然林	対象事業実施区域には、スダジイ群落、ケヤキ群落（VI）、イヌシデーアカシデ群落（VI）が分布しているほか、対象事業実施区域の周囲では、イヌシデーアカシデ群落、ジュウモンジシダーサワグルミ群集、ケヤキ群落（IV）、タブノキ群落などが分布しており、南西側に多く見られる。このうち高鉢山付近に多く分布しているクロモジブナ群集は、特定植物群落の「高鉢山北谷の自然林」に指定されている。
		湿生林	環境省植生図によるヤナギ高木群落（VI）及びヤナギ低木群落（VI）のまとまりがある湿生林である。
2	自然公園	三朝東郷湖県立公園	三朝高原、東郷池を中心に鳥取県中部、倉吉市、三朝町、湯梨浜町の東郷、羽合にまたがる範囲が指定地区となっている。三朝地区の東側は普通地区に指定されている。
		西因幡県立自然公園	因幡地区の日本海沿い及び鷲峯山を中心とした内陸部が指定区域となっている。鷲峯山頂付近のブナ自然林が特別地域に、鷲峯山と因幡地区の市街地などが普通地区に指定されている。また、鷲峯山地区は中国自然歩道のルートとなっている。
3	保安林		水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。
4	鳥獣保護区		鳥獣の保護を図るため、保護の必要があると認められる地域である。
5	特定植物群落		自然環境保全基礎調査において定められた「特定植物群落選定基準」に該当する植物群落である。
6	鳥取県自然環境保全地域	松上、北村権現、気高殿	自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要な地域として指定された区域である。
7	まとまりのある天然記念物（植物）		学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）が指定されている。そのうち単木等を除くまとまりのあるものである。



凡 例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機の設置予定範囲
- 自然公園\_特別地域
- 自然公園\_普通地域
- 自然環境保全地域
- 保安林
- 山地自然林
- 鳥獣保護区
- } 特定植物群落
- } まとまりのある天然記念物 (植物)
- 湿性林

自然植生

1:100,000



「第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、昭和54年) 「第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、昭和63年) 「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成12年) 「第6-7回自然環境保全基礎調査 植生調査 (1/25,000縮尺)」(環境省、平成21年) 1/25,000 植生図「浜村」「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」のGISデータ 「国土数値情報 自然保全地域データ」(国土数値情報 ダウンロードサービス HP) 「国土数値情報 指定文化財データ」(国土数値情報 ダウンロードサービス HP) 「国土数値情報 鳥獣保護区データ」(国土数値情報 ダウンロードサービス HP) 「国土数値情報 森林地域データ」(国土数値情報 ダウンロードサービス HP) 「国土数値情報 自然公園地域データ」(国土数値情報 ダウンロードサービス HP)

より作成

第3.1-33図 重要な自然環境のまとまりの場

### 3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

#### 1. 景観の状況

対象事業実施区域は鳥取県東部に位置しており、東部に鳥取砂丘、南に中国山地、北部には日本海がある。

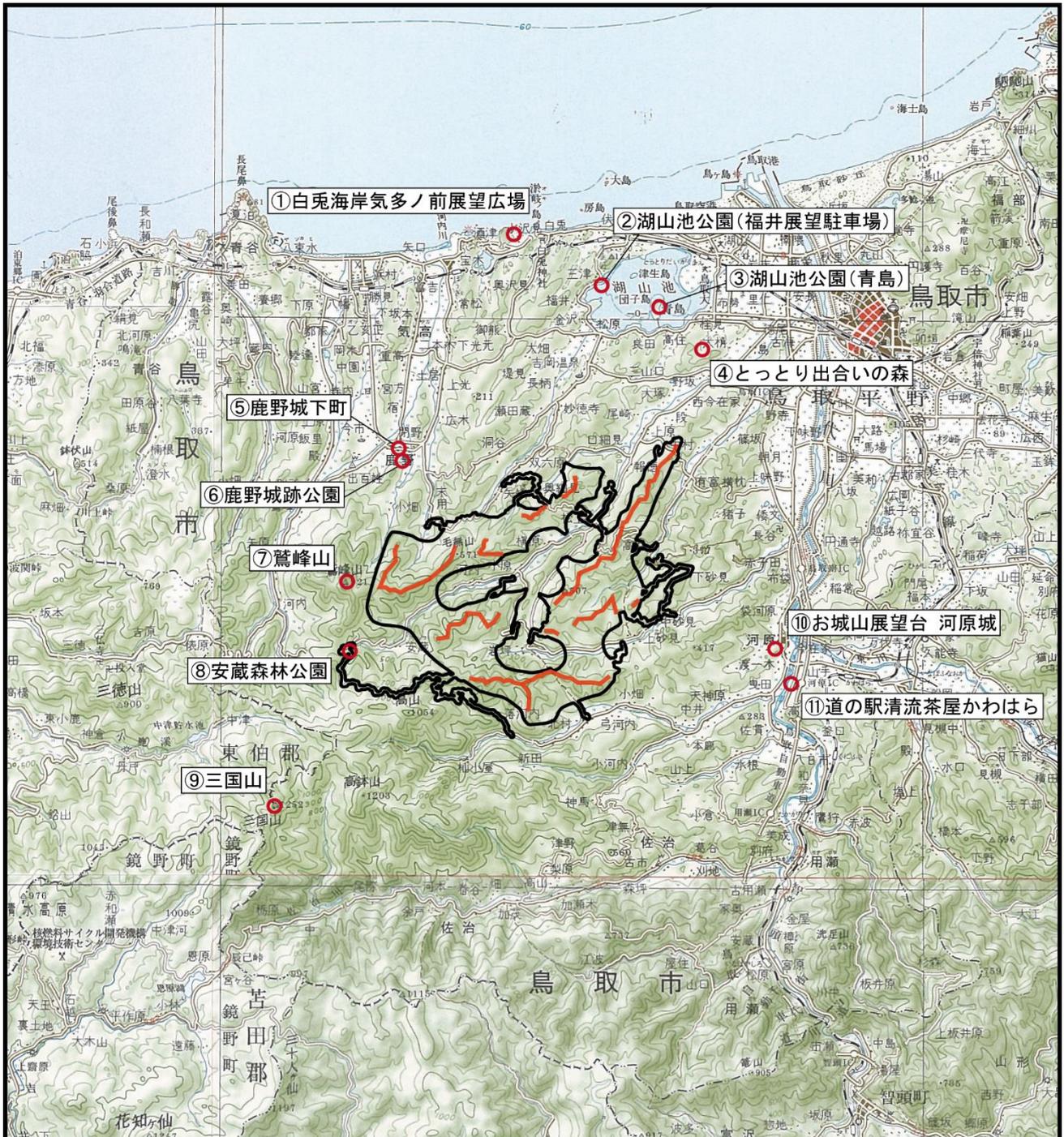
##### (1) 主要な眺望点の分布及び概要

対象事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点は、第 3.1-43 表及び第 3.1-34 図のとおりである。

第 3.1-43 表 主要な眺望点

番号	眺望点	眺望点の概要
①	白兎海岸 気多ノ前展望広場	白兎海岸の西側にある「気多ノ前（けたのさき）」にある展望広場。東側は白兎海岸から鳥取空港、鳥ヶ島、鳥取港、鳥取砂丘が見渡せ、西側は小沢見海岸から長尾鼻、天候のよい日には島根県の隠岐を見ることもできる。
②	湖山池公園 (福井展望駐車場)	湖山池の西側、福井地区にある展望駐車場。山陰海岸ジオパーク鳥取砂丘エリア内にある湖山池を取り囲む湖畔は、総合公園として整備されている。
③	湖山池公園（青島）	湖山池に浮かぶ青島では頂上の展望広場から湖山池が一望でき、正面には日本海、東側を向けば遠くに扇ノ山、河合谷高原の山並みが見え、また市内北部の町並みも見える。
④	とっとり出合いの森	77 ヘクタールの敷地内には様々な植物や樹木、そして自然を楽しむための設備が設置されている。散策コースや水遊びの広場のほか、至るところに展望台や展望デッキがある。
⑤	鹿野城下町	亀井茲矩によって天正 9 年（1581 年）に営まれた城下町である。山陰海岸ジオパーク鹿野エリア内にあり、武家屋敷のあった殿町、商人町の上町・下町、職人町などの町割が今も残っている。
⑥	鹿野城跡公園	山陰海岸ジオパーク鹿野エリア内にあり、戦国時代の山城鹿野城跡を中心にして内堀・外堀に囲まれている。天守などの建物は残っていないが、天守跡からは日本海が眺望できる。
⑦	鷲峰山	山陰海岸ジオパーク鹿野エリア内にある標高 920.6m の孤立峰。鹿野町殿口バス停から山頂を経て、鹿野町河内へ至る中国自然歩道の他、鹿野町鷲峰からの登山ルートがある。西因幡県立自然公園の展望施設に指定されている。
⑧	安蔵森林公園	高山（標高 1,050m）の中腹に広がる自然豊かな公園。山陰海岸ジオパーク安蔵・岩坪エリア内にあり、オートキャンプ場、バーベキュー、バンガロー、テニス場、スキー場など年中楽しめる。
⑨	三国山	登山歩道や展望塔が整備されている。頂上までは登山道入り口（佐治町中）から約 1 時間 30 分ほどで、展望塔からは天候がよければ湖山池や遠くの大山も望める。
⑩	お城山展望台 河原城	天守閣のテラス展望台からは、遠く鳥取砂丘や中国山地の山並みが一望できる。また、城の周辺には桜のほか、約 800 本の梅の木が植えられ、梅林公園として整備されている。
⑪	道の駅 清流茶屋かわはら	鳥取自動車道・河原 IC そばに位置する。食事処、お土産処、休憩処があり、会議・イベント等で利用できる大広間を備えた交流室やコンビニエンスストアも併設されている。

「鳥取県観光案内とっとり旅の生情報」（鳥取県観光連盟 HP）  
「とっとりし観光案内」（鳥取市観光コンベンション協会 HP）  
「観光情報」「湖山池公園」「佐治町総合支所だより」「鹿野城跡公園」（鳥取市 HP）  
「ユネスコ世界ジオパーク 山陰海岸ジオパーク」（山陰海岸ジオパーク推進協議会 HP）  
「鳥取市の山陰海岸ジオパーク情報」（鳥取市経済観光部観光コンベンション推進課  
鳥取砂丘・ジオパーク推進室）（各 HP 閲覧：平成 30 年 1 月）より作成



凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  主要な眺望点

1:200,000



「鳥取県観光案内とっとり旅の生情報」(鳥取県観光連盟 HP)、「とっとりし観光案内」(鳥取市観光コンベンション協会 HP)、「観光情報」(湖山池公園)「佐治町総合支所だより」(鹿野城跡公園) (鳥取市 HP)、「ユネスコ世界ジオパーク 山陰海岸ジオパーク」(山陰海岸ジオパーク推進協議会 HP)、「鳥取市の山陰海岸ジオパーク情報」(鳥取市経済観光部観光コンベンション推進課 鳥取砂丘・ジオパーク推進室)

(各 HP 閲覧:平成 30 年 1 月) より作成

第 3.1-34 図 主要な眺望点の状況

(2) 景観資源

「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)による景観資源は、第 3.1-44 表及び第 3.1-35 図のとおりである。対象事業実施区域の周囲には「吉岡温泉」等がある。

第 3.1-44 表(1) 景観資源

自然景観資源名	名 称
噴泉	浜村温泉
	鳥取温泉
	吉岡温泉
	湯谷温泉
	鹿野温泉
非火山性高原	黒岩高原
非火山性孤峰	駟馳山
	一ッ山
	二ッ山
	霊石山丘陵
	高鉢山
	鷲峰山
地震断層	吉岡地震断層
	鹿野地震断層
峡谷・溪谷	長柄峡谷
	松上峡谷
	三滝溪
	赤波川溪谷
	猿渡溪谷
	中津美溪谷
	三朝溪谷
	小鹿溪谷
	深山溪谷
	吾々路溪谷
	赤和瀬溪谷
滝	児落滝
	千畳滝
	亀滝
	中津美の不動滝
	山王滝
	不動滝
	虎落滝
	岩滝
	今滝
	布滝

〔「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)より作成〕

第 3.1-44 表(2) 景観資源

自然景観資源名	名 称
湖沼	多鯨ヶ池
	湖山池
湿原	岩坪湿原
砂丘	大谷砂丘
	福部砂丘
	鳥取砂丘
	湖山砂丘
	浜村砂丘
	泊砂丘
海食崖	浦富海岸海食崖
	駟馳山海食崖
	長尾鼻海食崖
	丸山崎海食崖
	尾後鼻海食崖
	泊海食崖
海食洞	菜種島の洞窟
	赤壁洞
	海賊穴

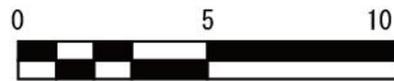
〔「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)より作成〕



凡 例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機の設置予定範囲
- 噴泉
- 湖沼
- 非火山性高原
- 湿原
- 非火山性孤峰
- 砂丘
- 地震断層
- 海食洞
- 峡谷・溪谷
- 海食洞
- 滝

1:200,000



〔「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報  
図」(環境庁、平成元年) より作成〕

第 3.1-35 図 景観資源の状況

## 2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

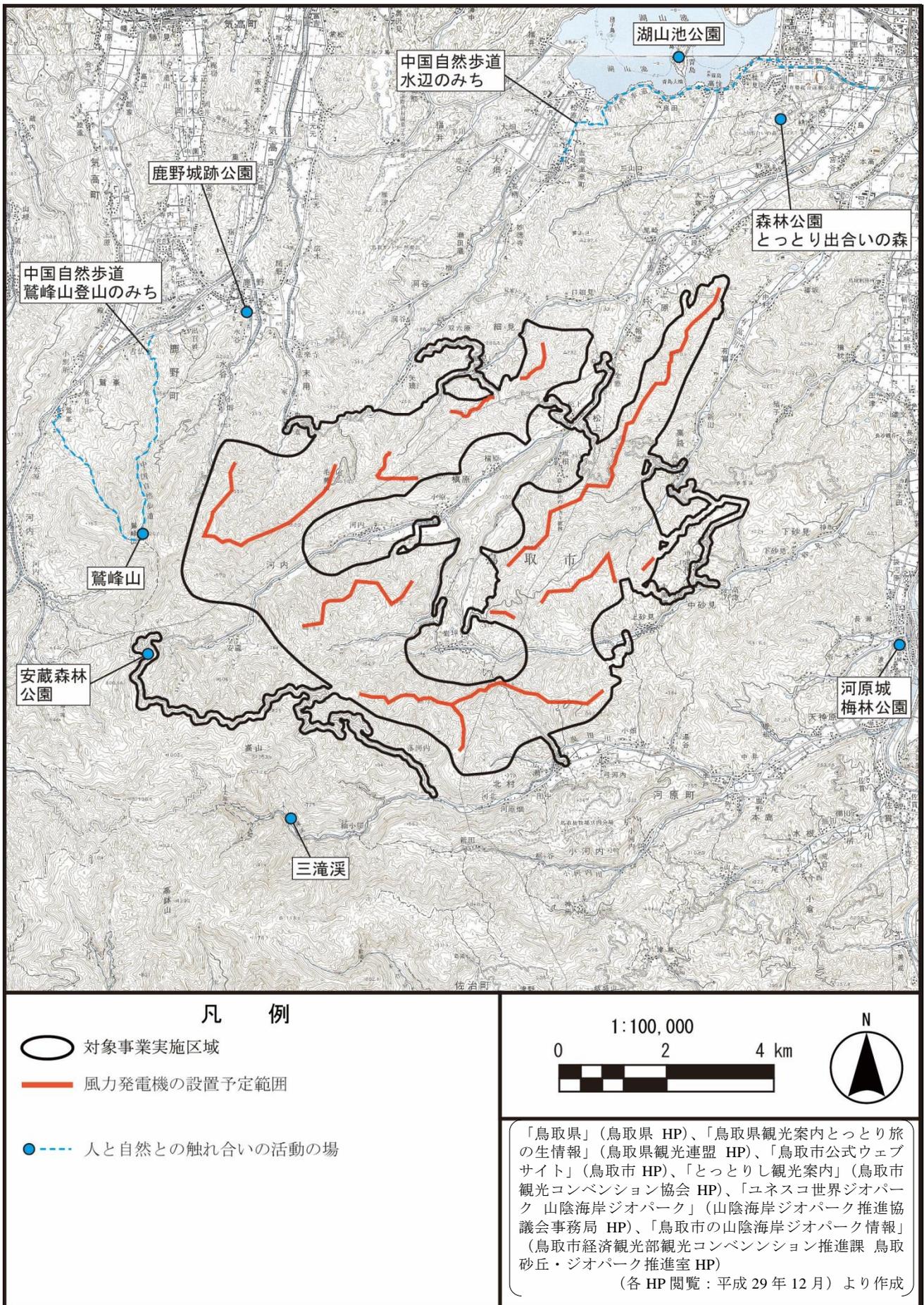
対象事業実施区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の状況は第3.1-45表及び第3.1-36図のとおりである。

第3.1-45表 人と自然との触れ合いの活動の場

名称	概要
湖山池公園	山陰海岸ジオパークエリアのジオスポットである湖山池を取り囲む総合公園。湖山池の東側には花見広場等の広場やコンセプトガーデンがある「お花畑ゾーン（愛称：湖山池オアシスパーク）」が、南側には青島大橋を渡って青島へ行くこともできる「子どもの遊びゾーン」が、西側にはプレイゾーンやレクリエーションゾーンがある「休養ゾーン」が整備されている。
森林公園 とっとり出会いの森	77haの敷地内に様々な植物や樹木、自然を楽しむための設備が設置されている森林公園。散策コースや天然の谷川の水を利用した「水遊びの広場」、自然の植栽を生かした生垣迷路「かくれんぼの広場」等を家族連れで楽しむことができる。
鹿野城跡公園	戦国時代の亀井茲矩公の居城跡で、頂上の石と内堀、外堀の石垣に、当時の面影が残っている。約500本のソメイヨシノが植えられており、「鹿野桜祭り」では桜の開花に合わせてボンボリやライトアップで桜が演出されている。
鷲峰山	西因幡県立自然公園内に位置する標高920.6mの孤立峰。名前の由来の一つは、北側から望む山頂部と東西の尾根の形が翼を広げた鷲のように見えるためと言われている。トレッキングができる歩道が整備されており、鷲峰山でしか見ることのできない花や植物も楽しむことができる。
安蔵森林公園	オートキャンプ場、バーベキュー、バンガロー、テニスコート、スキー場等、アウトドアを満喫できる公園。木工房での木工体験学習や、カフェでは安蔵名産ブルーベリーカレーも楽しむことができる。
三滝溪	千丈滝、夫婦滝、虹ヶ滝という三つの大規模な瀑布が見られることに因み、三滝溪という名が付いた。釣り堀やアスレチック、遊歩道の他、バーベキュー施設やバンガロー等も整備されている。
河原城 梅林公園	4階建ての城内には、写真・パネル・模型を使って歴史・伝説・自然・人物・産業・文化等が紹介されており、最上階の天守閣テラス展望台からは遠く鳥取砂丘や日本海まで見渡すことができる。周辺には桜や約800本の梅の木が植えられ、梅林公園として整備されている。
中国自然歩道 「鷲峰山登山のみち」 「水辺のみち」	中国自然歩道は、中国地方を一周する総延長約2,303kmの長距離自然歩道。このうち鳥取県内のコースは、延長約323.8kmある。本事業の対象事業実施区域の周囲には、「鷲峰山登山のみち（約9km）」と「水辺のみち（約9km）」が設定されている。

「鳥取県」（鳥取県 HP、閲覧：平成29年12月）  
「鳥取県観光案内とっとり旅の生情報」（鳥取県観光連盟 HP、閲覧：平成29年12月）  
「鳥取市公式ウェブサイト」（鳥取市 HP、閲覧：平成29年12月）  
「とっとりし観光案内」（鳥取市観光コンベンション協会 HP、閲覧：平成29年12月）  
「ユネスコ世界ジオパーク 山陰海岸ジオパーク」（山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局 HP、閲覧：平成29年12月）  
「鳥取市の山陰海岸ジオパーク情報」（鳥取市経済観光部観光コンベンション推進課 鳥取砂丘・ジオパーク推進室、閲覧：平成29年12月）

より作成



第 3.1-36 図 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

### 3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

鳥取県では9か所にモニタリングポストを設置し、24時間連続で空間放射線量率を測定している。対象事業実施区域の最寄りの測定地点は東方約8.4kmに位置する鳥取県庁であり、その位置は第3.1-37図のとおりである。

平成28年度の鳥取県庁における空間放射線量率は第3.1-46表のとおりであり、年平均値は0.060 $\mu$ Sv/hである。

第3.1-46表 モニタリングポストによる空間放射線量率測定結果

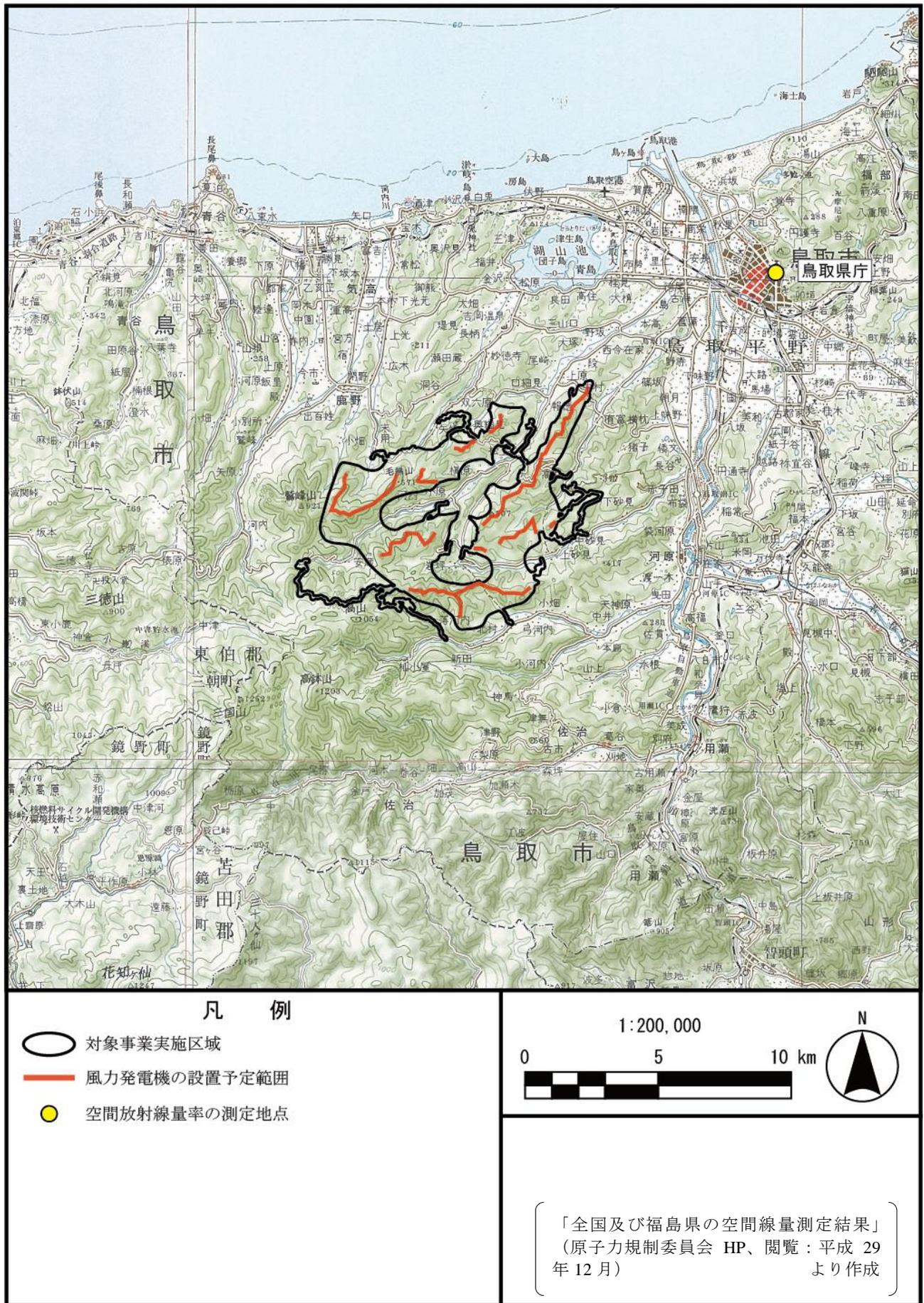
(単位： $\mu$ Sv/h)

測定期間		鳥取県庁
平成28年	4月	0.059
	5月	0.060
	6月	0.060
	7月	0.060
	8月	0.061
	9月	0.061
	10月	0.059
	11月	0.061
	12月	0.063
平成29年	1月	0.057
	2月	0.054
	3月	0.060
年平均		0.060

注：1. モニタリングポスト設置高さは、地上1mである。

2. モニタリングポストでは空気吸収線量率 $\mu$ Gy/h（マイクログレイ毎時）で測定しており、出典元では環境放射線モニタリング指針（原子力安全委員会）に基づき、1 $\mu$ Gy/h（マイクログレイ毎時）=1 $\mu$ Sv/h（マイクロシーベルト毎時）と換算し、実効線量を表示している。

〔「全国及び福島県の空間線量測定結果」（原子力規制委員会 HP）  
閲覧：平成29年12月）より作成〕



第 3.1-37 図 空間放射線量率測定地点